

子どもの携帯電話等の利用に関する調査

調査結果の概要

平成21年5月15日

文部科学省

本資料の構成

- 調査概要 2 (頁)
- 考察 3
- 回答者属性 4
- 集計結果の概要

携帯電話の所有状況と所有台数・アドレス数	7
携帯電話を持った理由	8
携帯電話を持っていない理由	9
保護者から見た所有状況、持たせた(持たせていない)理由 . . .	10
子どもの1日の平均通話時間、平均メール送受信件数	11
平日における子どもの携帯電話の利用場面	12
子どものインターネットの利用状況	13
子どものインターネットの利用目的	14
保護者が認識する子どものインターネットの利用目的	15
子どもの普段の就寝時間(携帯電話の利用状況別)	16
フィルタリングの使用状況と必要性	17
携帯電話に対する評価	18
1日の平均メール件数と携帯電話への評価(子ども)	19
携帯電話に対する評価(よい点・心配な点)(子ども)	20
携帯電話に対する評価(よい点・心配な点)(保護者)	21
インターネットの利用マナーに関する意識	22
子どもの携帯電話利用への保護者の関心・注意	23
子どもと保護者の携帯電話の利用状況	24
子どものインターネット利用状況と保護者のインターネット利用状況 .	25
携帯電話についての家庭でのルール	26
携帯電話についての家庭でのルール(子どもと保護者の比較) . .	27
家庭におけるルールについての子どもと保護者の認識の差 . . .	28
家庭におけるルールの有無と保護者の見守り姿勢(1)	29
家庭におけるルールの有無と保護者の見守り姿勢(2)	30

家庭でのルールの有無と子どもの意識(1)	31
家庭でのルールの有無と子どもの意識(2)	32
子どもの携帯電話利用への関心・注意と子どもの意識(1) . . .	33
子どもの携帯電話利用への関心・注意と子どもの意識(2) . . .	34
携帯電話の利用によるトラブル・問題行動	35
携帯電話やパソコン利用によるトラブル(携帯電話有無別) . . .	36
携帯電話やパソコン利用による問題行動(携帯電話有無別) . . .	37
携帯電話の利用によるトラブル(フィルタリング有無別)	38
家庭でのコミュニケーションの状況とトラブル時の相談相手 . .	39
トラブルの内容と相談相手	40
携帯電話やパソコンの危険性に関する学習経験(子ども)	41
携帯電話やパソコンの危険性に関する学習経験(保護者)	42
子どもの学習経験とフィルタリングの必要性の意識	43
子どもの学習経験とインターネットの利用マナー	44
保護者の学習経験とフィルタリングの使用状況	45
保護者の学習経験と携帯電話への関心・注意	46
保護者の学習経験と携帯電話に関して必要な取組	47
携帯電話の利用に関する教育の取組状況	48
ネットパトロールの実施状況と対応状況	49
今後求める取組(子どもと保護者)	50
今後求める取組(学校)	51
携帯電話の利用頻度の傾向別分析	52
都市規模別による分析	57

調査概要

1. 調査目的

子どもたちの携帯電話の利用実態や意識等について、児童生徒とその保護者及び学校を対象として調査を実施し、今後の取組を推進していくための基礎資料を得る。

2. 調査委託先：株式会社 富士通総研

3. 調査方法

(1) 調査地域 : 全国

(2) 調査期間 : 平成20年11月21日～12月15日

(3) 調査方法 : 郵送発送郵送回収法（児童生徒及びその保護者については学校経由で配布・回収）

4. 調査対象者・配布数・回収数・回収率

調査対象	配布	回収	回収率
小学校、中学校、高等学校	5,000校	2,173校	43.5%
小学6年生、中学2年生、高校2年生	16,893人	10,448人	61.8%
上記児童生徒の保護者	16,893人	9,534人	56.4%

5. 調査の実施に当たっては、以下の構成員からなる検討委員会を設けて検討を行った。

座長 小泉 カ一 (尚美学園大学芸術情報学部教授)
委員 西田 光昭 (千葉県柏市立田中小学校教頭)
藤川 大祐 (千葉大学教育学部准教授)
水木 尚充 (横浜市教育委員会小中学校教育課児童生徒指導担当指導主事)
安川 雅史 (全国webカウンセリング協議会理事長)
山田 幸久 (社団法人日本PTA全国協議会環境対策委員会副委員長) <敬称略、50音順>

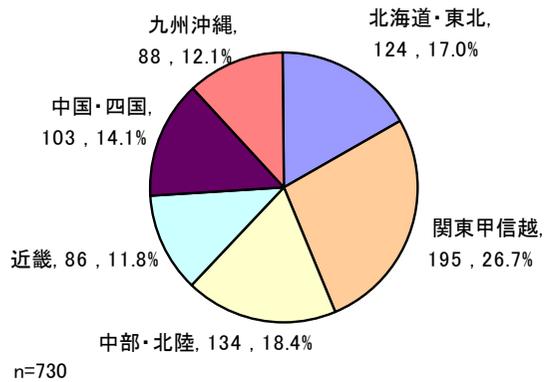
考察(主なもの)

- 携帯電話をよく使う子どもは就寝時間など生活面への影響も見られる点に、留意する必要がある。
- 携帯電話の利用に関して家庭のルールがある場合、子どもは利用マナーを身につけている割合が多い。他方で、ルールづくりが十分に行われていない家庭も見られる。
また、保護者が認識している子どものインターネット利用経験と、実際の子ども利用経験との間にギャップが見られる。
これらのことから、家庭教育支援関連施策の活用等、取組の一層の充実が望まれる。
- 小学校の段階から、携帯電話の利用について、適切な教育を行うことが望まれる。また、学校における情報モラル教育の一層の充実が望まれる。
- フィルタリングをしている子どもはしていない子どもに比べ、携帯電話に関わるトラブルを経験した割合が全般的に低くなっており、平成21年4月1日に施行された「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」の趣旨も踏まえ、フィルタリングの普及が期待される。

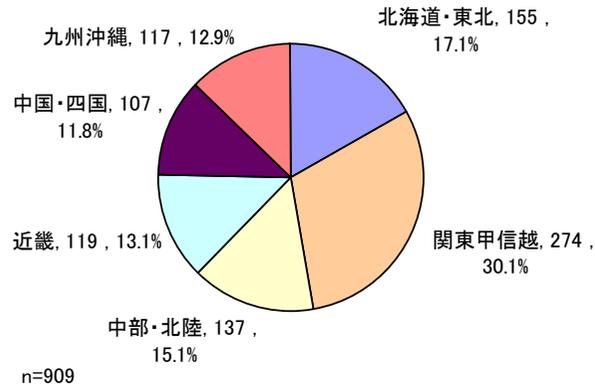
回答者属性(学校)

● 地域

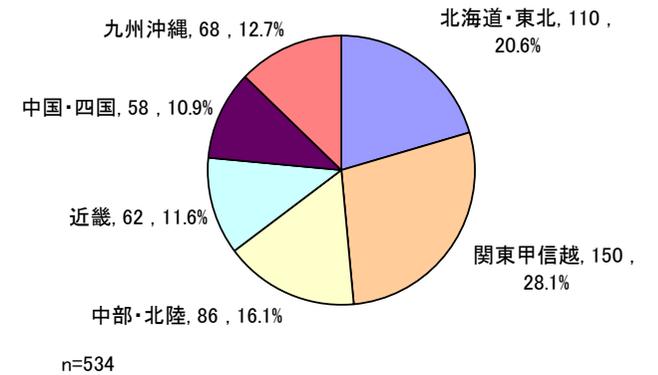
小学校



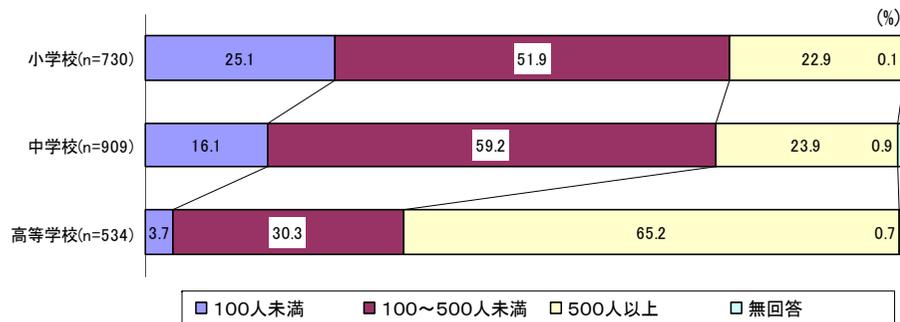
中学校



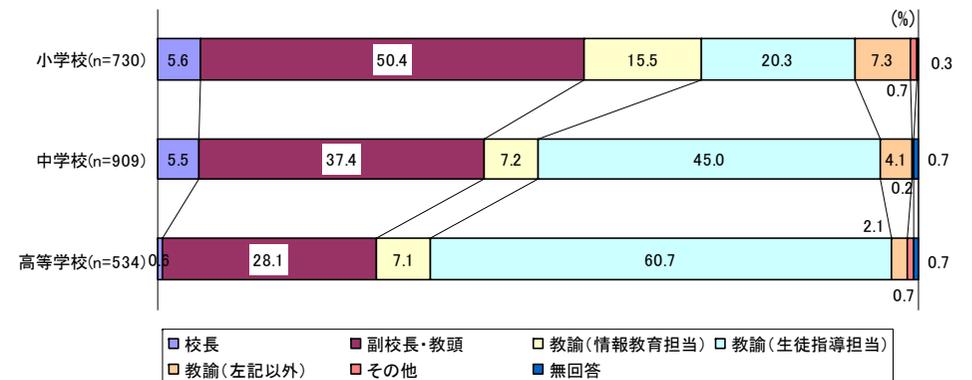
高等学校



● 全校児童生徒数別



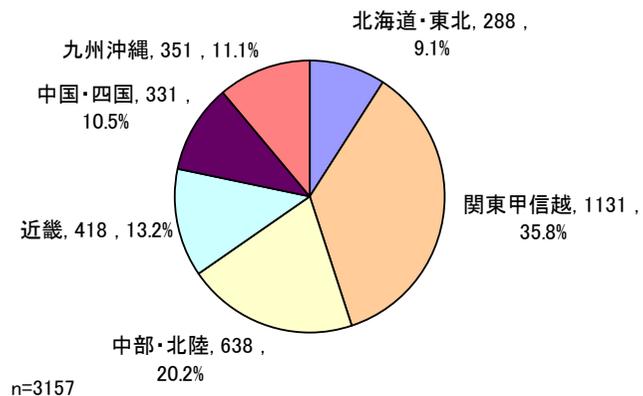
● 記入者役職



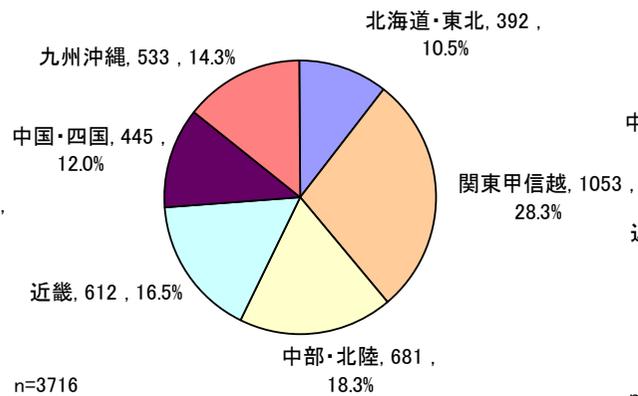
回答者属性(児童生徒)

● 地区別

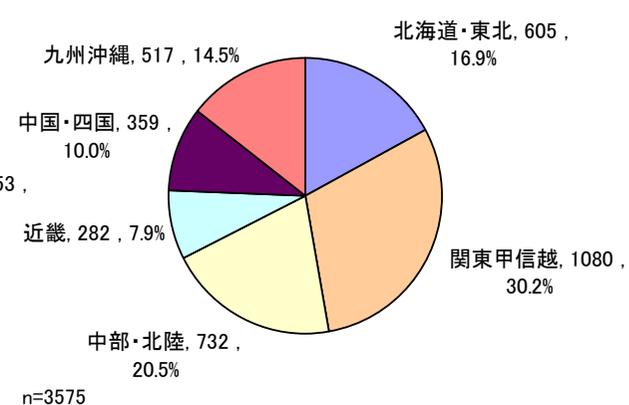
小学6年生



中学2年生

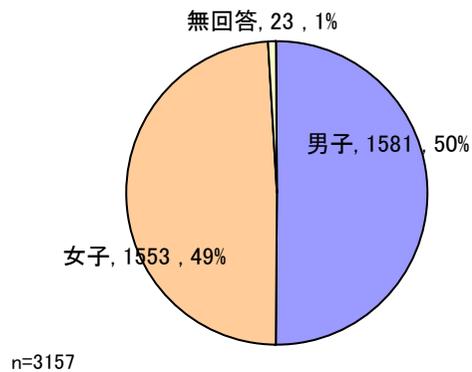


高校2年生

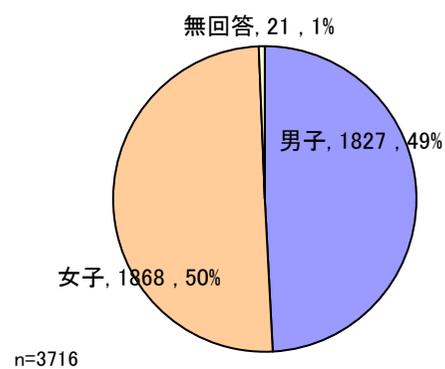


● 性別

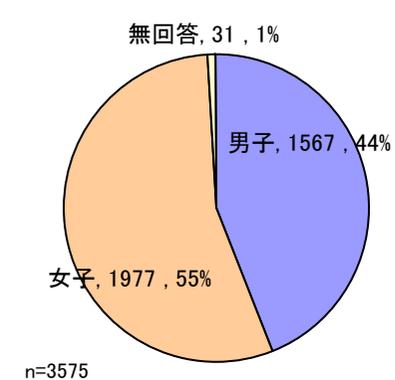
小学6年生



中学2年生



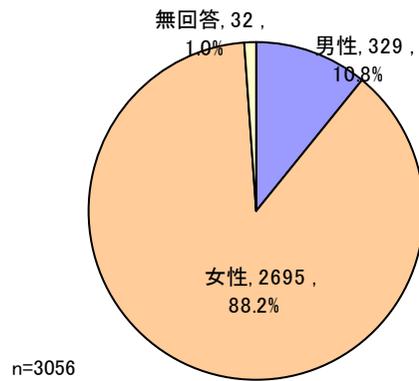
高校2年生



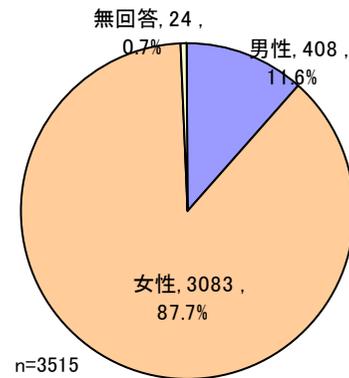
回答者属性(保護者)

● 性別

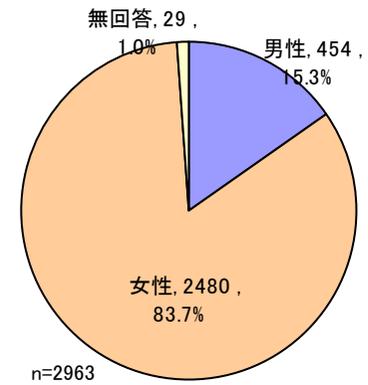
小学6年生の保護者



中学2年生の保護者



高校2年生の保護者

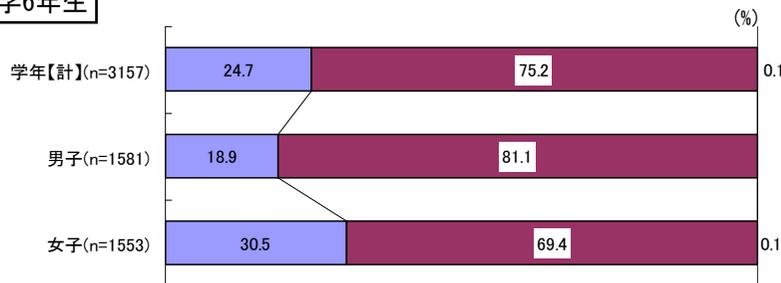


携帯電話の所有状況と所有台数・アドレス数

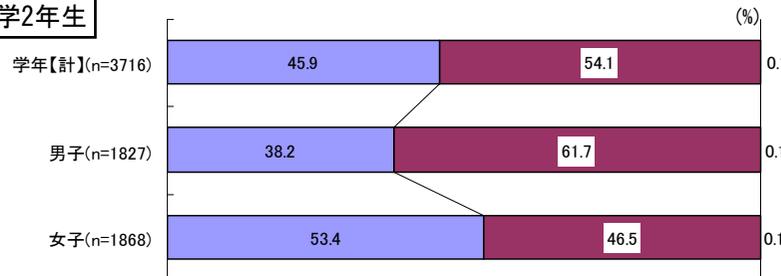
● 携帯電話の所有状況

・ 小6の24.7%、中2の45.9%、高2の95.9%が所有。

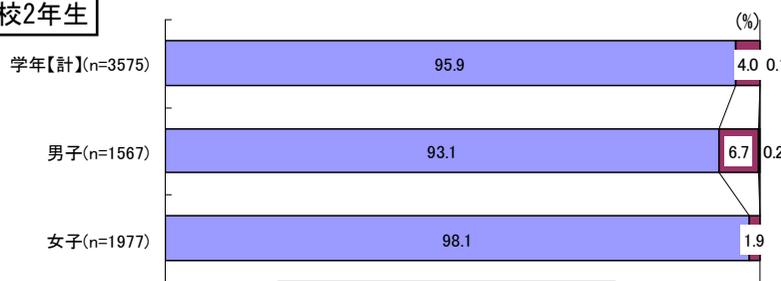
小学6年生



中学2年生



高校2年生

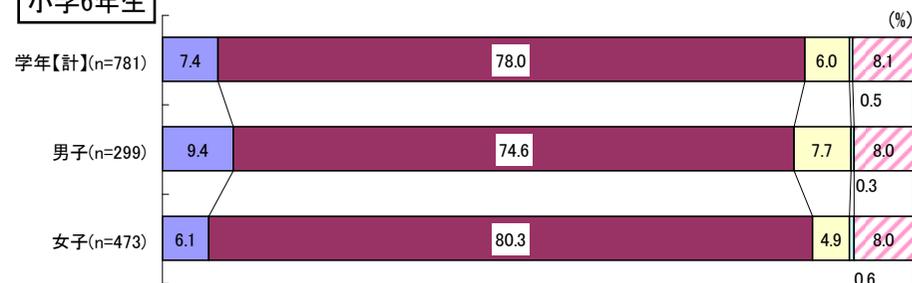


■ 所有している ■ 所有していない □ 無回答

● 携帯電話の台数とメールアドレスの数（携帯電話所有者のみへの質問）

・ 「携帯電話を2台以上」は高2になると4.9%に。

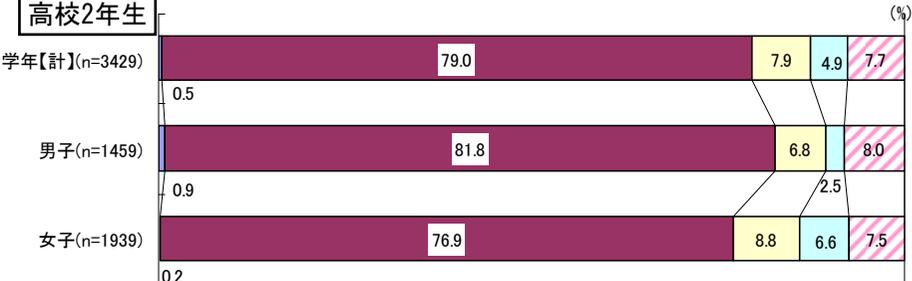
小学6年生



中学2年生



高校2年生

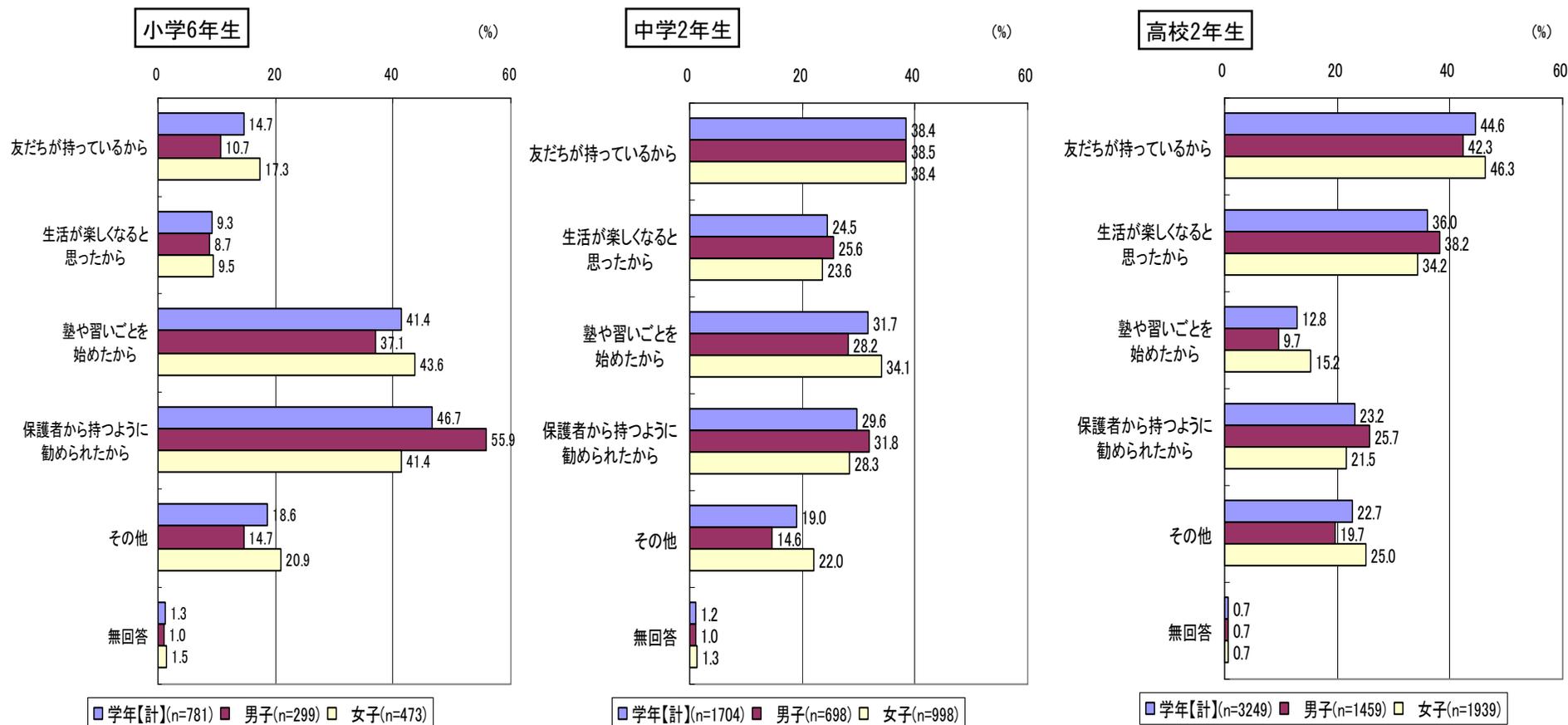


■ 携帯電話は1つ持っているが、メール機能はない ■ 携帯電話もメールアドレスも1つだけ持っている
 □ 携帯電話は1つだが、メールアドレスは2つ以上持っている □ 携帯電話を2台以上持っている
 □ 無回答

携帯電話を持った理由

※携帯電話を所有している児童生徒への質問(複数回答)

- ・小6では「保護者から持つように勧められたから」が46.7%、「塾や習いごとを始めたから」が41.4%。
- ・中2、高2では「友だちが持っているから」「生活が楽しくなると思ったから」の割合が増加。

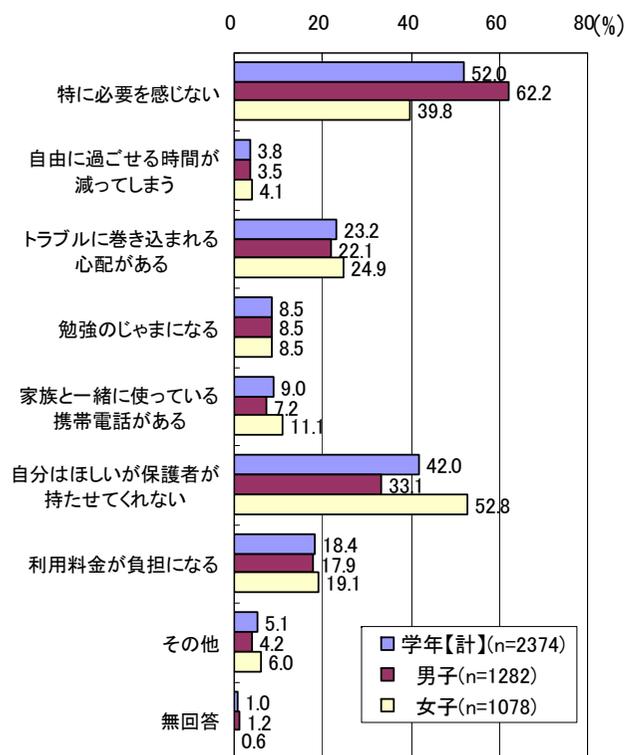


携帯電話を持っていない理由

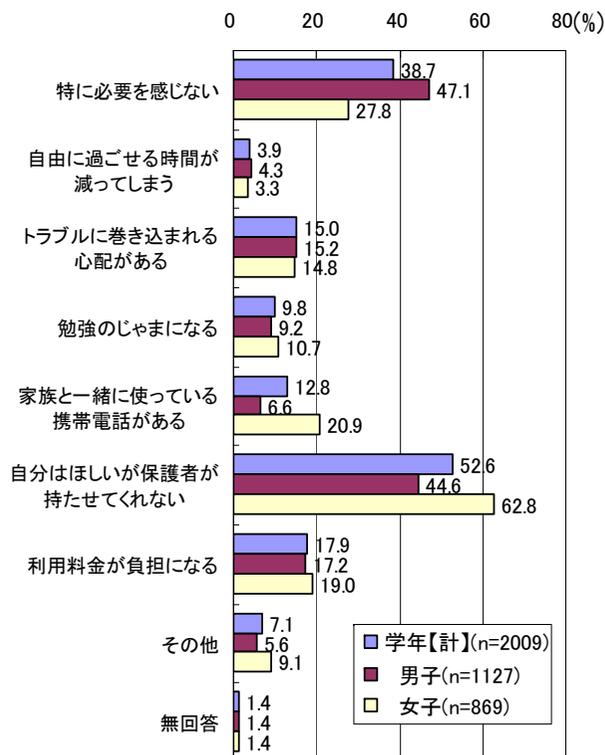
※携帯電話を所有していない児童生徒への質問(複数回答)

- ・どの学年でも、「特に必要を感じない」が多い。(小6: 52.0%、中2: 38.7%、高2: 60.1%)
- ・小6と中2では、「自分はほしいが保護者が持たせてくれない」も多い。(小6: 42.0%、中2: 52.6%)

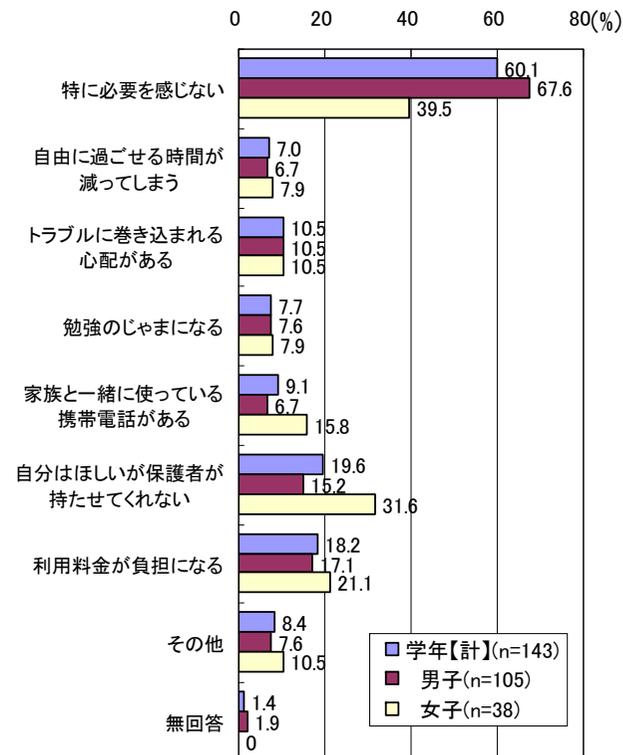
小学6年生



中学2年生

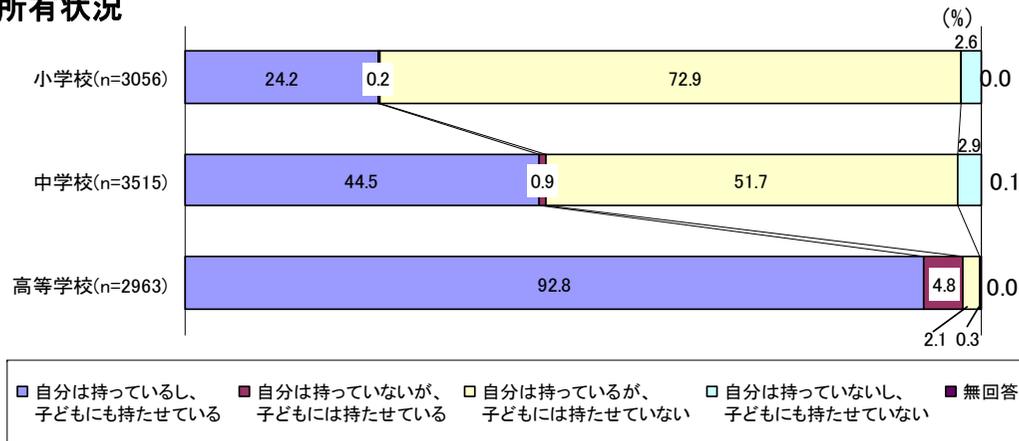


高校2年生

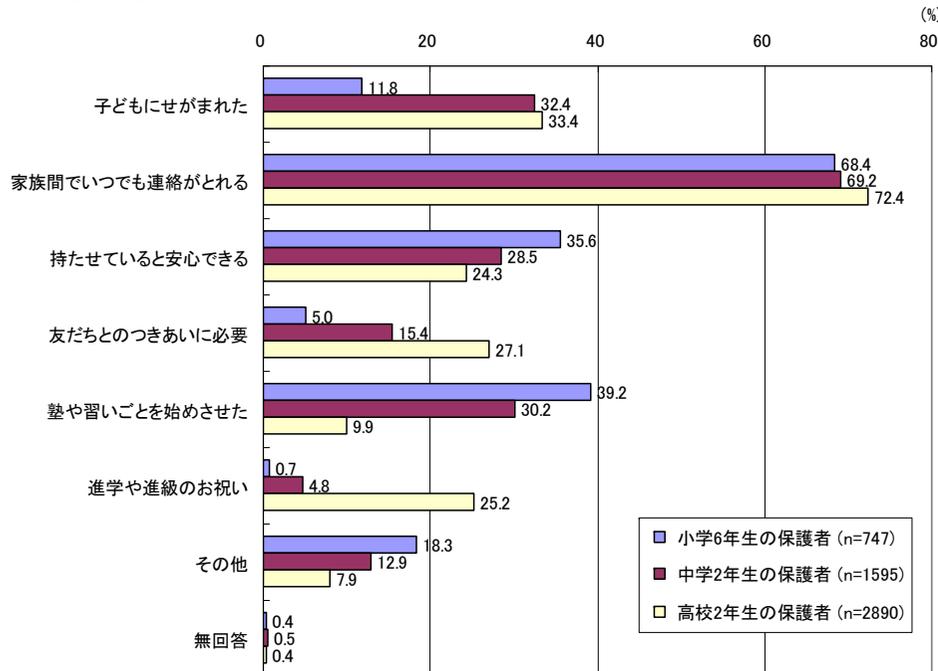


保護者から見た所有状況、持たせた(持たせていない)理由

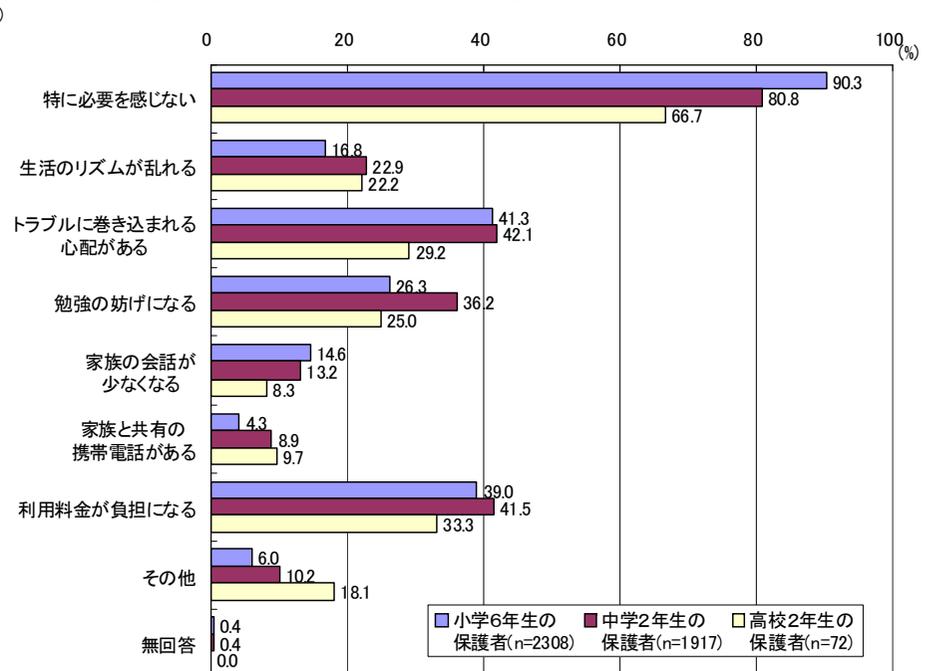
● 保護者と子どもの携帯電話所有状況



● 子どもに携帯電話を持たせた理由 (複数回答)

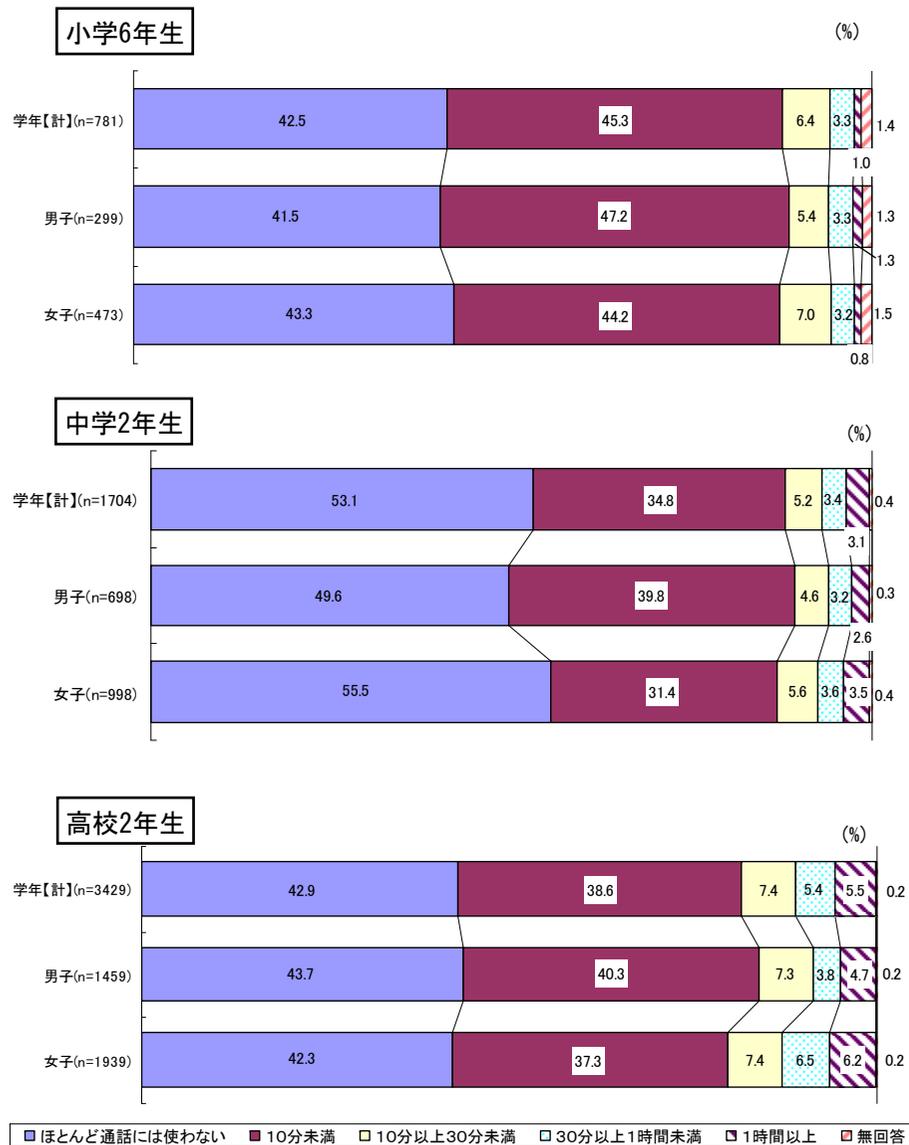


● 子どもに携帯電話を持たせていない理由 (複数回答)

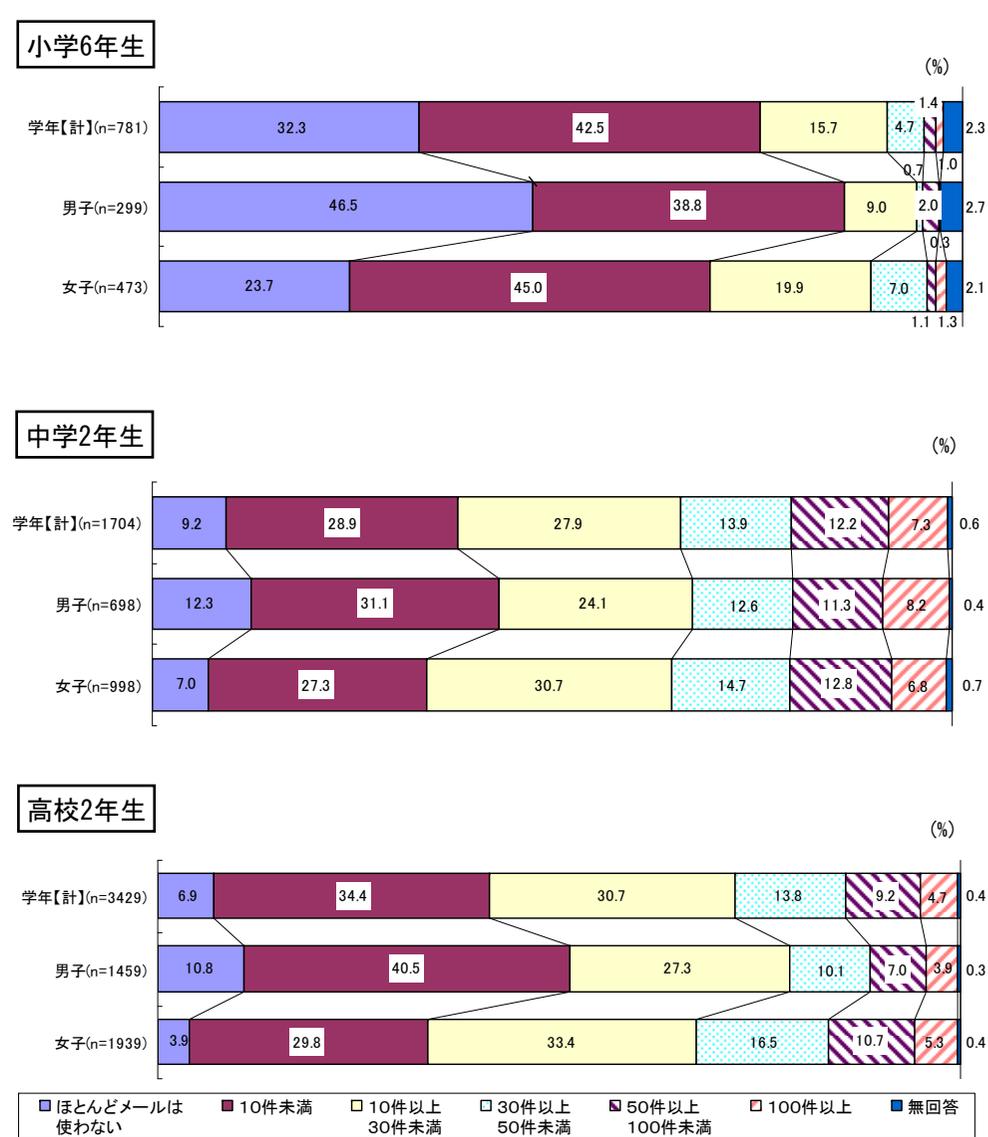


子どもの1日の平均通話時間、平均メール送受信件数

● 1日の平均通話時間



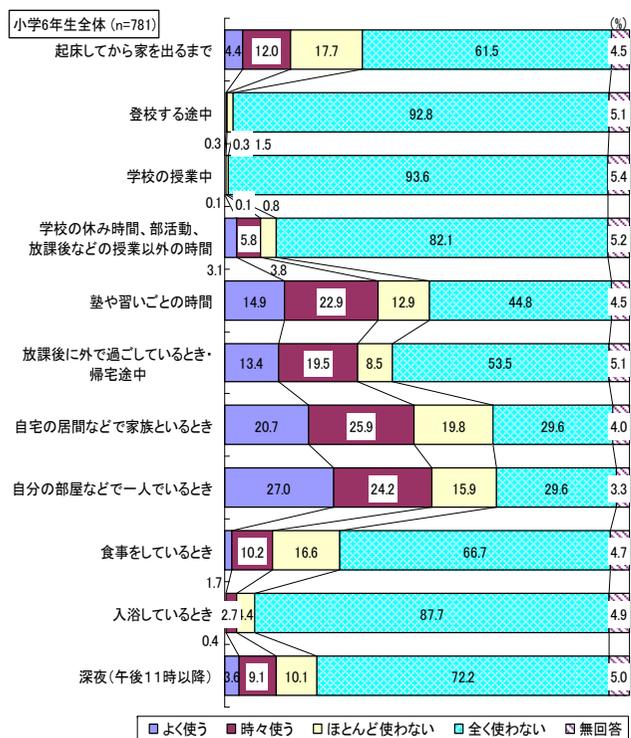
● 1日の平均メール送受信件数



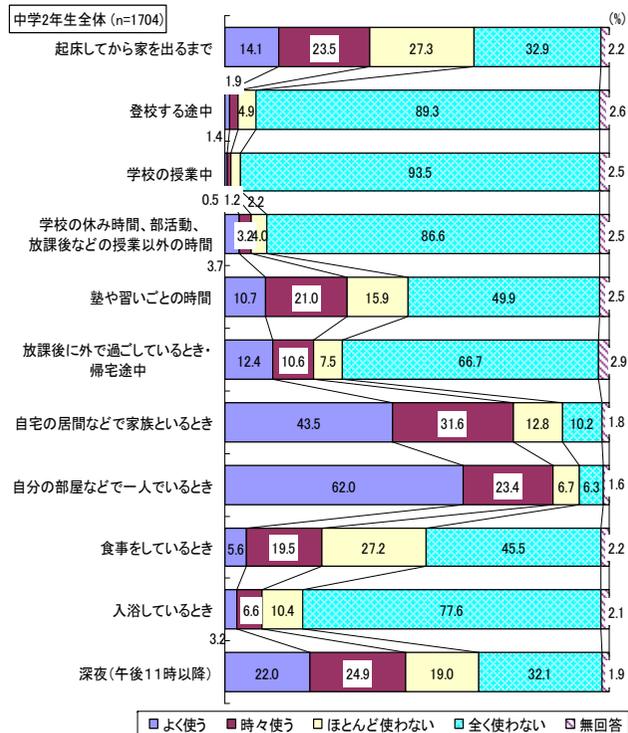
平日における子どもの携帯電話の利用場面

- ・ いずれの学年でも、「自分の部屋などで一人でいるとき」に利用する割合が最も多い。
- ・ 学年が進むにつれて、様々な場面で携帯電話を利用する場面が多様化。

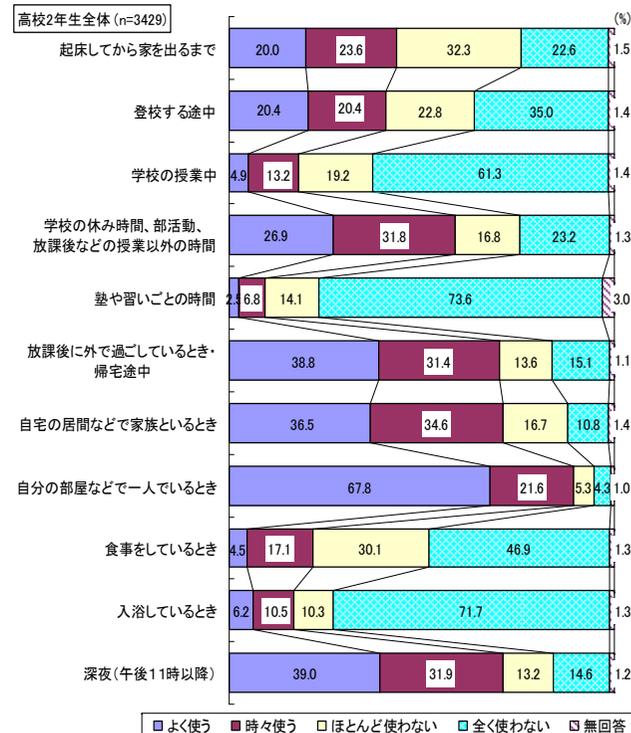
小学6年生



中学2年生



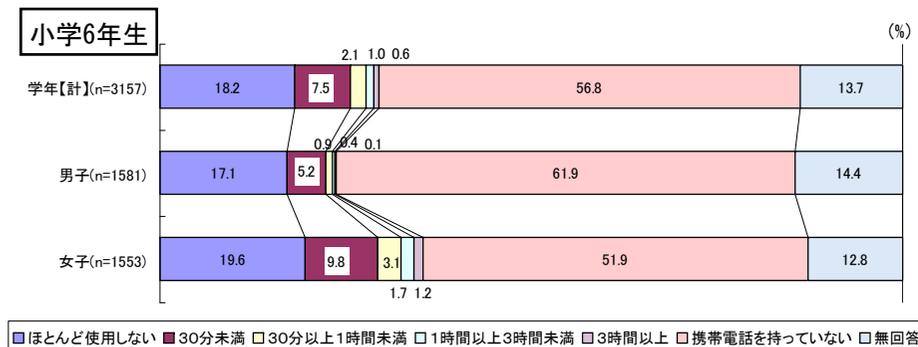
高校2年生



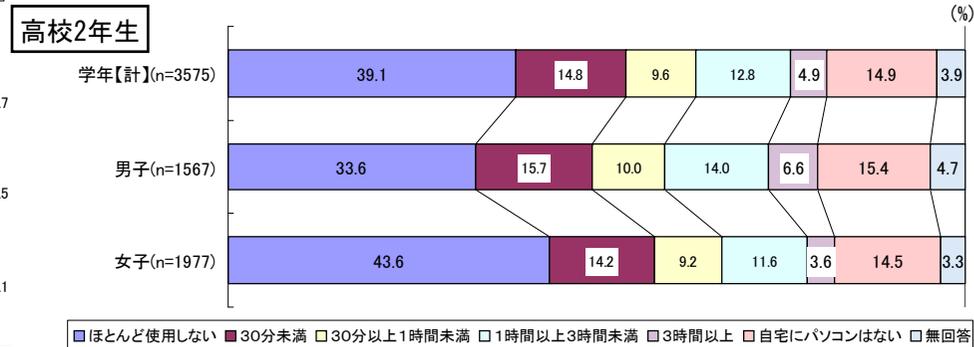
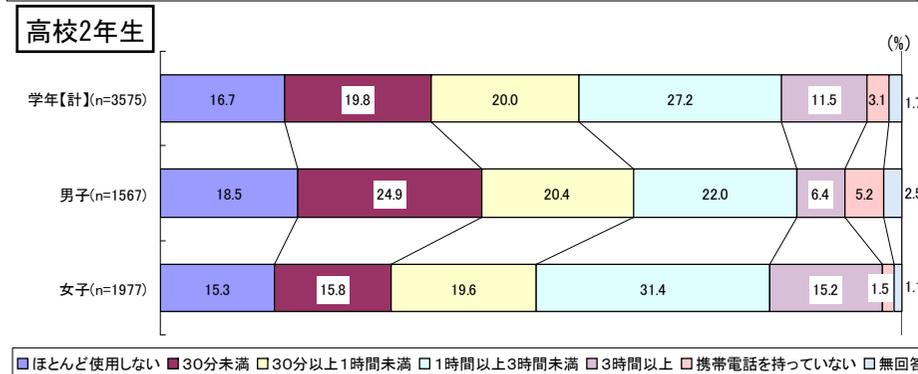
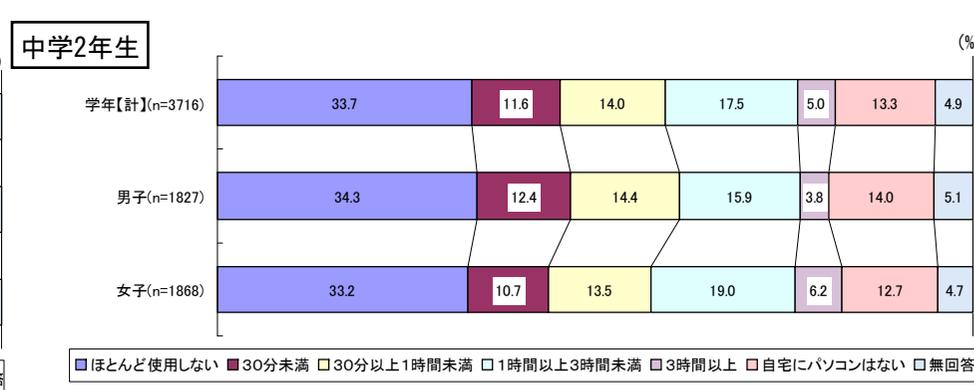
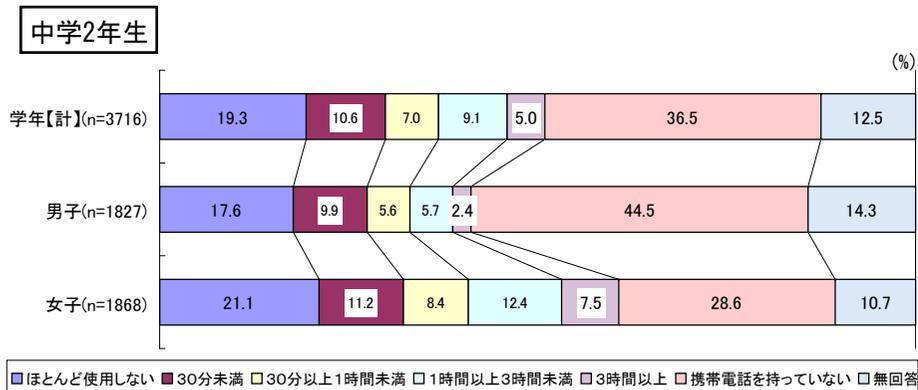
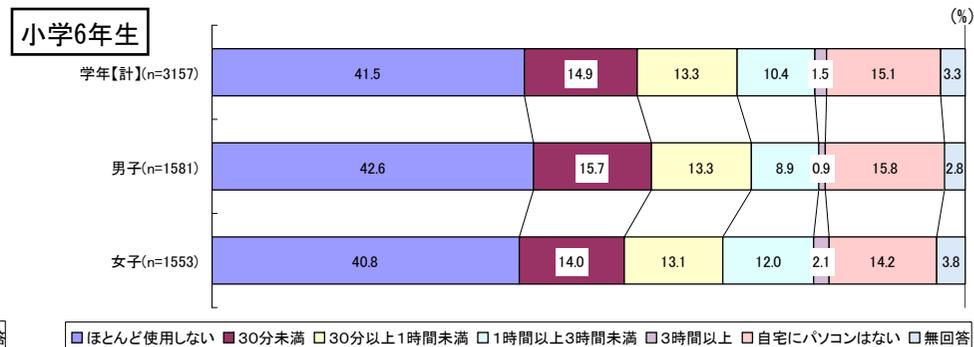
子どものインターネットの利用状況

・特に高2になると、携帯によるインターネット利用が長時間化している。

● 携帯電話による1日平均利用時間(全員に質問)



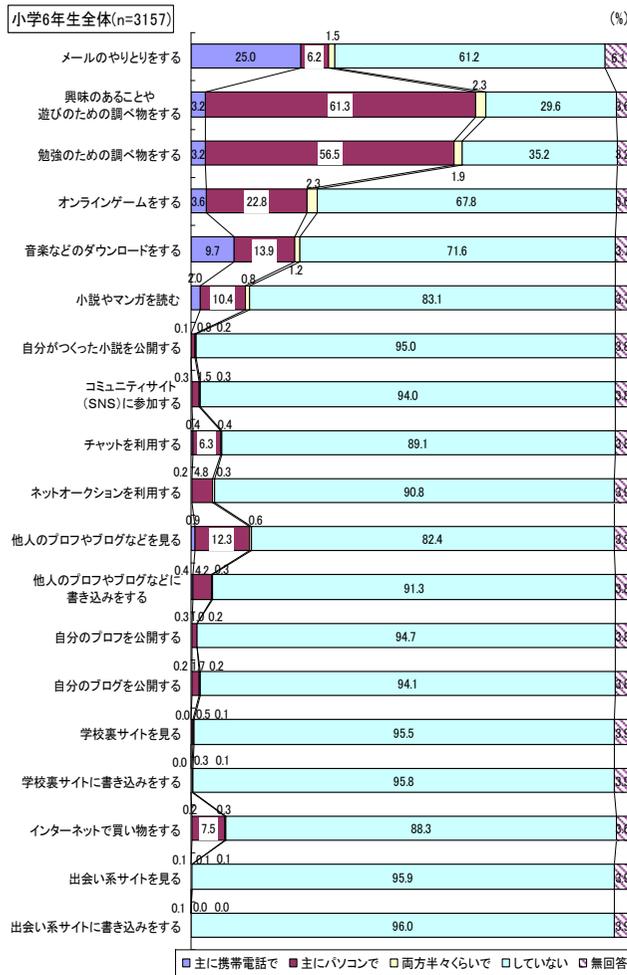
● パソコンによる1日平均利用時間(全員に質問)



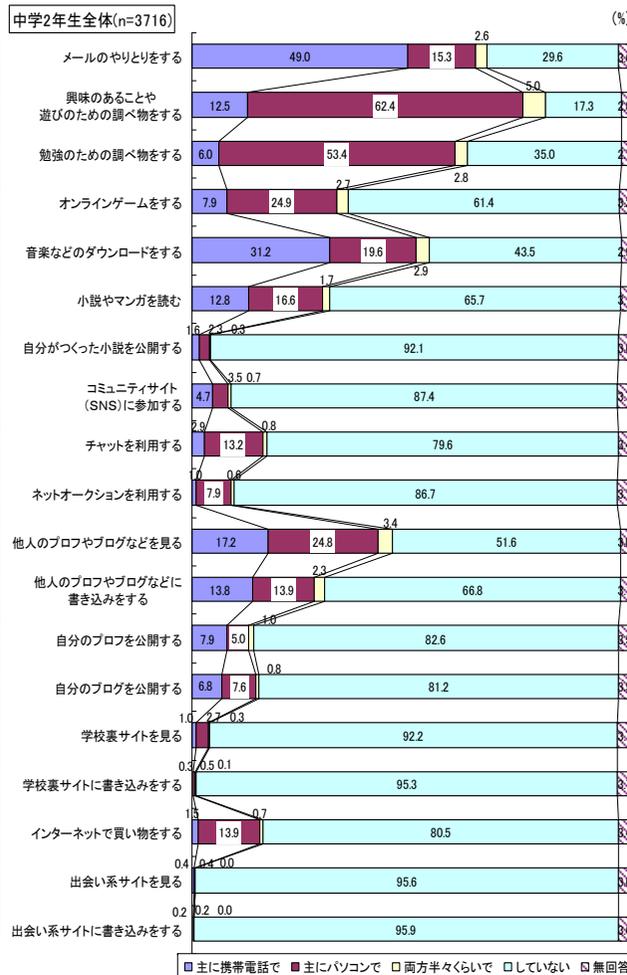
子どものインターネットの利用目的

・学年が上がるにつれ、様々な目的でインターネットを利用する割合が増加。

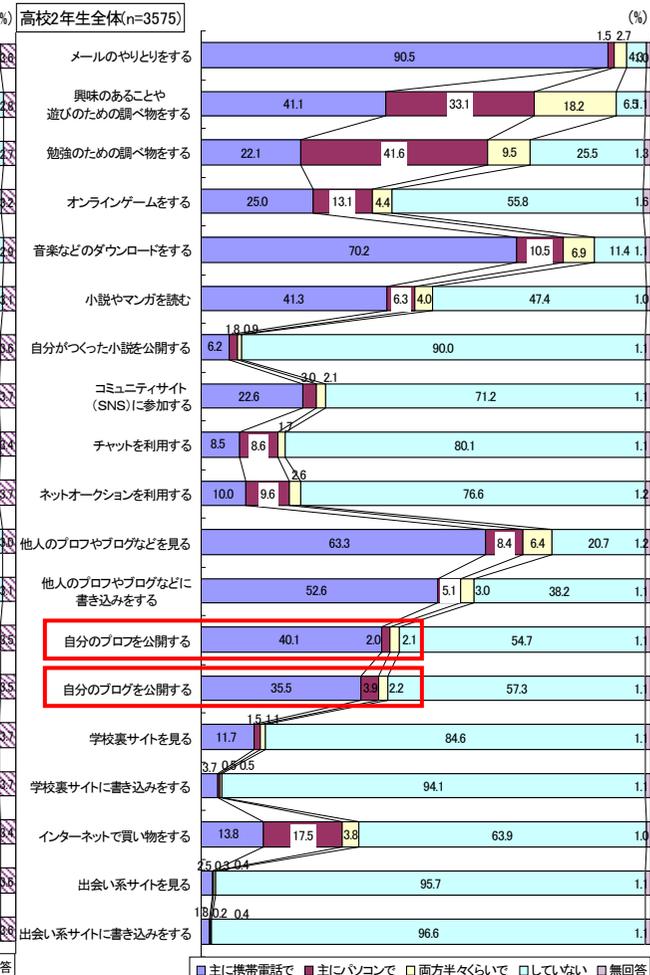
小学6年生



中学2年生



高校2年生



保護者が認識する子どものインターネットの利用目的

・保護者が認識している子どもの利用目的と、実際の利用目的との間にギャップが見られる。

小学6年生

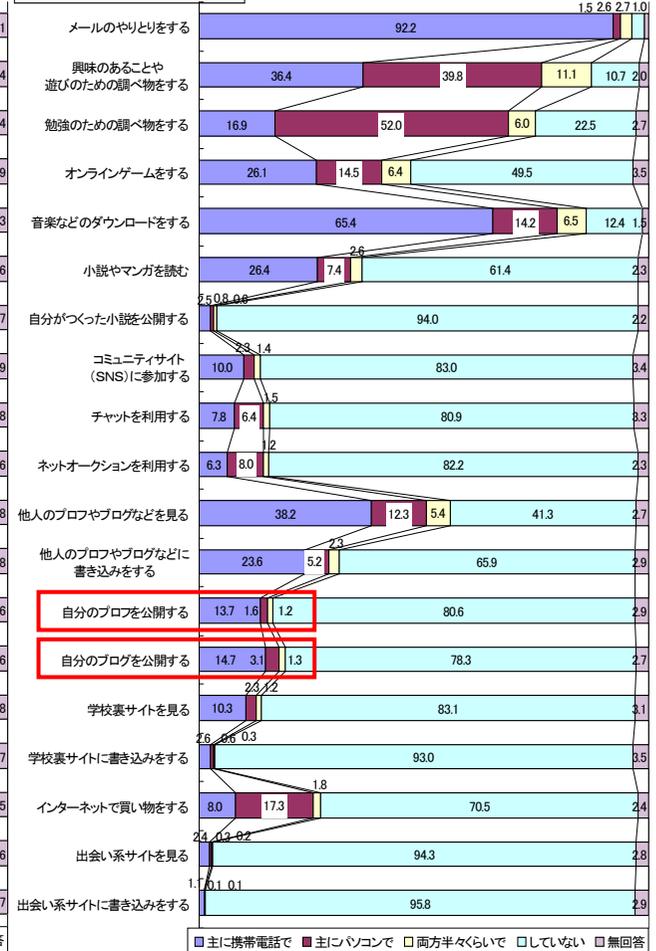
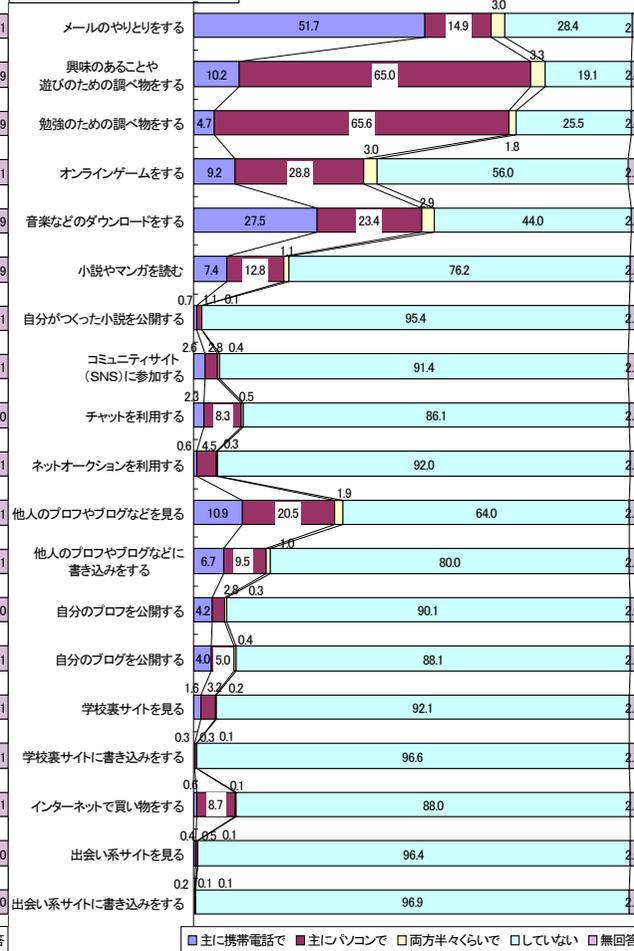
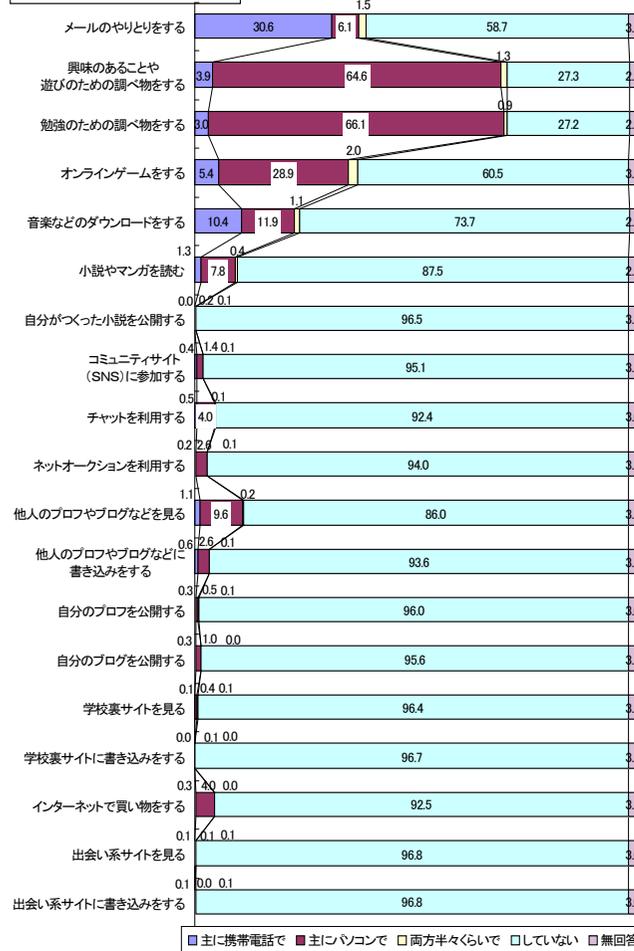
中学2年生

高校2年生

小学6年生の保護者全体(n=3056)

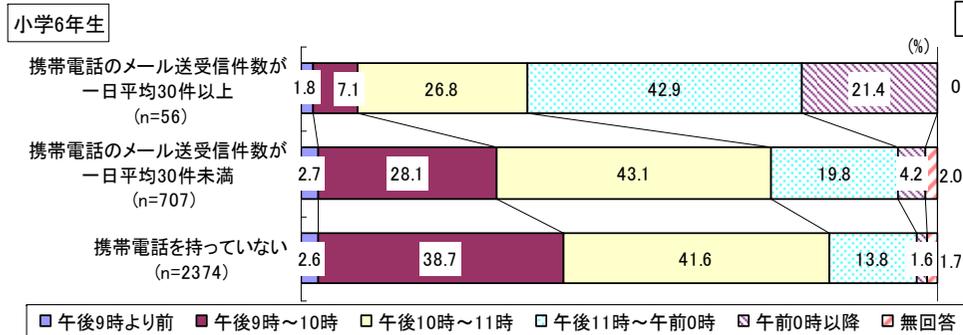
中学2年生の保護者全体(n=3515)

高校2年生の保護者全体(n=2963)

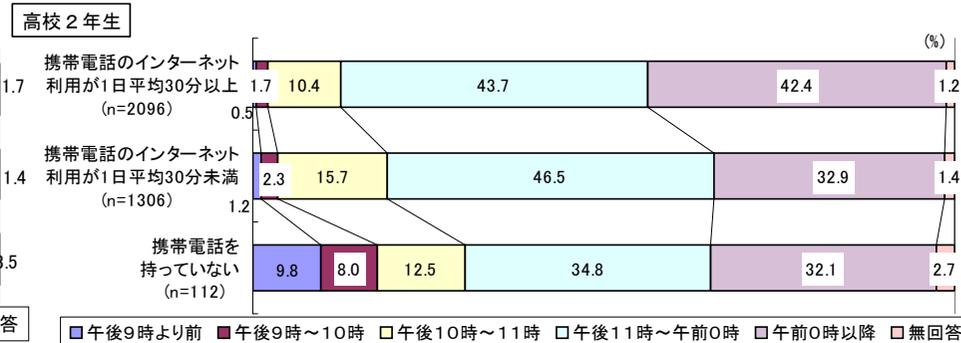
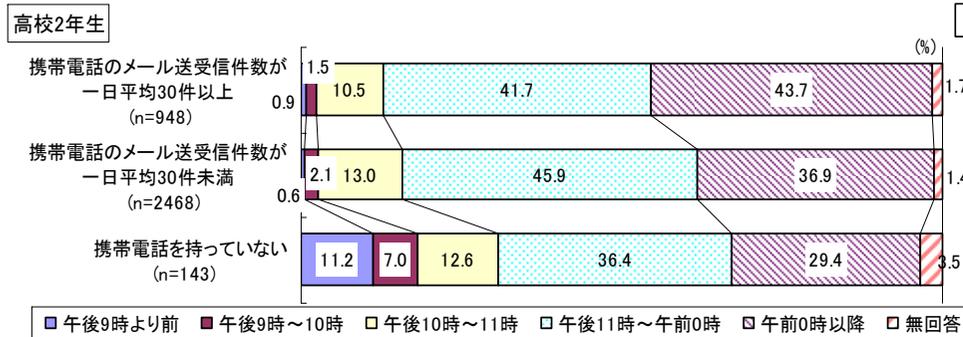
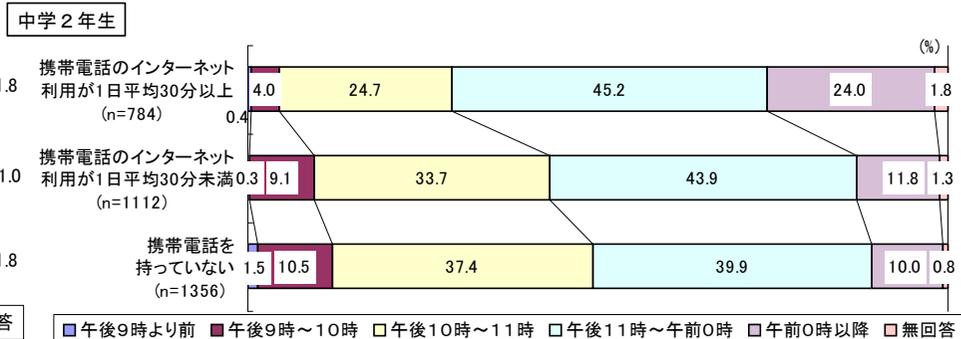
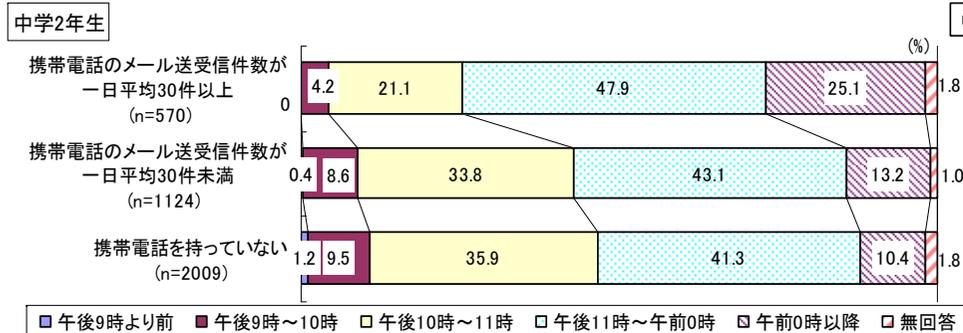
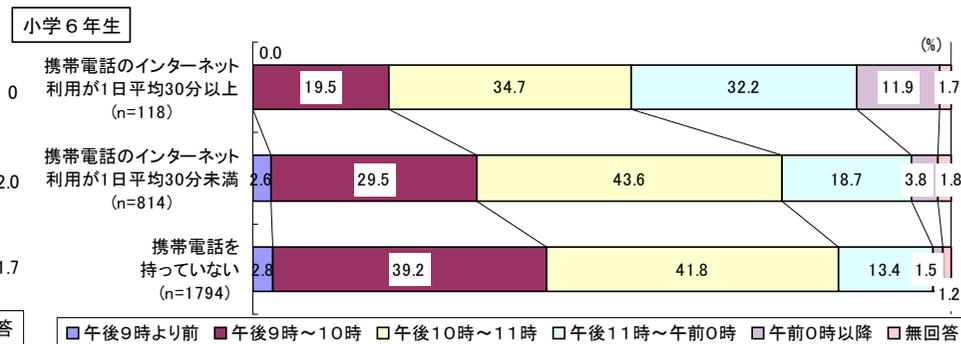


子どもの普段の就寝時間(携帯電話の利用状況別)

● 携帯電話でのメール送受信件数と就寝時間



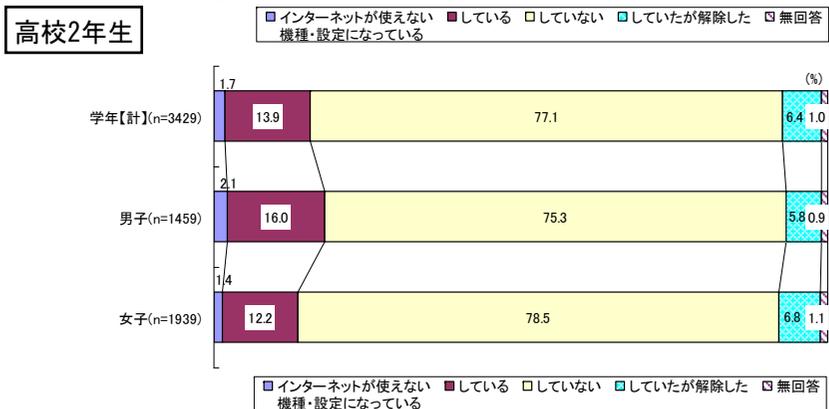
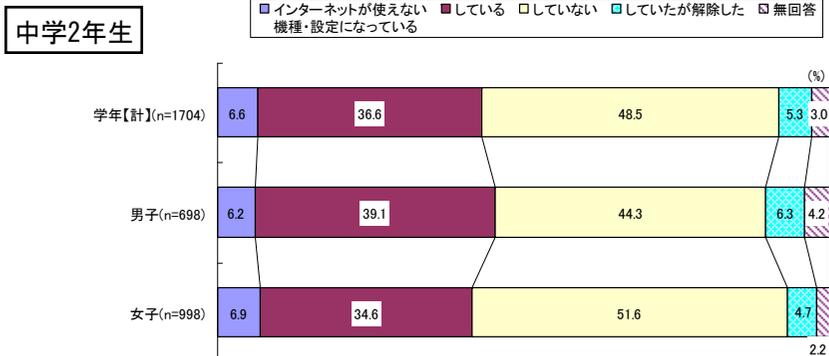
● 携帯電話でのインターネット利用時間と就寝時間



フィルタリングの使用状況と必要性

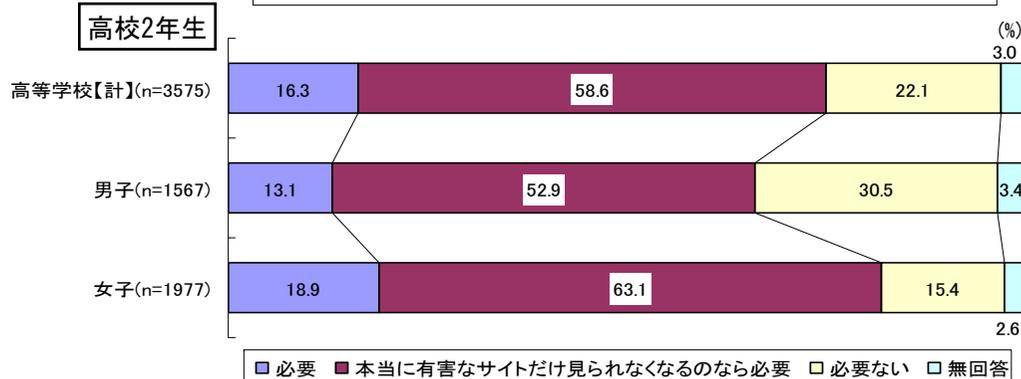
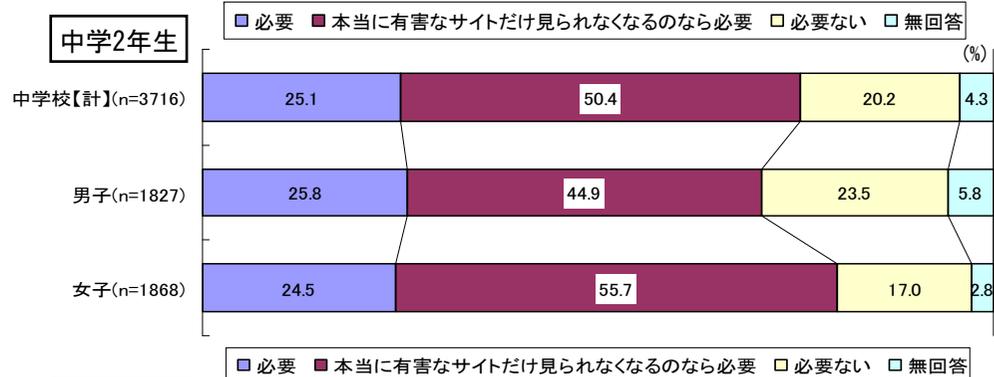
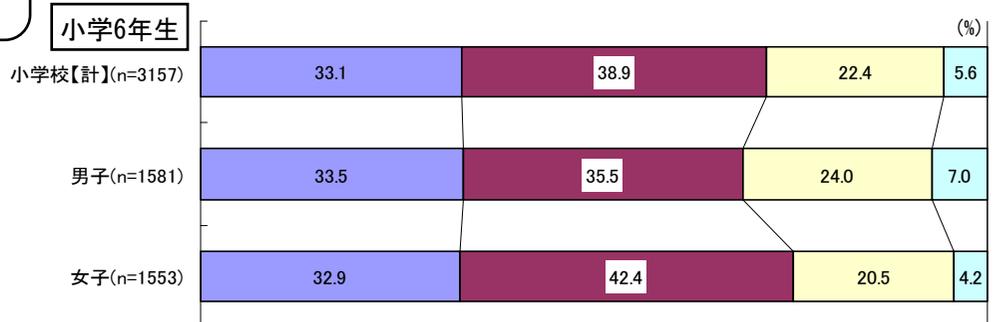
● フィルタリングの使用状況について

- ・小6では「インターネットが使えない機種・設定になっている」「している」が63.3%
- ・中2、高2では次第にその割合が減少。



● フィルタリングの必要性

- ・各学年とも「本当に有害なサイトだけ見られなくなるのなら必要」が最も多い。

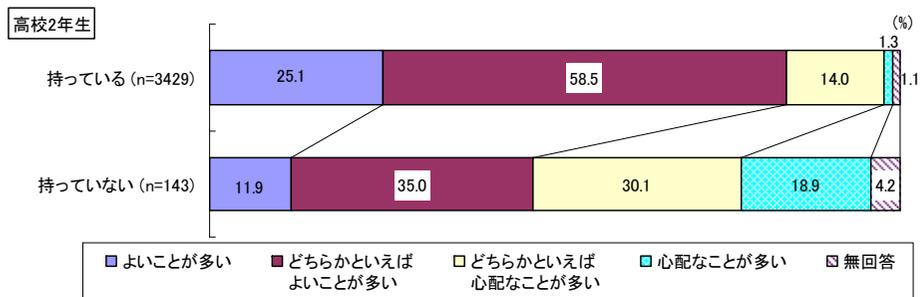
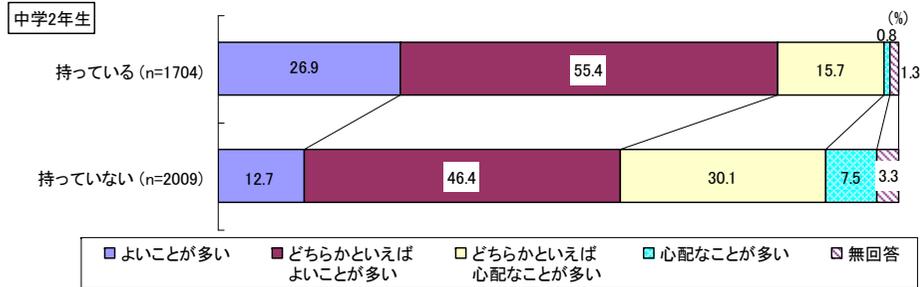
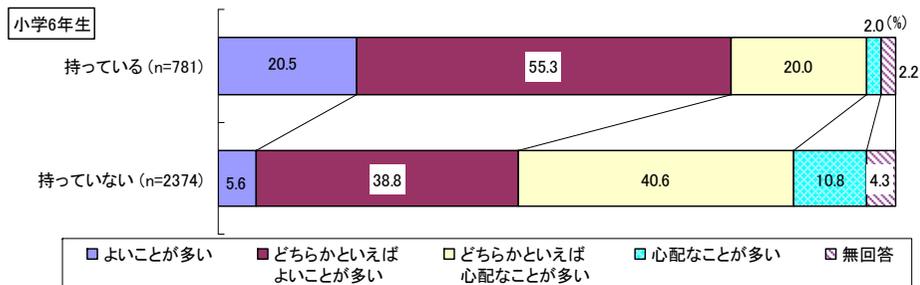


携帯電話に対する評価

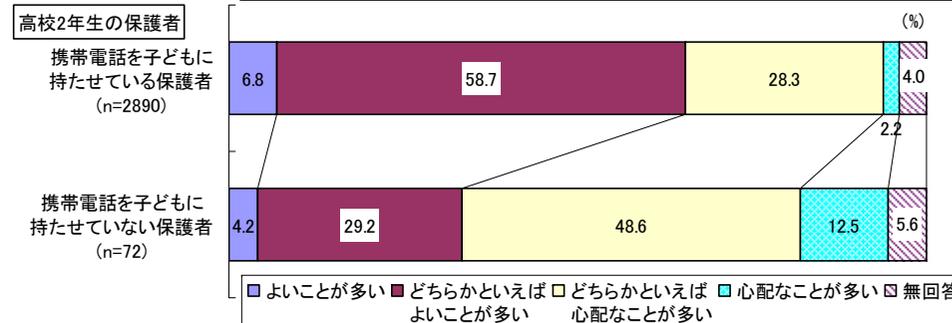
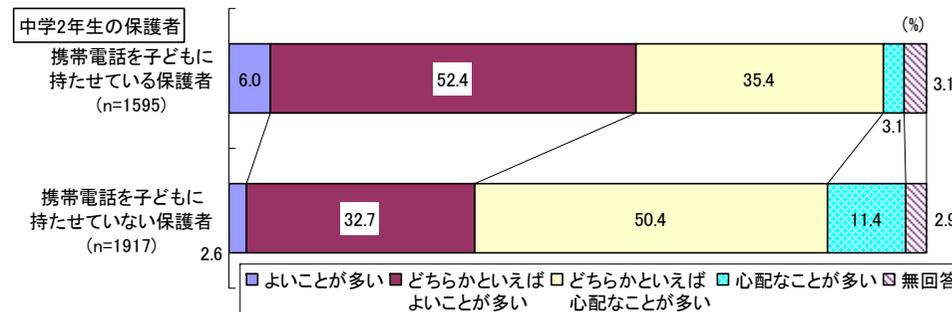
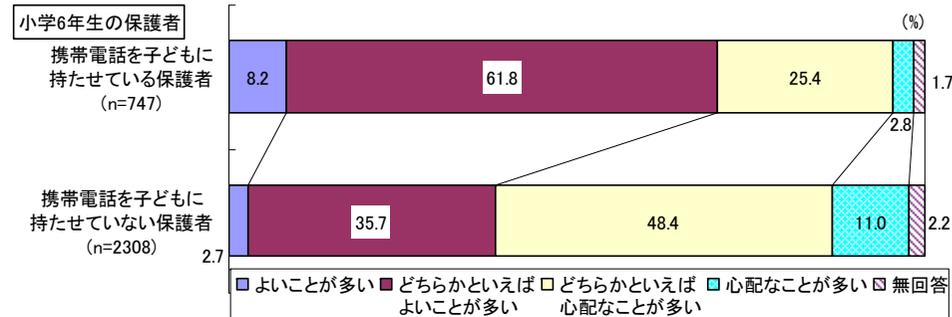
● 子どもと保護者から見た、携帯電話に対する評価(子どもの携帯電話の有無別)

- ・ 持っている子どもや持たせている保護者は、持っていない子どもや持たせていない保護者よりも積極的に評価。
- ・ ただし、子どもに比べ保護者は、「どちらかといえば心配なことが多い」「心配なことが多い」との回答が多い。

子ども

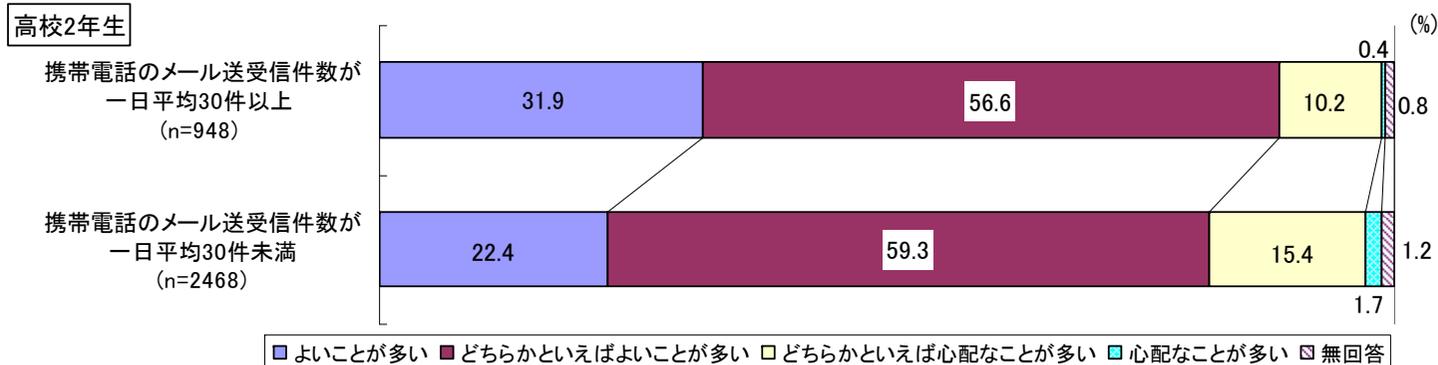
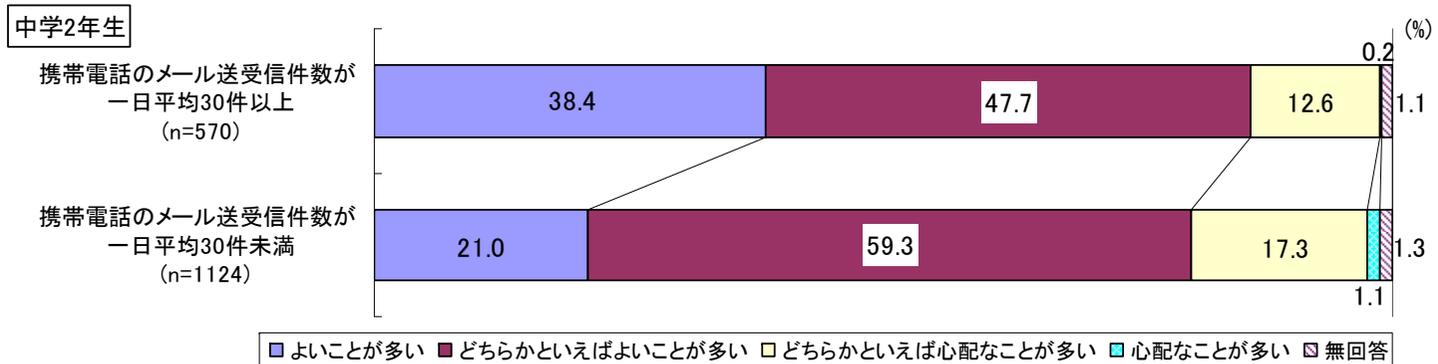
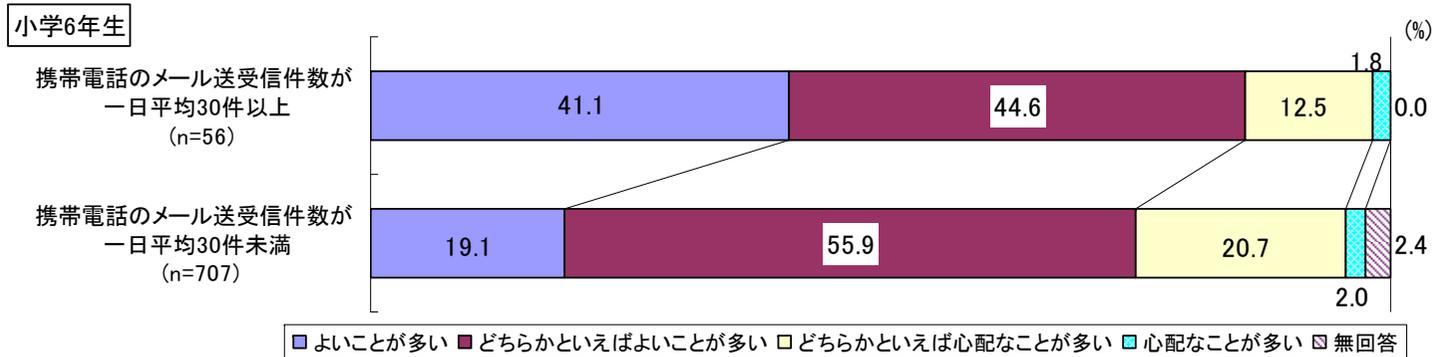


保護者



1日の平均メール件数と携帯電話への評価(子ども)

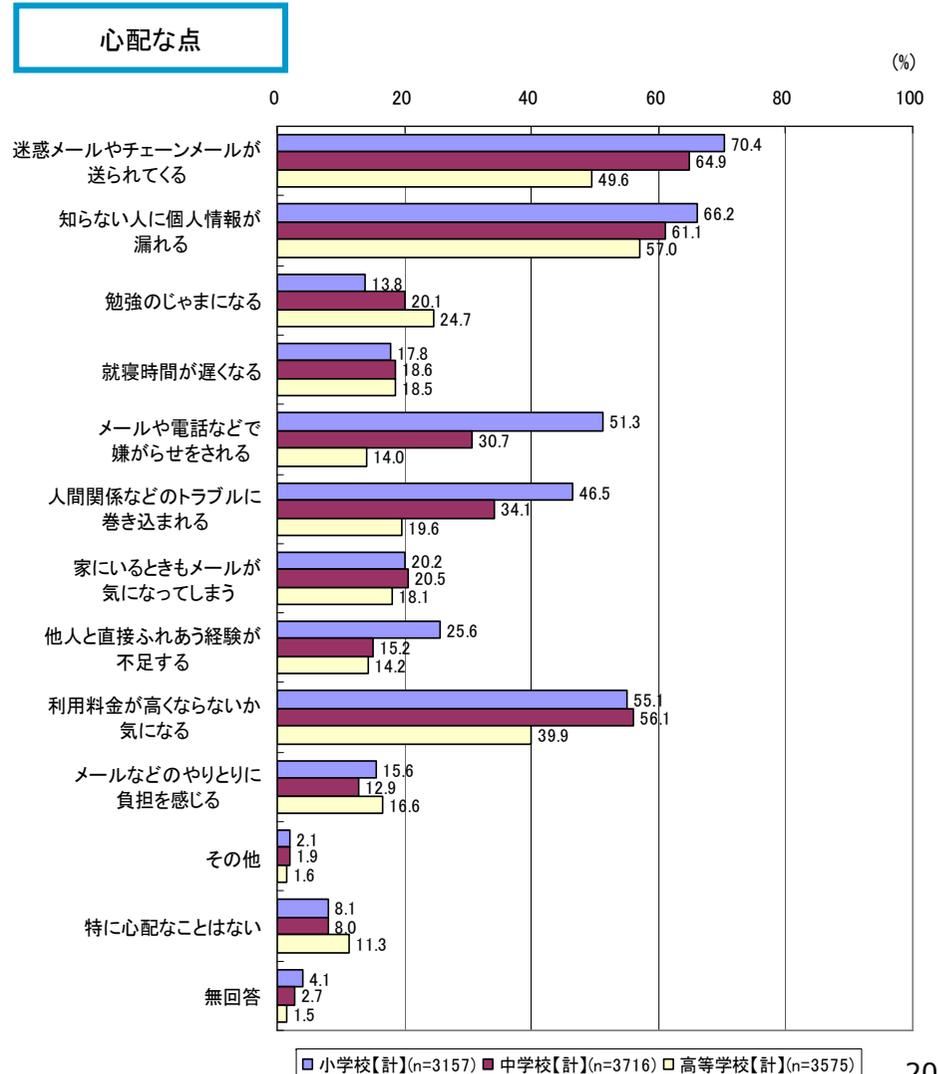
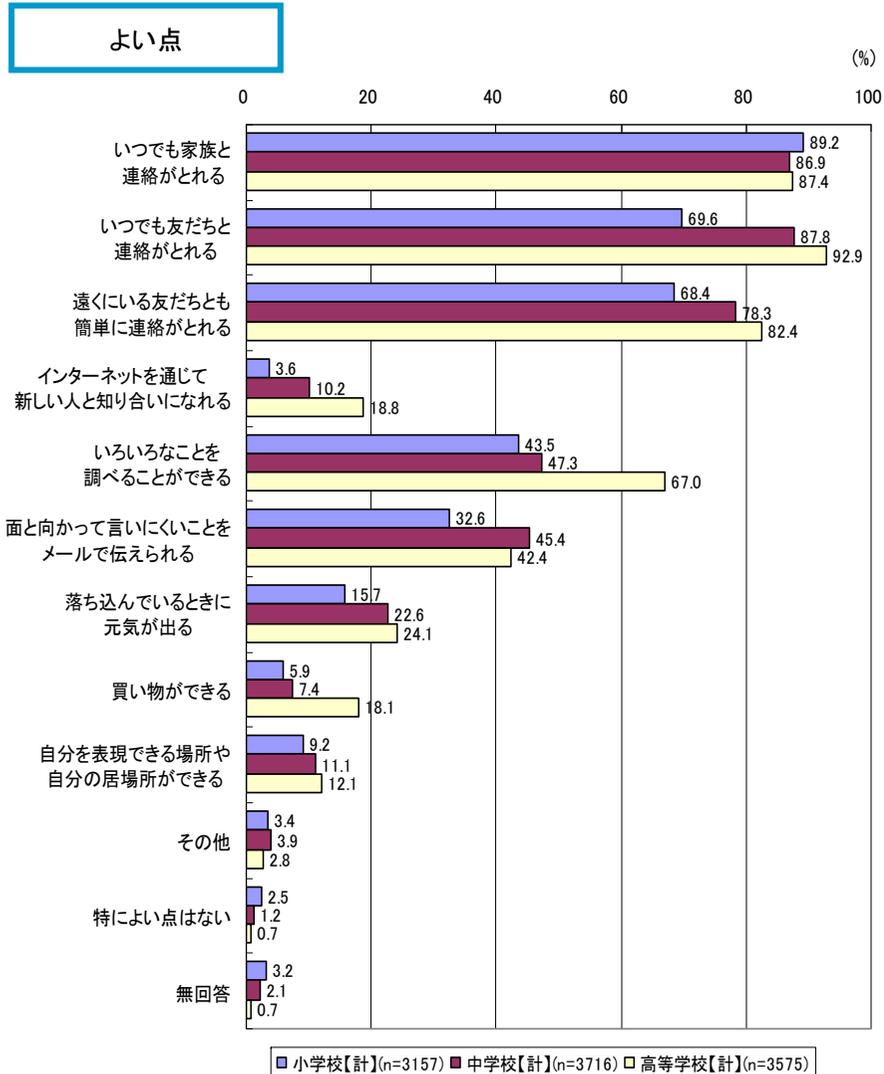
・いずれの学年でも、1日平均のメール送受信件数が30件以上の子どもの方が、30件未満の子どもよりも、携帯電話を積極的に評価。



携帯電話に対する評価(よい点・心配な点)(子ども)

● 携帯電話のよい点・心配な点について (全員に質問(複数回答))

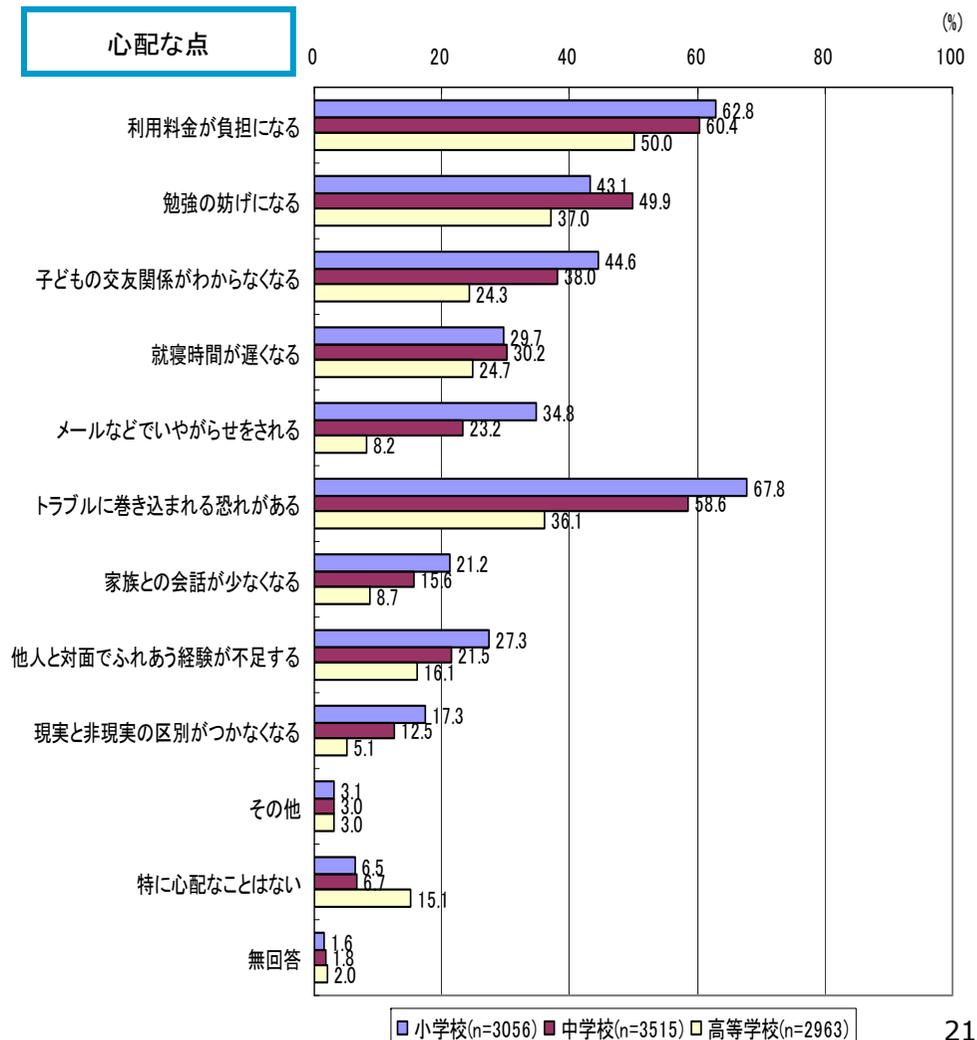
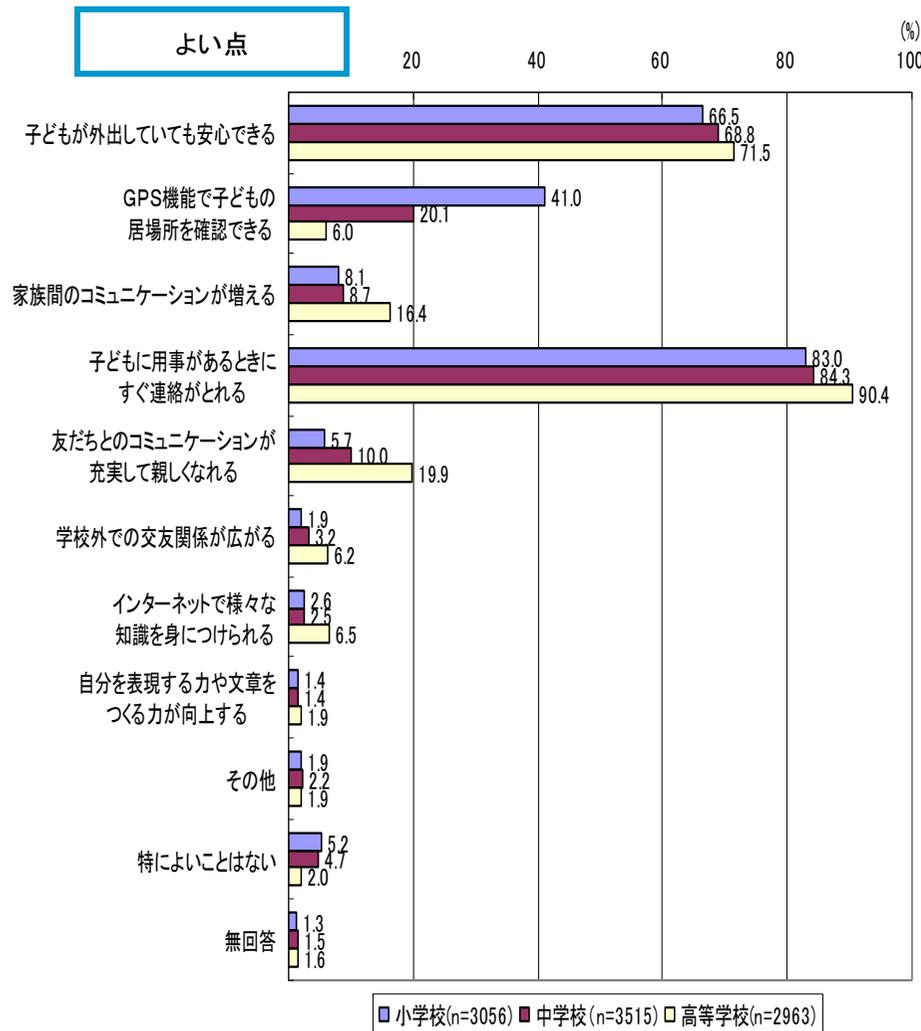
- ・ よい点は、各学年で「いつでも家族と連絡が取れる」が多く、中2と高2では友人関係などの回答が増加。
- ・ 心配な点は、「迷惑メールやチェーンメールが送られてくる」「知らない人に個人情報が漏れる」などが多い。



携帯電話に対する評価(よい点・心配な点)(保護者)

● 携帯電話のよい点・心配な点について (全員に質問(複数回答))

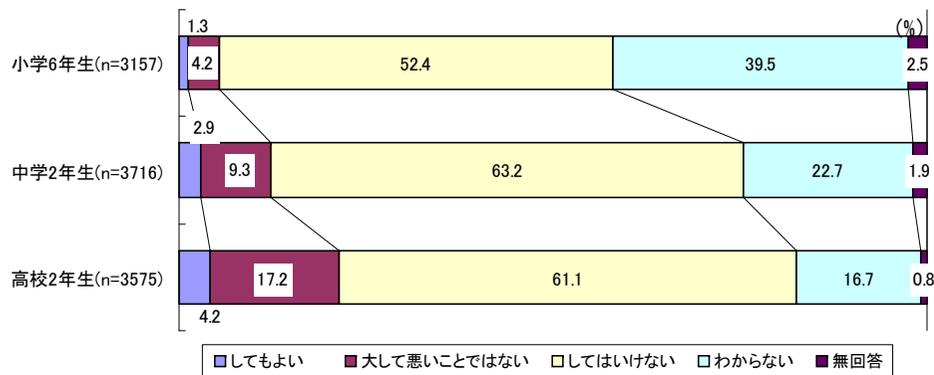
- ・ よい点は、「子どもが外出していても安心できる」「子どもに用事があるときにすぐ連絡が取れる」が多く、友人関係の評価は少ない。
- ・ 心配な点は、「利用料金が負担になる」「トラブルに巻き込まれる恐れがある」のほか、「子どもの交友関係がわからなくなる」「勉強の妨げになる」も多い。



インターネットの利用マナーに関する意識

・学年が上がるにつれ、「してもよい」「大して悪いことではない」が増加傾向。

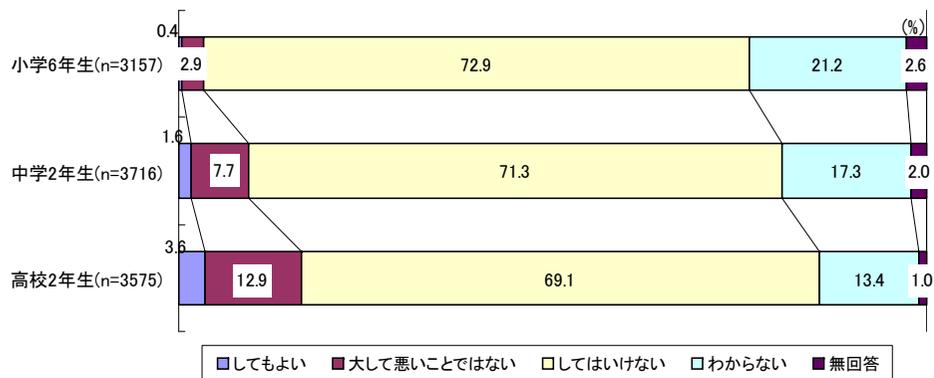
●自分に来たチェーンメールを転送する



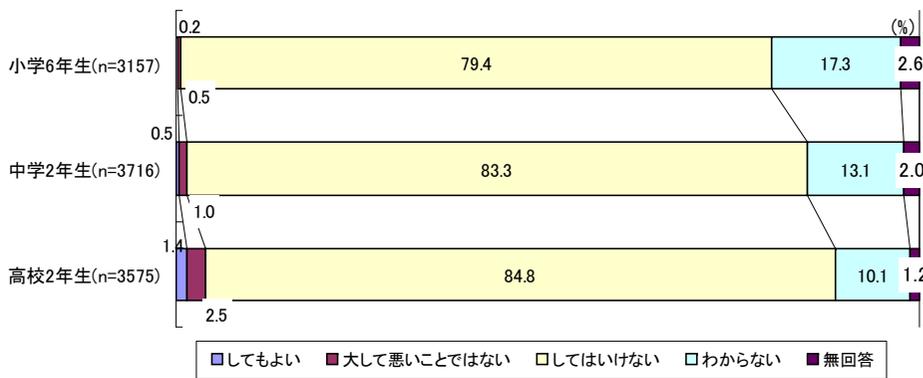
●インターネットの掲示板やメールに他人のことを自由に書き込む



●プロフィールやブログなどに自分の住所や写真を載せる



●友だちの住所や写真をインターネットの掲示板などに書き込む

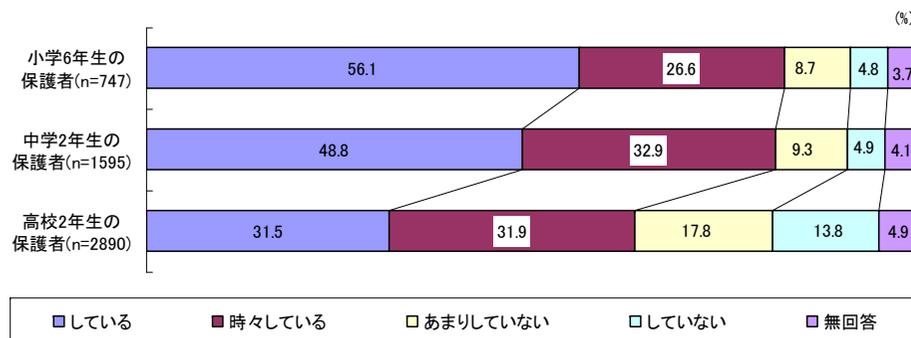


子どもの携帯電話利用への保護者の関心・注意

- ・(1)～(3)について、小6の保護者と中2の保護者では、「している」「時々している」の合計が8割程度。
- ・「している」割合は、全般的に学年が進むにつれて減少傾向。

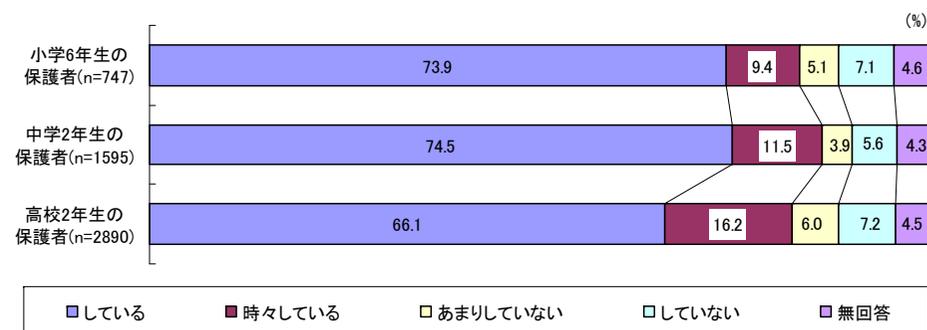
(1) 子どもに携帯電話の危険性や注意点を説明しているか

携帯電話を持たせている保護者



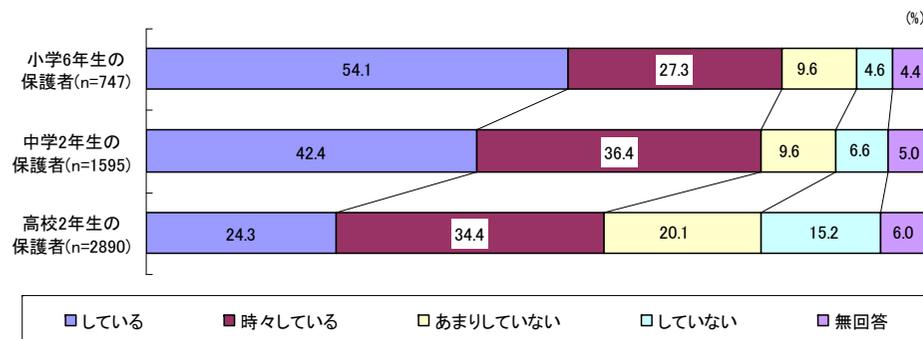
(3) 利用明細を見て子どもの使い方を把握しているか

携帯電話を持たせている保護者



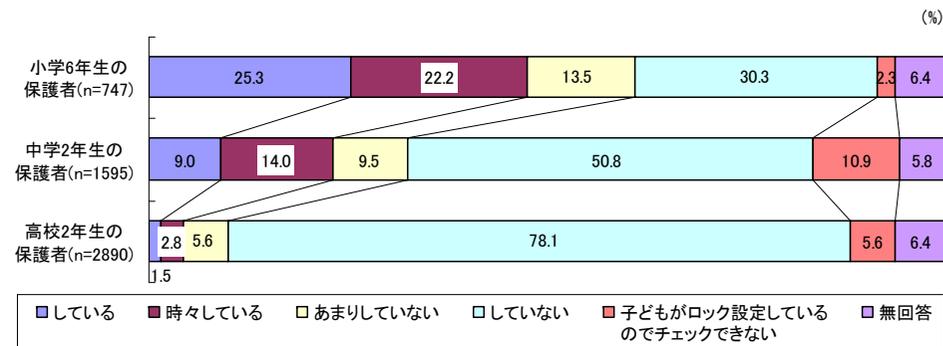
(2) 子どもが携帯電話に接する様子を気を付けて見守っているか

携帯電話を持たせている保護者



(4) 子どもが携帯電話のメール内容をチェックしているか

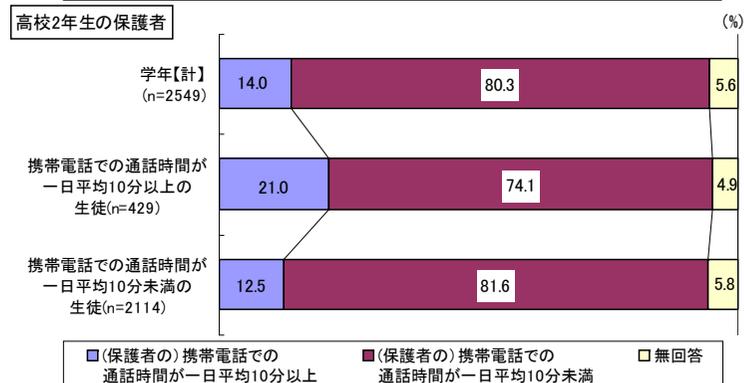
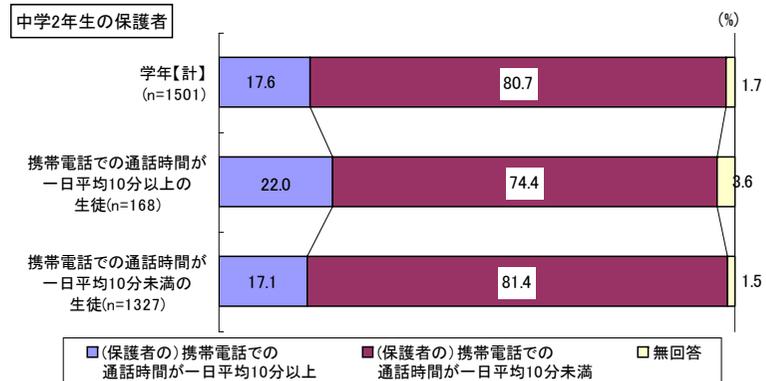
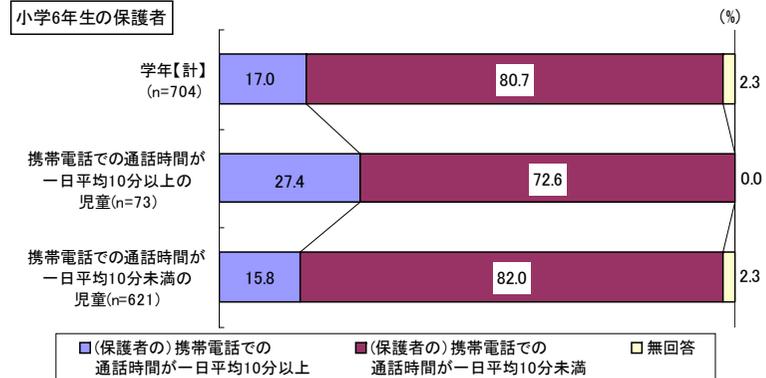
携帯電話を持たせている保護者



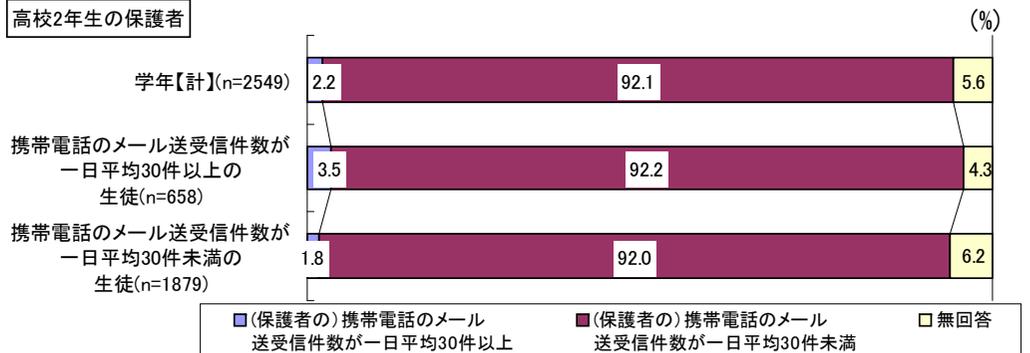
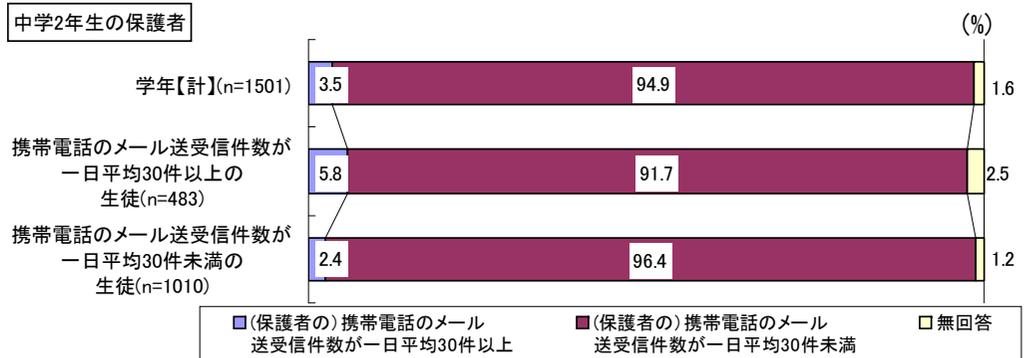
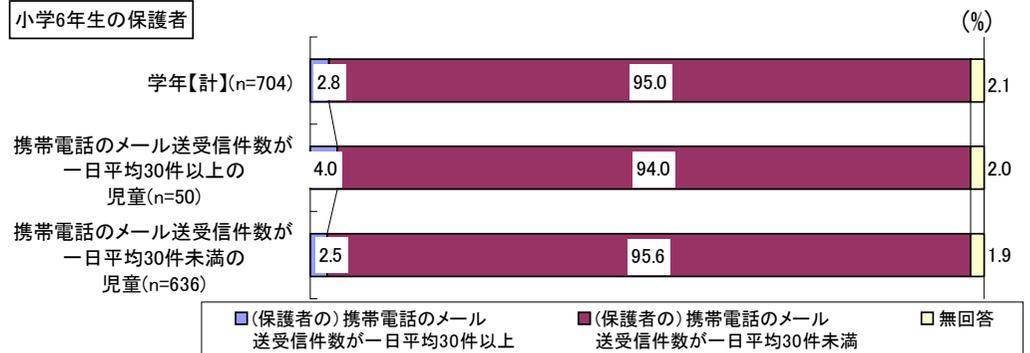
子どもと保護者の携帯電話の利用状況

・携帯電話をよく利用している保護者の子どもは、携帯電話を利用する割合が多い。

●携帯電話での通話



●携帯電話でのメールの送受信件数

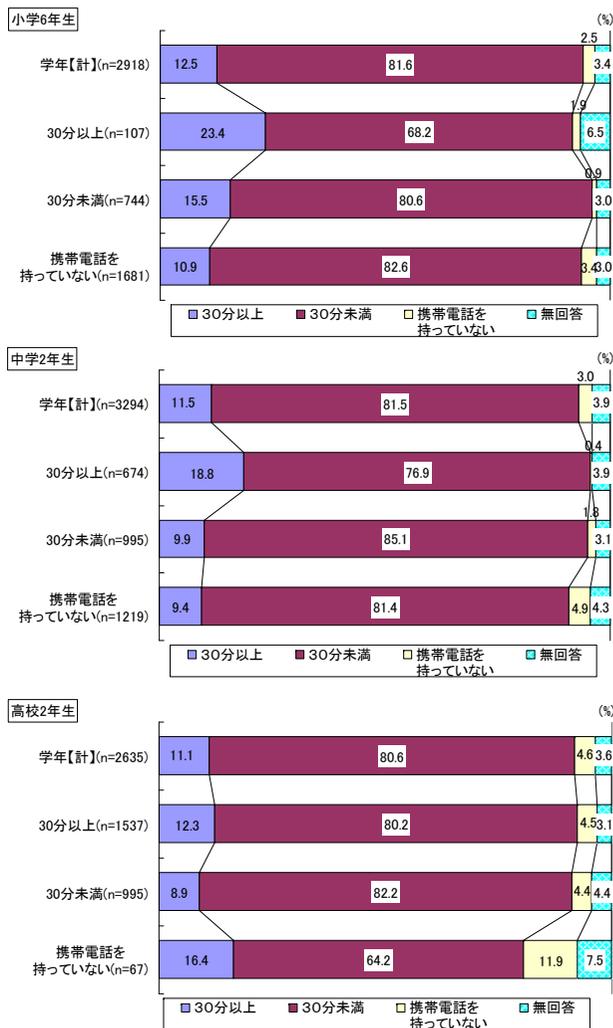


子どものインターネット利用状況と保護者のインターネット利用状況

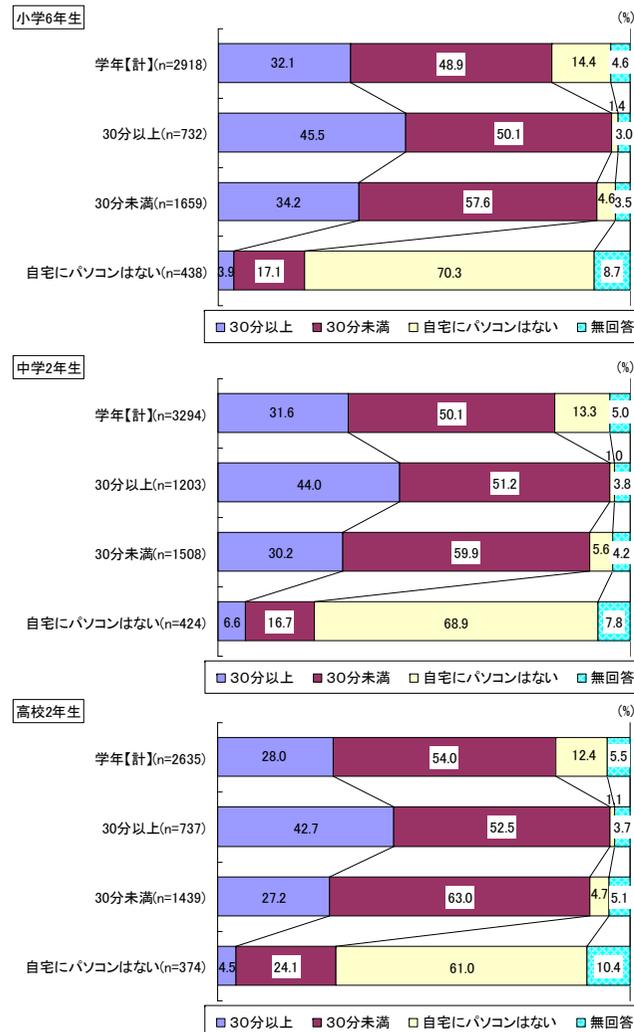
※グラフの見方:「30分以上」は、「30分以上1時間未満」、「1時間以上3時間未満」「3時間以上」を選択した回答者、「30分未満」は、「10分以上30分未満」「10分未満」「ほとんど使用しない」を選択した回答者をさす。縦軸が子どもで、横軸が保護者。

・携帯電話やパソコンでインターネットをよく利用している子どもは、保護者もよく利用している割合が多い。

●携帯電話での利用



●パソコンでの利用

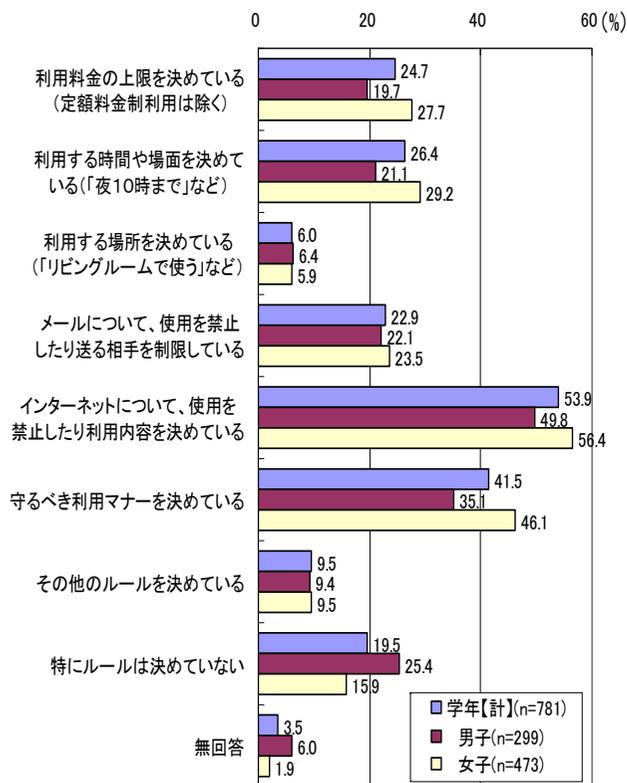


携帯電話についての家庭でのルール

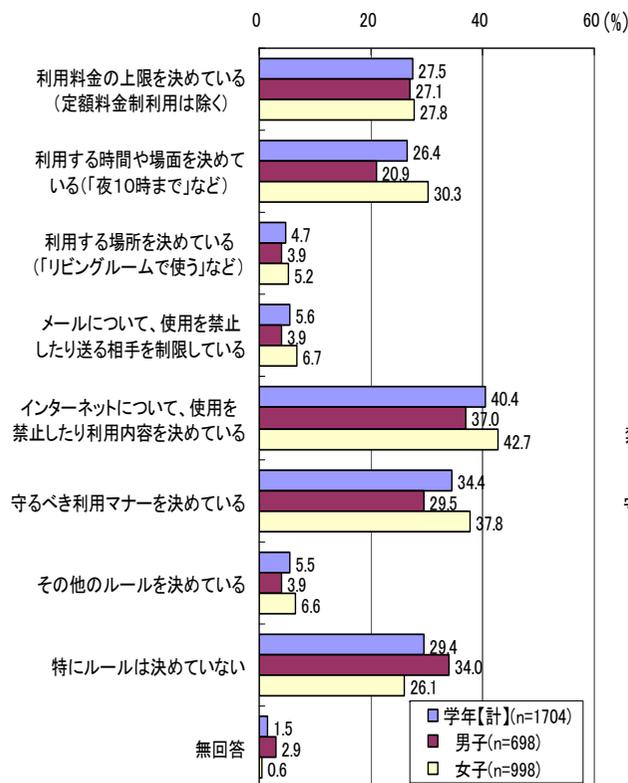
※児童生徒への質問（複数回答）

- ・小6と中2では、「インターネットについて、使用を禁止したり利用内容を決めている」が最も多い。
（小6：53.9%、中2：40.4%）
- ・高2では、「特にルールは決めていない」が最も多く、54.0%。

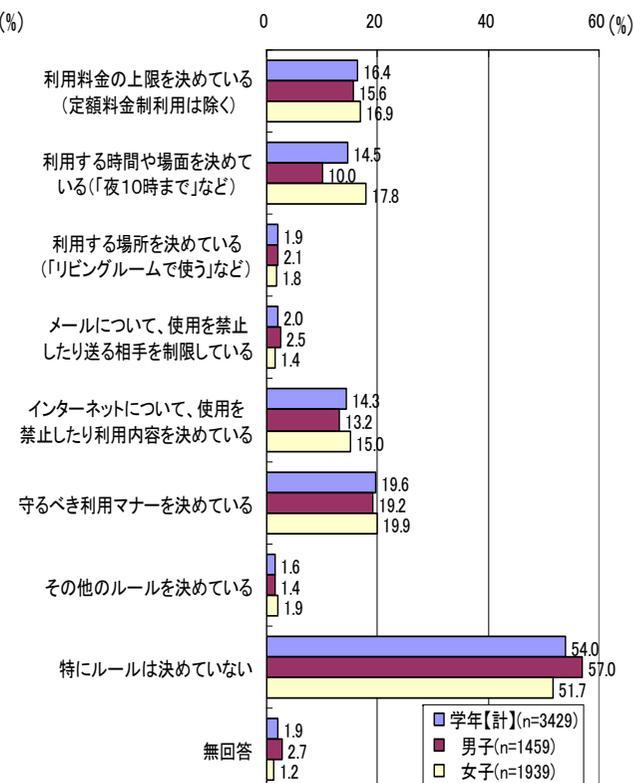
小学6年生



中学2年生



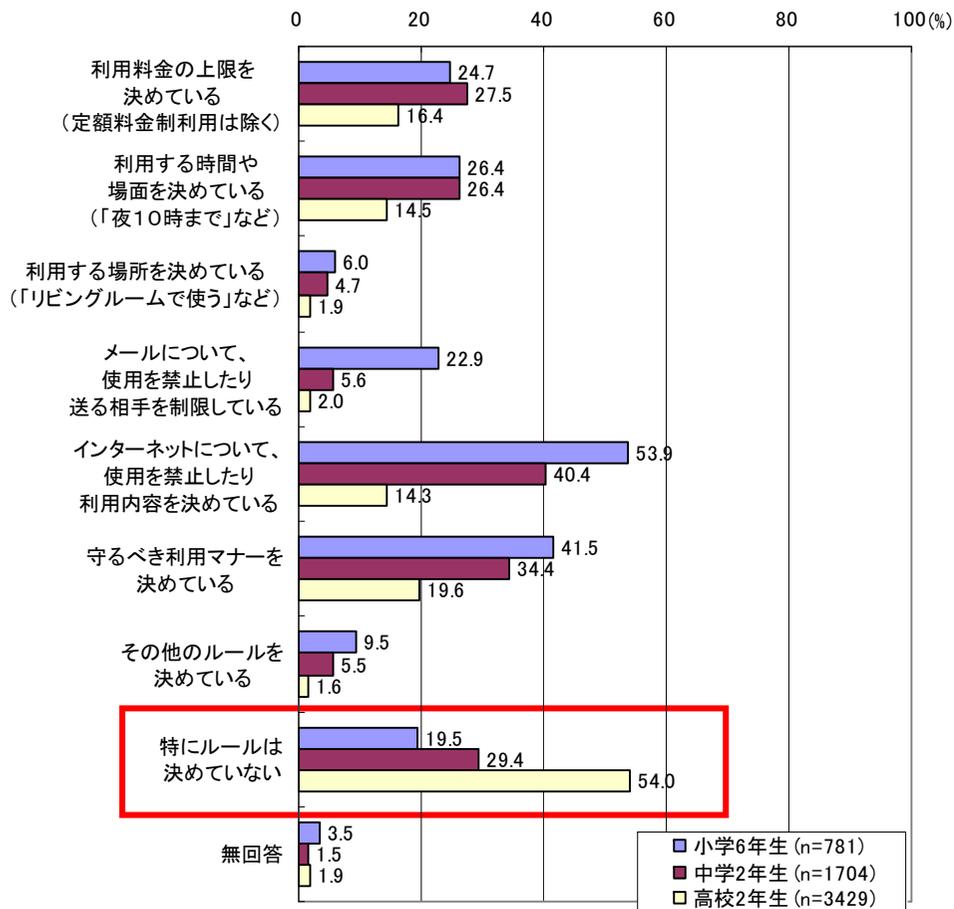
高校2年生



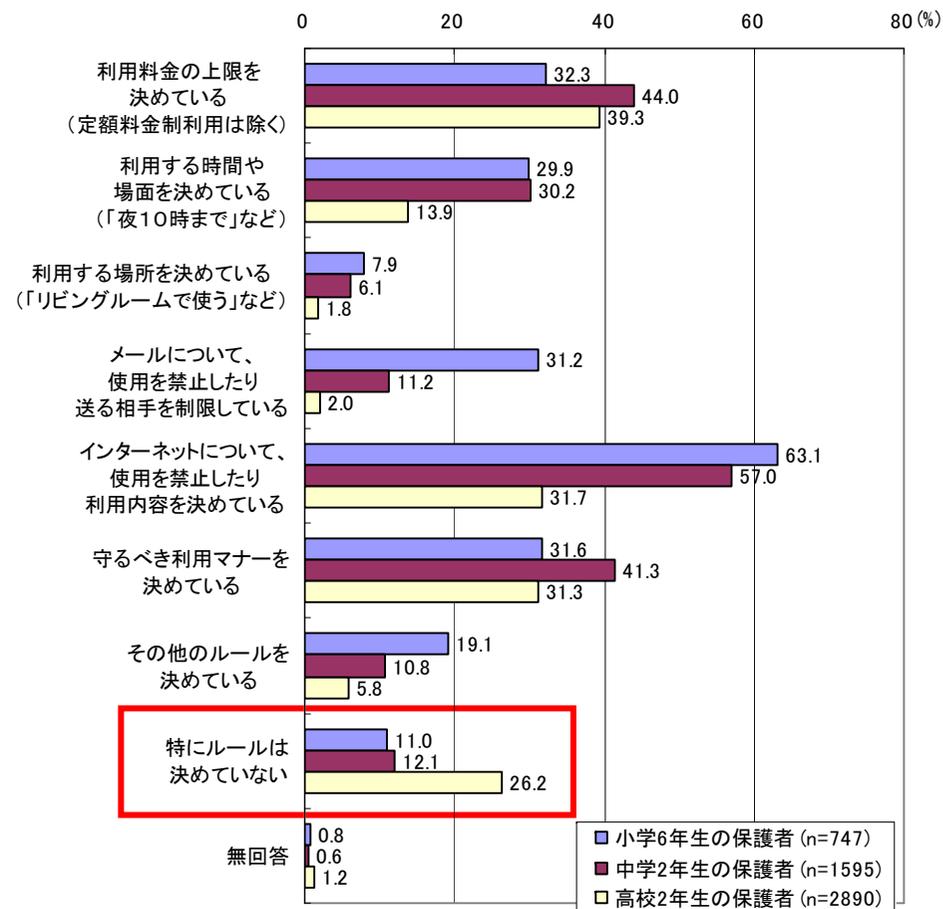
携帯電話についての家庭でのルール(子どもと保護者の比較)

・保護者に比べて子どもは、ルールを決めているという認識が低く、「特にルールは決めていない」という回答が多い。

携帯電話を持っている児童生徒

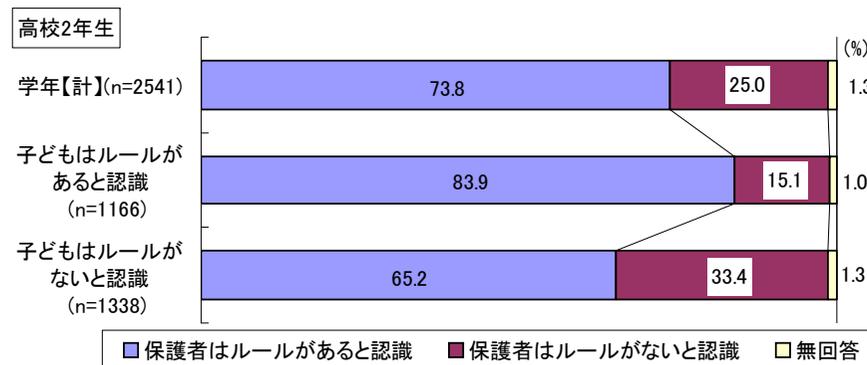
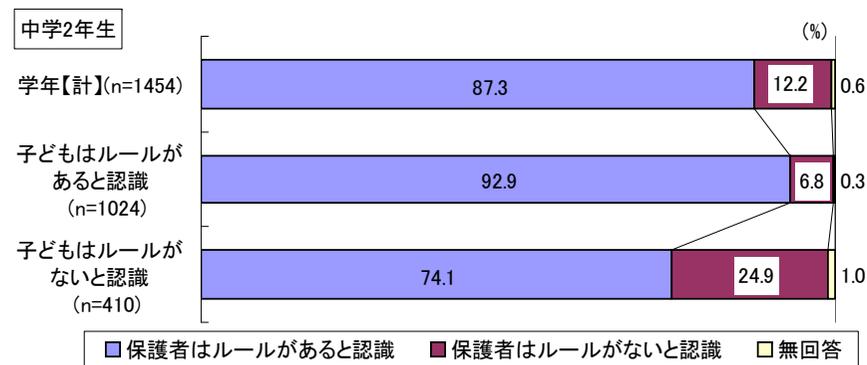
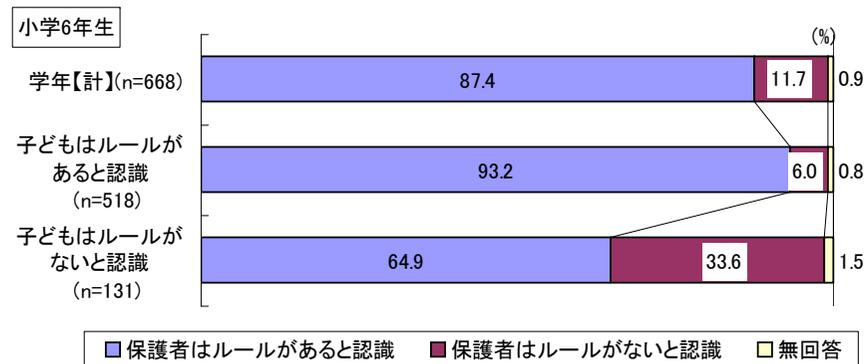


携帯電話を持たせている保護者



家庭におけるルールについての子どもと保護者の認識の差

・子どもと保護者の間には、携帯電話に関するルールの認識に大きな差がある。

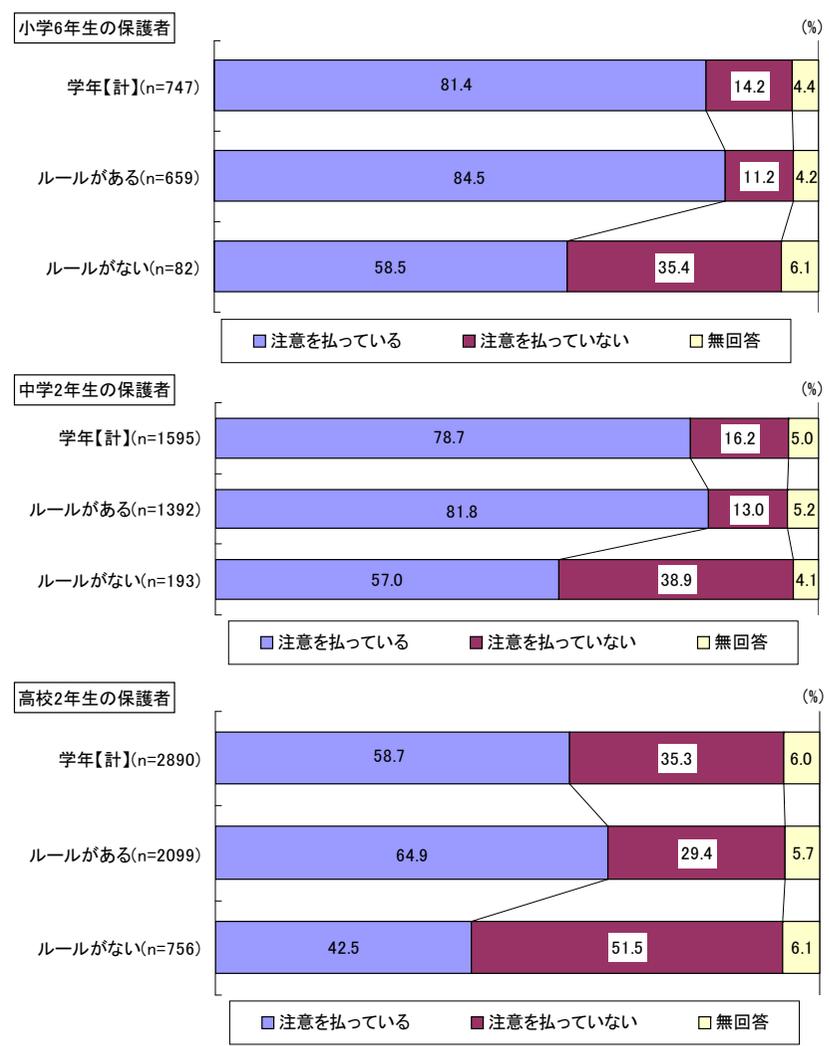
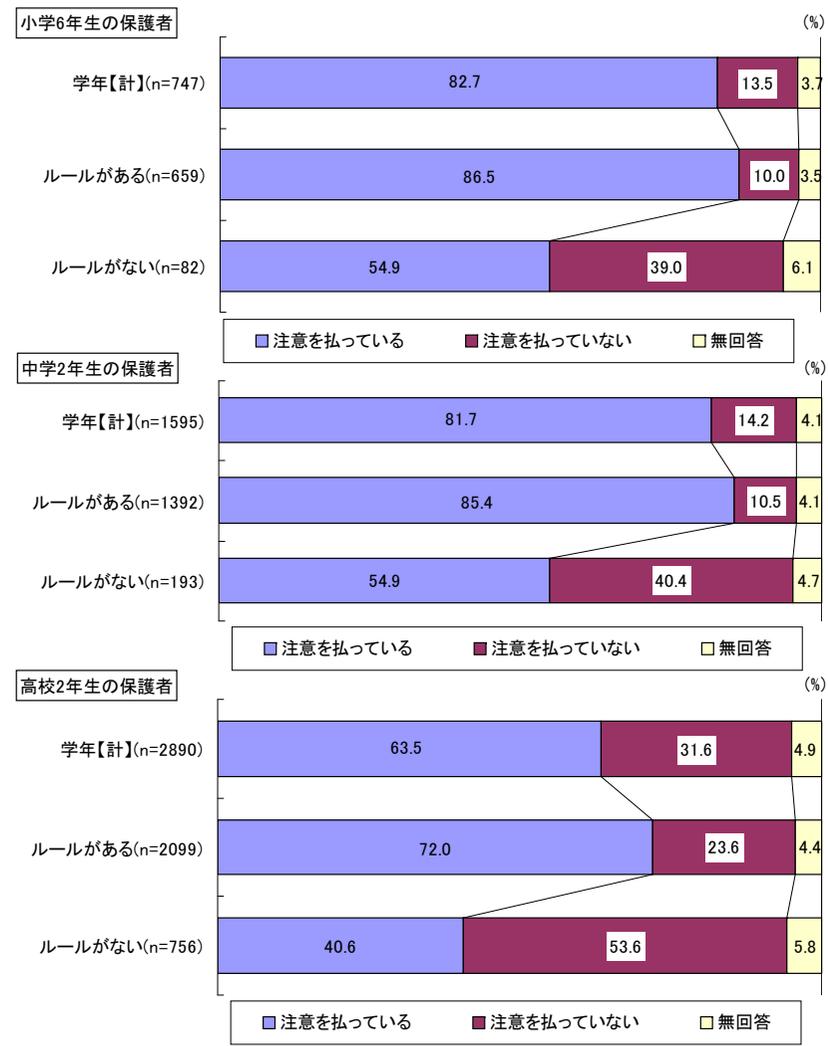


家庭におけるルールの有無と保護者の見守り姿勢(1)

・家庭において携帯電話に関するルールがある場合、保護者が子どもの携帯電話の使い方に注意を払っている割合が多い。

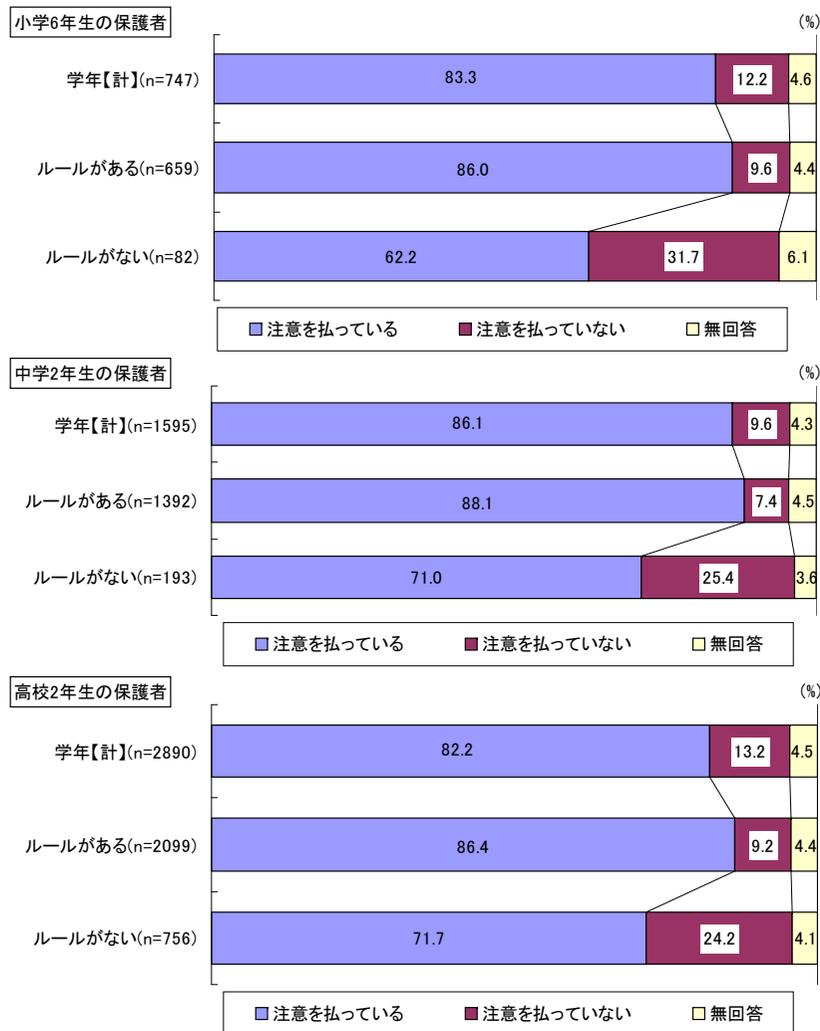
(1) 子どもに携帯電話の危険性や注意点について説明する

(2) 子どもが携帯電話に接する様子を気をつけて見守る

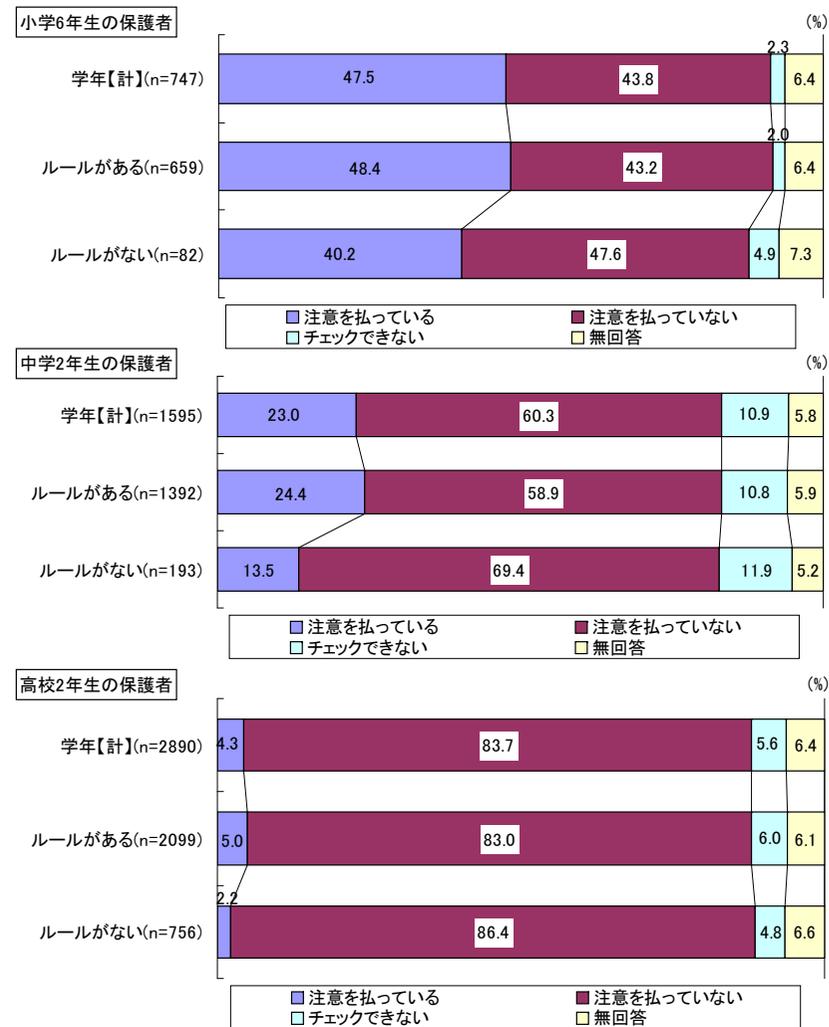


家庭におけるルールの有無と保護者の見守り姿勢(2)

(3) 利用明細を見て子どもの使い方を把握する



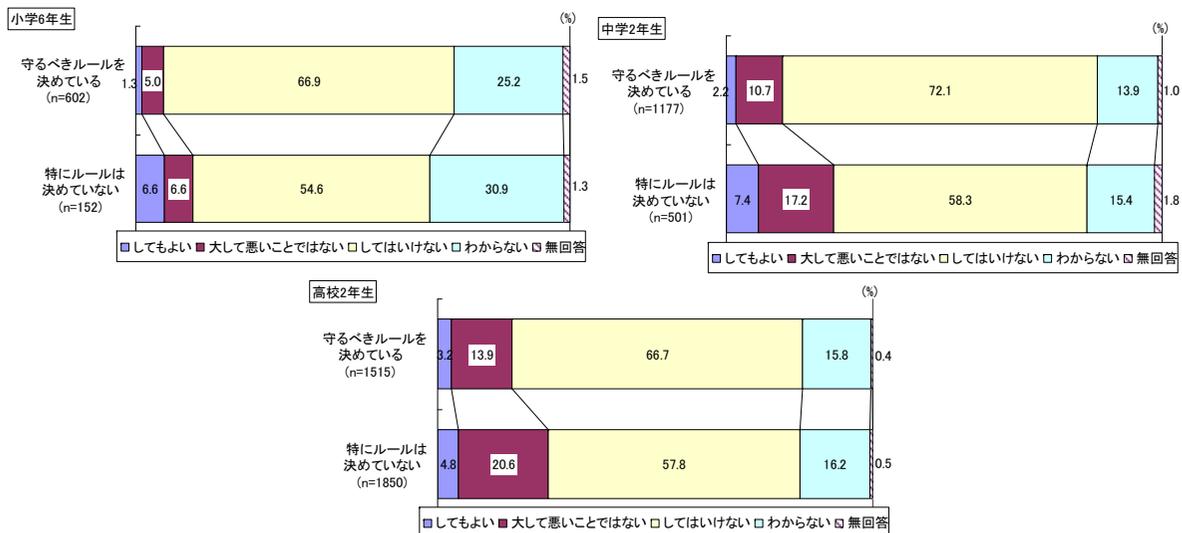
(4) 子どもの携帯電話のメール内容をチェックする



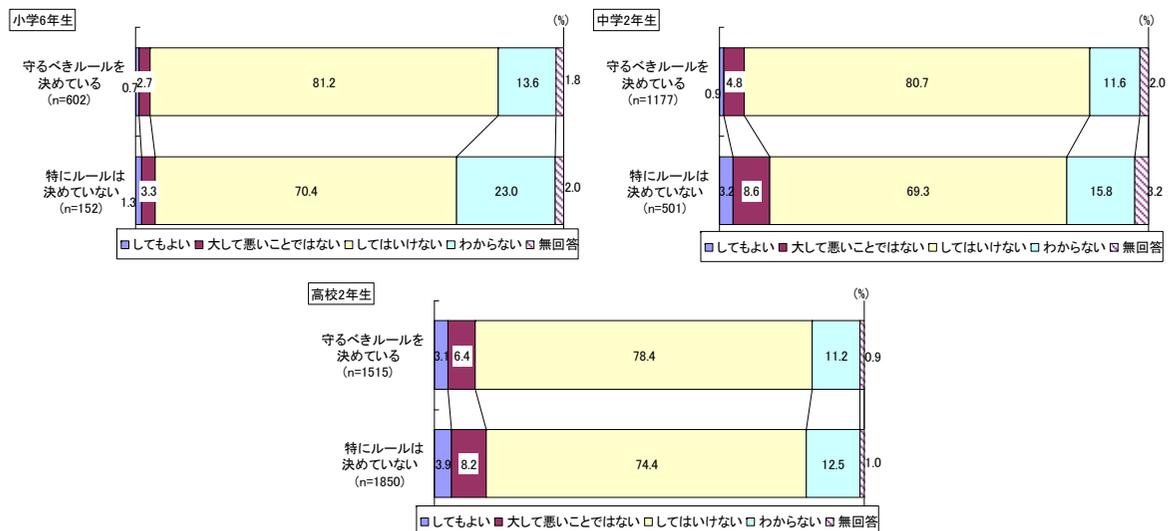
家庭でのルールの有無と子どもの意識(1)

・ 守るべきルールを家庭で決めている子どもは、「してはいけない」と考える割合が多い。

●「自分に来たチェーンメールを転送する」ことについて

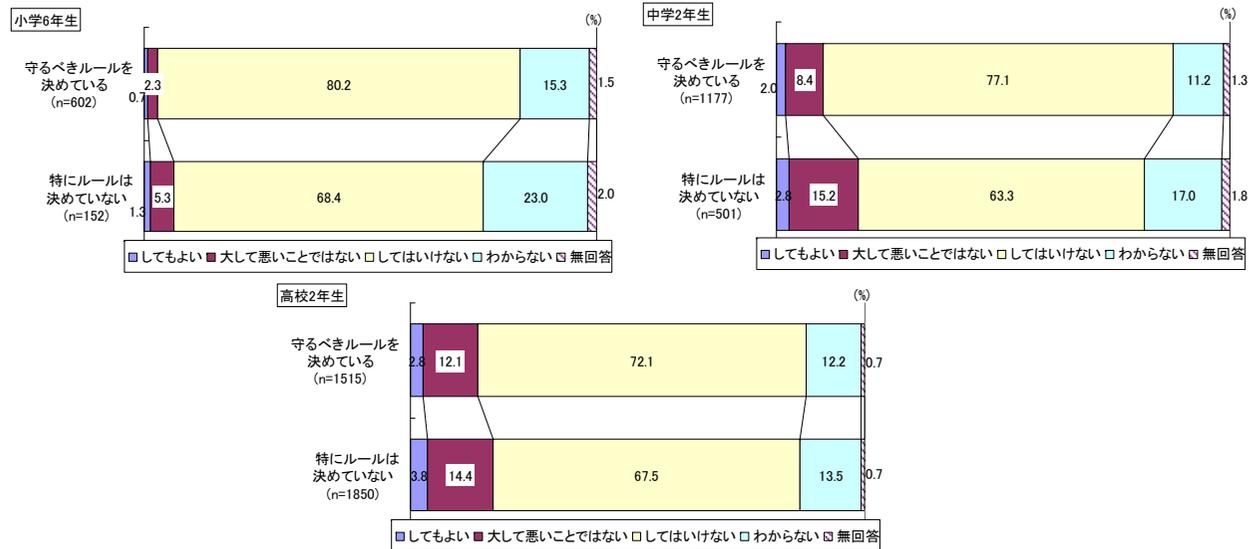


●「インターネットの掲示板やメールに他人のことを自由に書き込む」ことについて

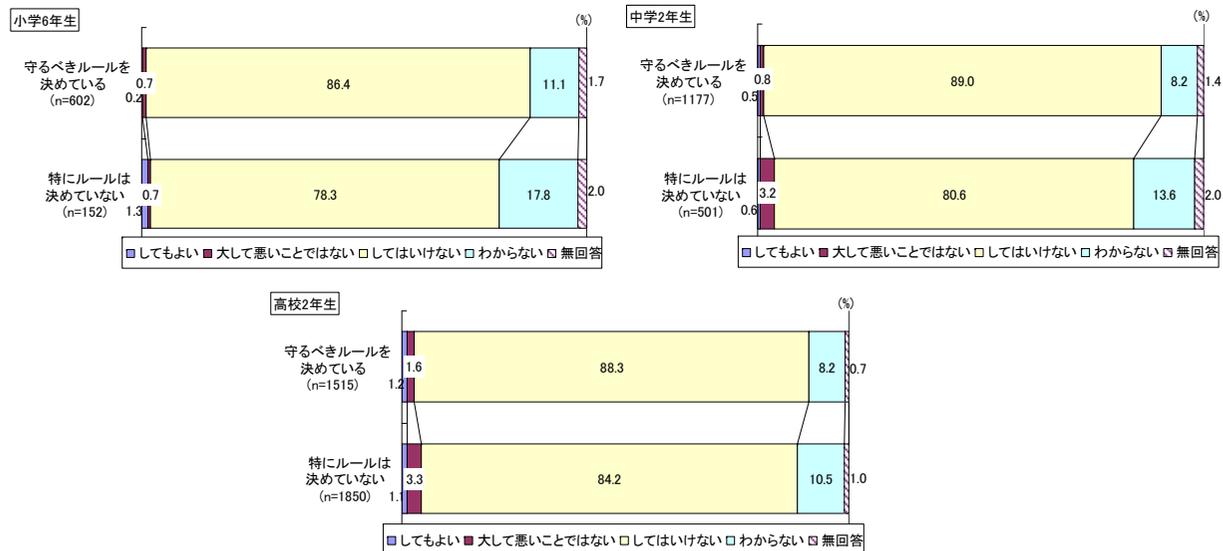


家庭でのルールの有無と子どもの意識(2)

●「プロフやブログなどに自分の住所や写真を載せる」ことについて



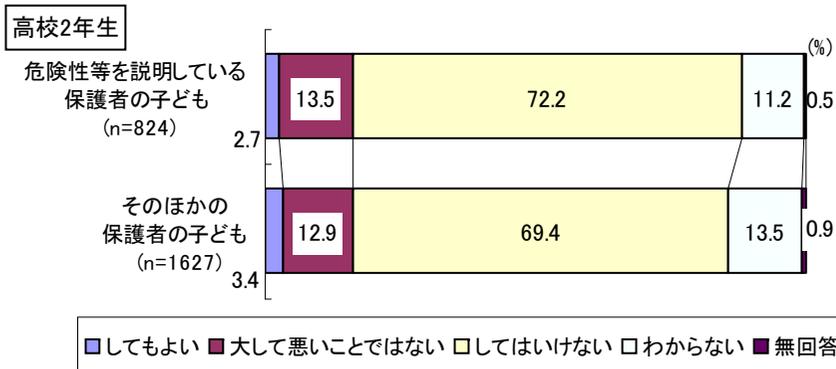
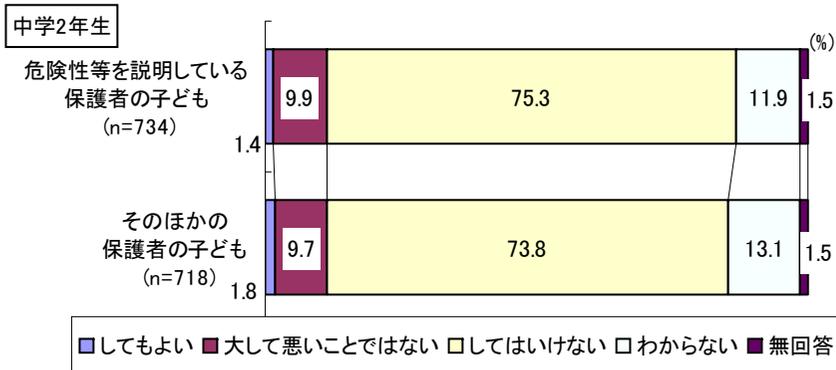
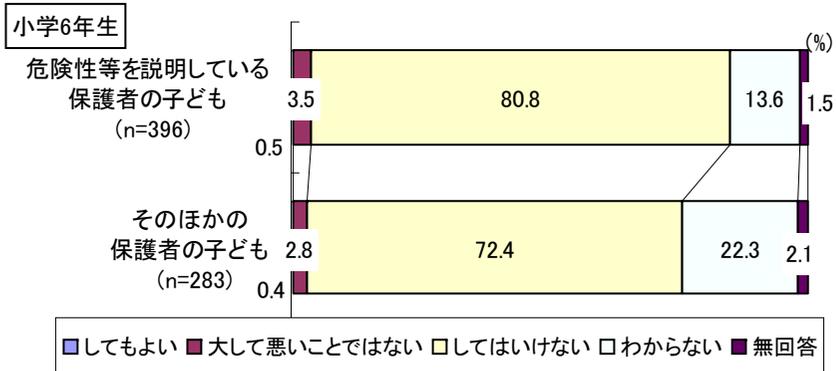
●「友だちの住所や写真をインターネットの掲示板などに書き込む」ことについて



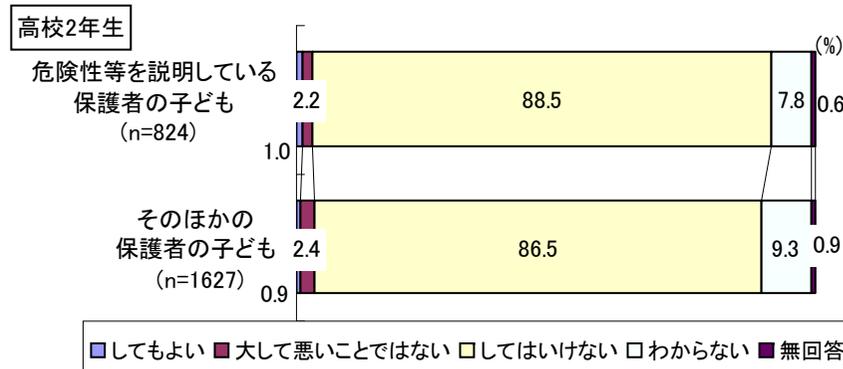
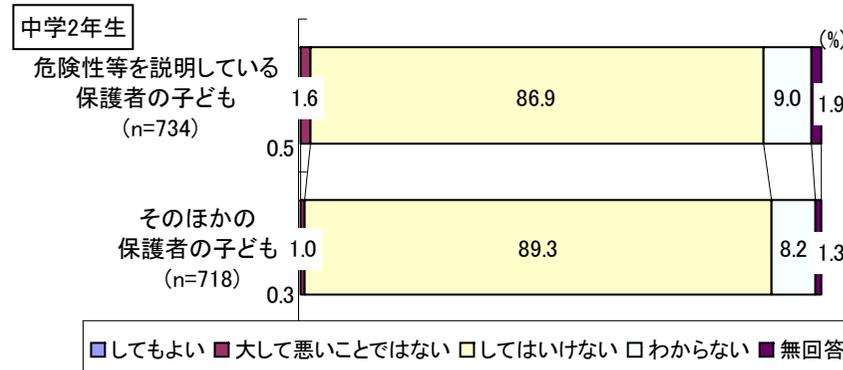
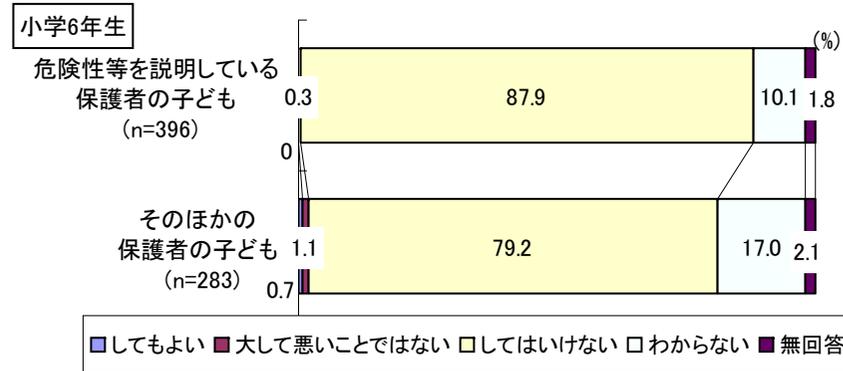
子どもの携帯電話利用への関心・注意と子どもの意識(1)

※グラフの見方:「危険性等を説明している保護者」とは、「子どもに携帯電話の危険性や注意点を説明する」の設問に、「している」と回答した保護者をさす。

●プロフやブログなどに自分の住所や写真を載せる



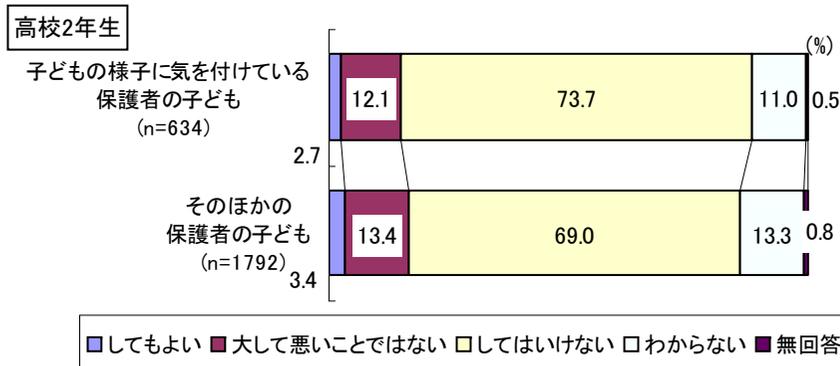
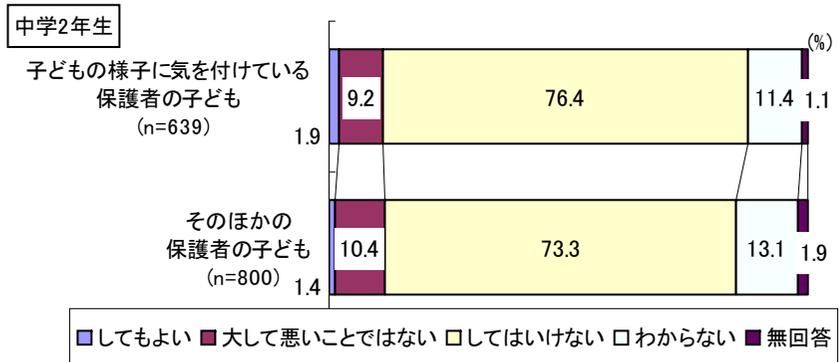
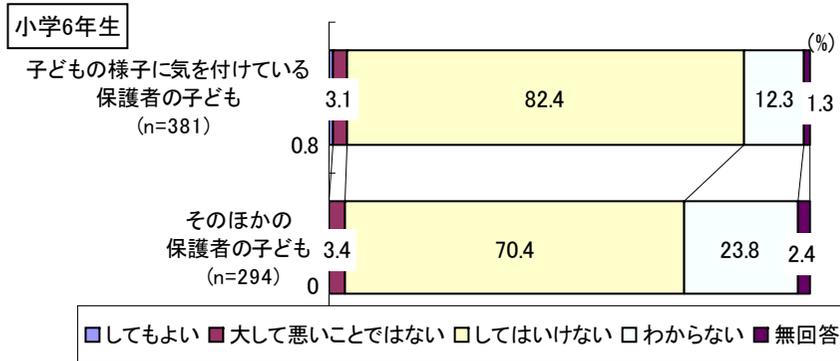
●友だちの住所や写真をインターネットの掲示板などに書き込む



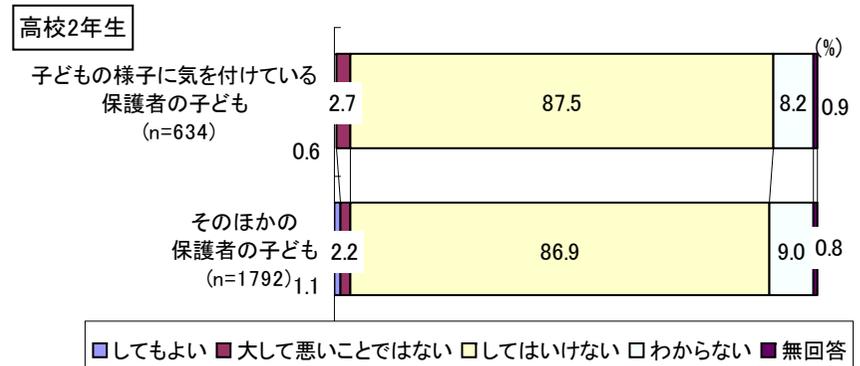
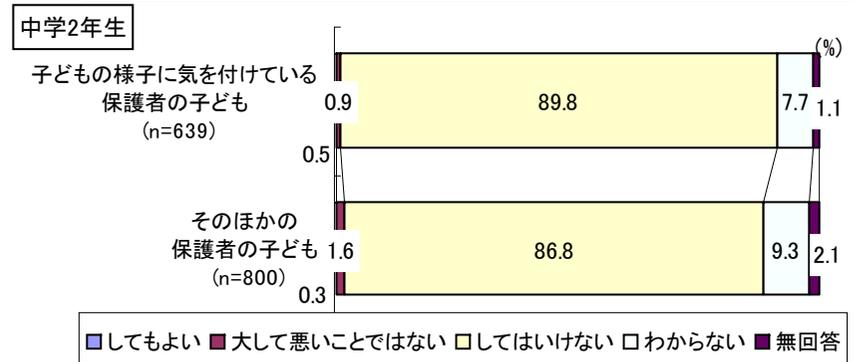
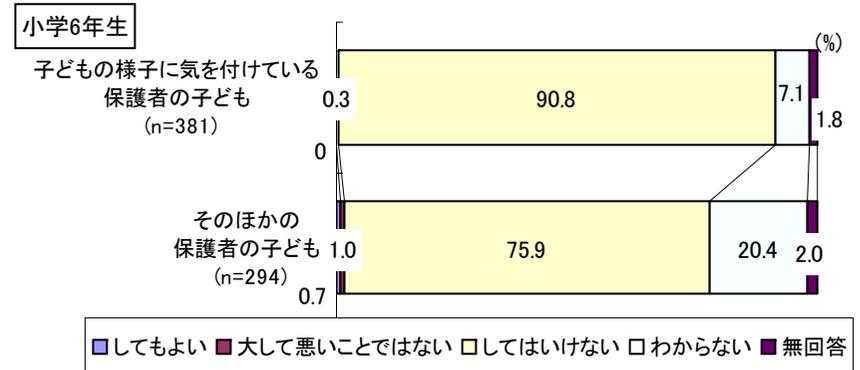
子どもの携帯電話利用への関心・注意と子どもの意識(2)

※グラフの見方:「子どもの様子に気を付けている保護者」とは、「子どもが携帯電話に接する様子を気を付けて見守る」の設問に、「している」と回答した保護者をさす。

●プロフやブログなどに自分の住所や写真を載せる



●友だちの住所や写真をインターネットの掲示板などに書き込む

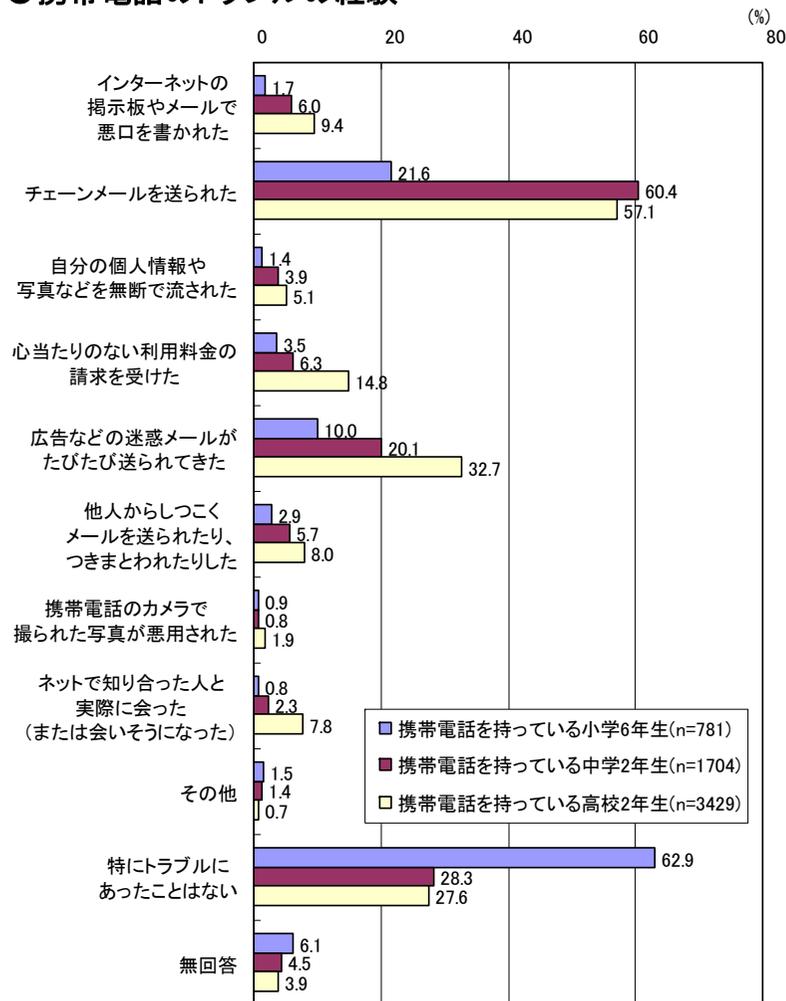


携帯電話の利用によるトラブル・問題行動

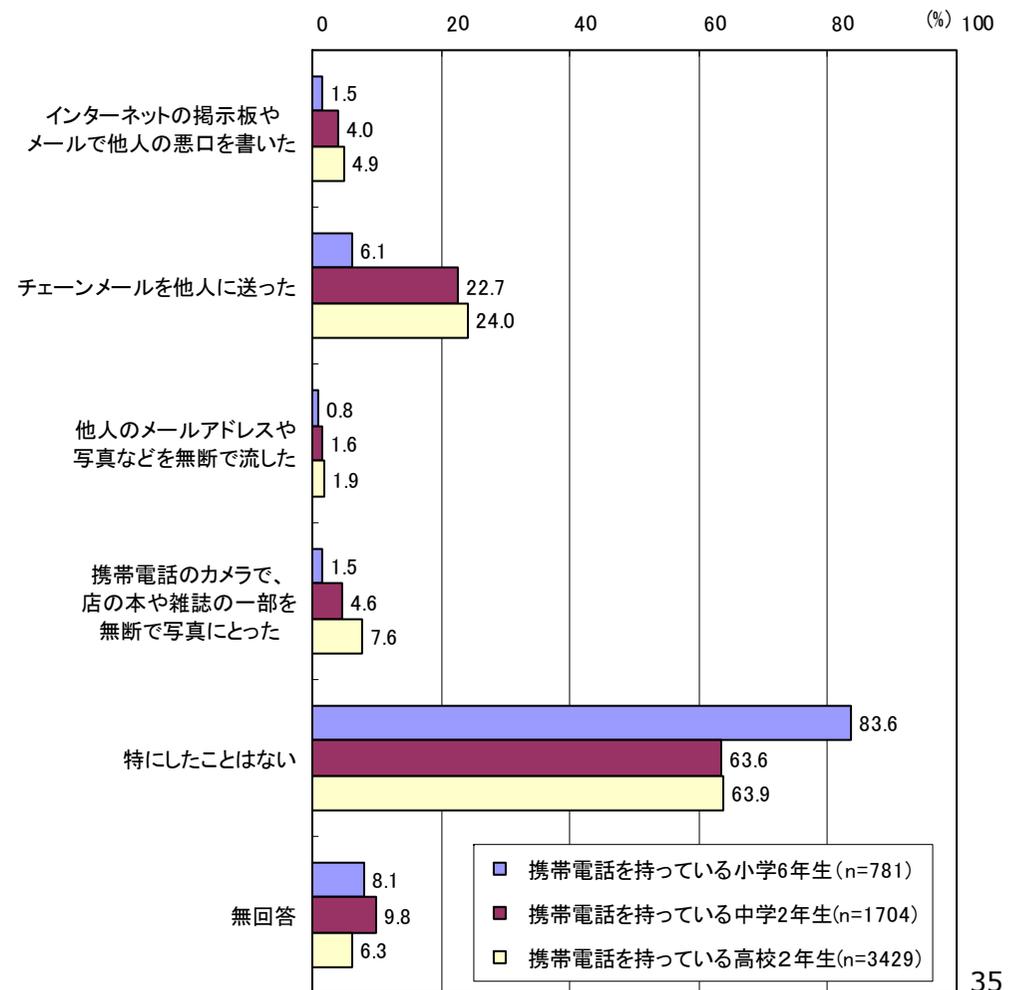
※携帯電話を所有する児童生徒の回答(複数回答)

- ・小6では、「特にトラブルになったことはない」が最も多い。
- ・中2、高2では、「チェーンメールを送られた」「迷惑メールがたびたび送られてきた」が増加。
- ・一方で、中2、高2では、「チェーンメールを他人に送った」も2割強。

●携帯電話のトラブルの経験



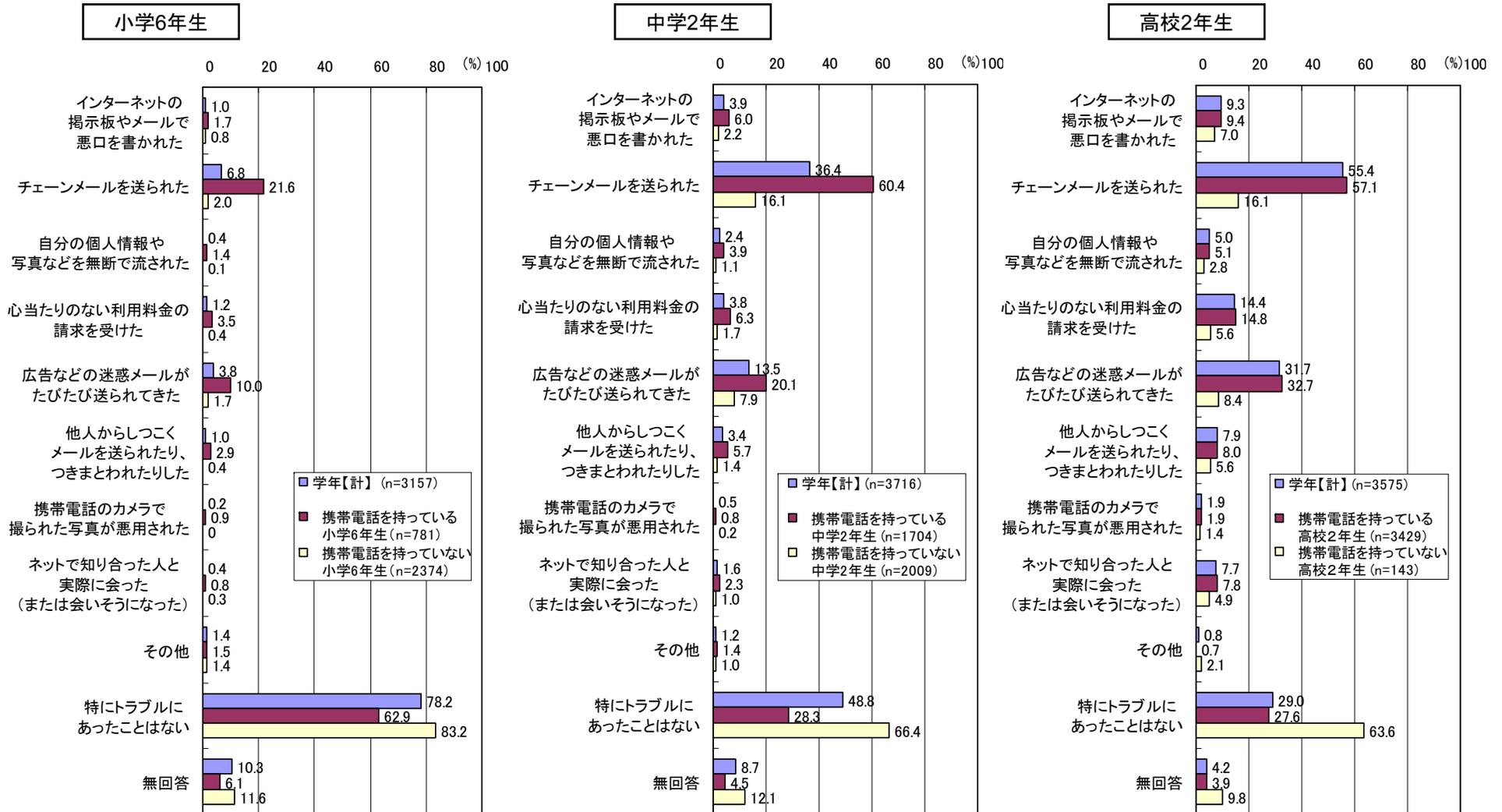
●携帯電話所有者の問題行動の経験



携帯電話やパソコン利用によるトラブル(携帯電話有無別)

※全員に質問、複数回答

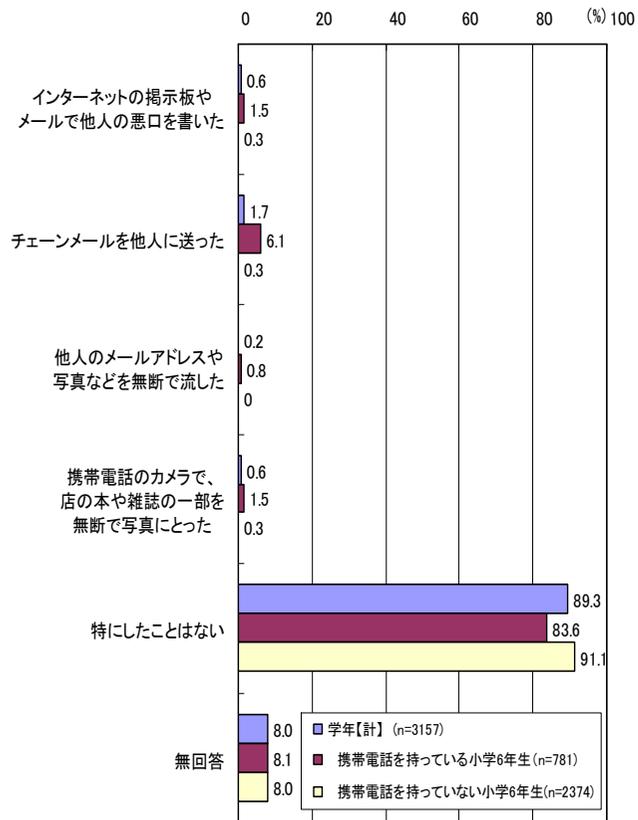
- ・小6では、「特にトラブルになったことはない」が最も多い。
- ・中2、高2では、「チェーンメールを送られた」「広告などの迷惑メールがたびたび送られてきた」が増加。



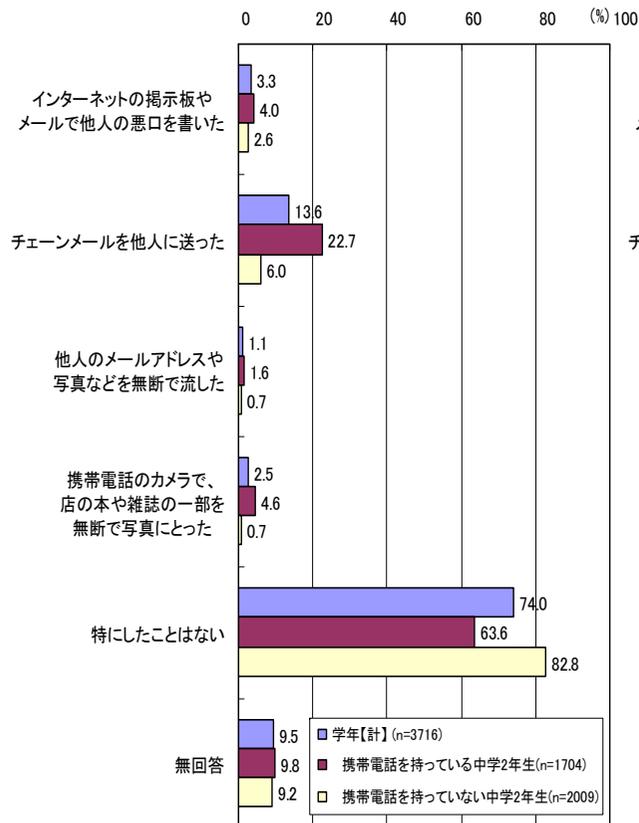
携帯電話やパソコン利用による問題行動(携帯電話有無別)

※全員に質問、複数回答

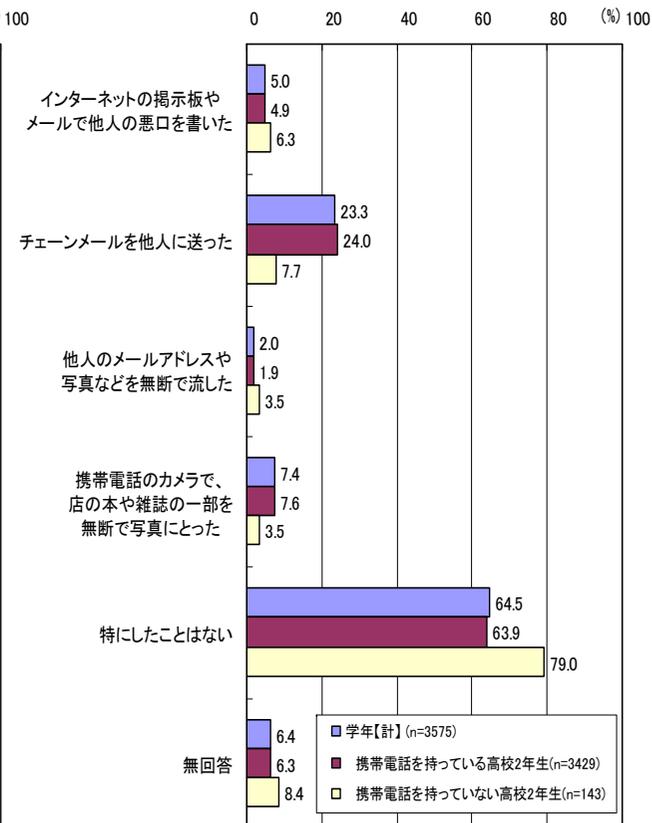
小学6年生



中学2年生

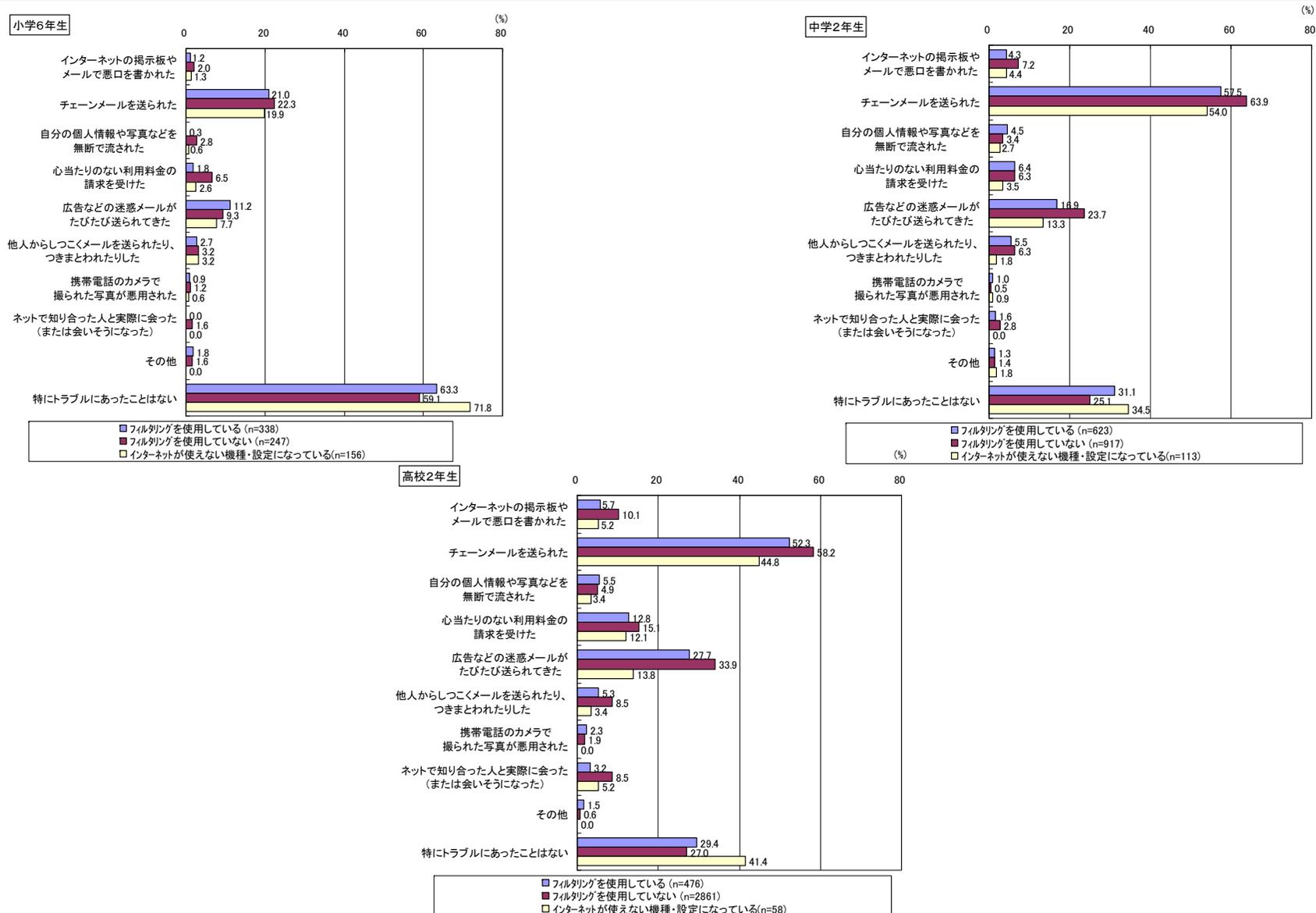


高校2年生



携帯電話の利用によるトラブル(フィルタリング有無別)

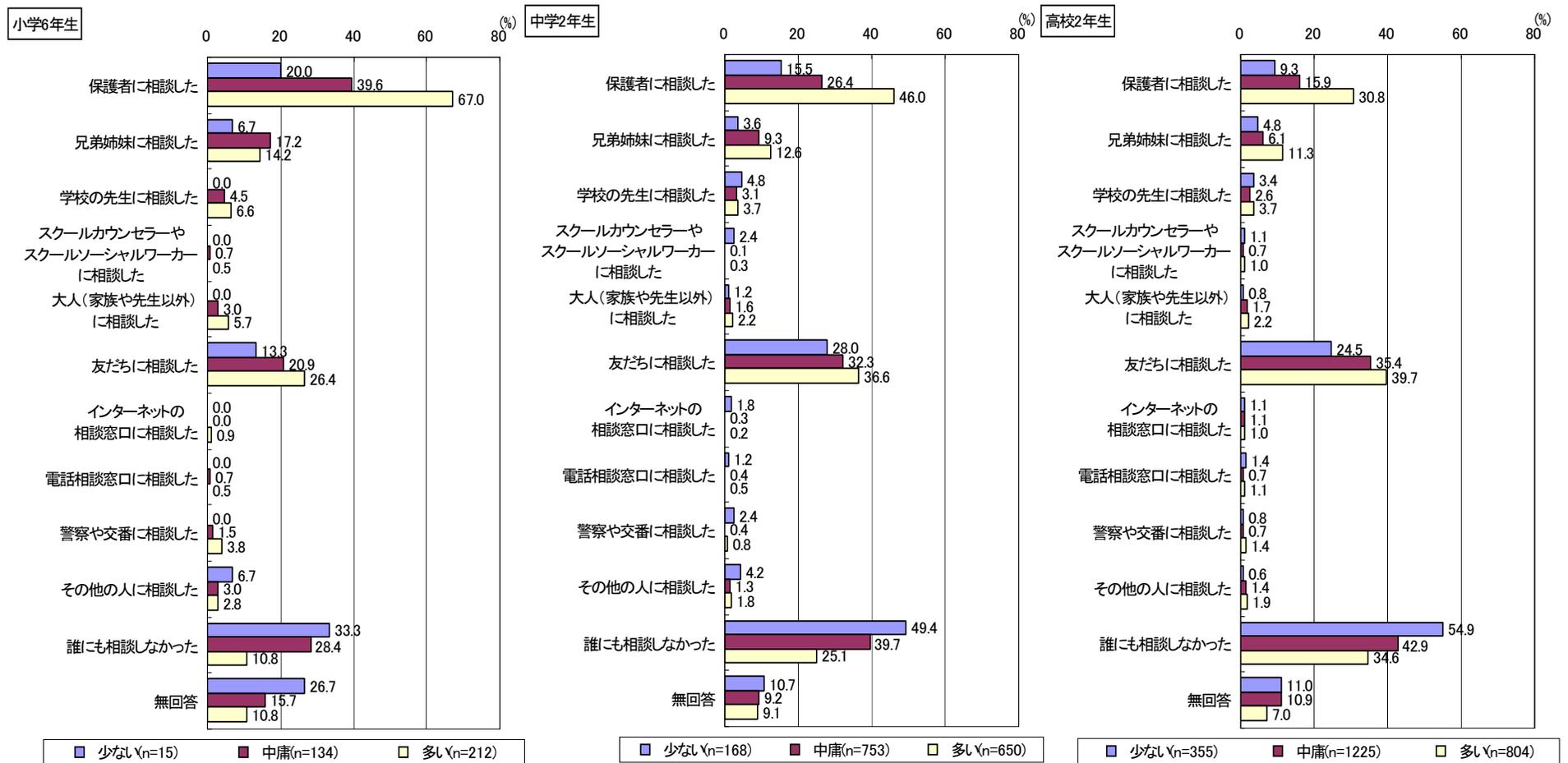
- ・フィルタリングを使用していない子どもは、それ以外の子どもに比べ、「チェーンメールを送られた」「広告などの迷惑メールがたびたび送られてきた」などの割合が多い。



家庭でのコミュニケーションの状況とトラブル時の相談相手

※グラフの見方: 児童生徒調査Q15の計7つの設問(「学校での出来事を保護者に話す」「朝起きたら家族に挨拶する」等)について、選択肢1:3点、2:2点、3:1点、4:0点でポイント化して総合計を算出し、コミュニケーションの頻度について、次のように定義した。 1~7点:「少ない」 8~14点:「中庸」 15~21点:「多い」

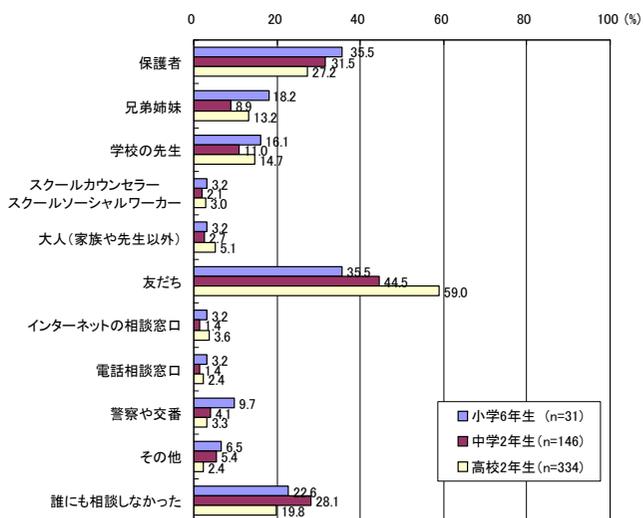
- ・ 家庭でのコミュニケーションが多い子どもほど、保護者に相談した割合が多い。
- ・ 家庭でのコミュニケーションが少ない子どもほど、誰にも相談しなかった割合が多い。



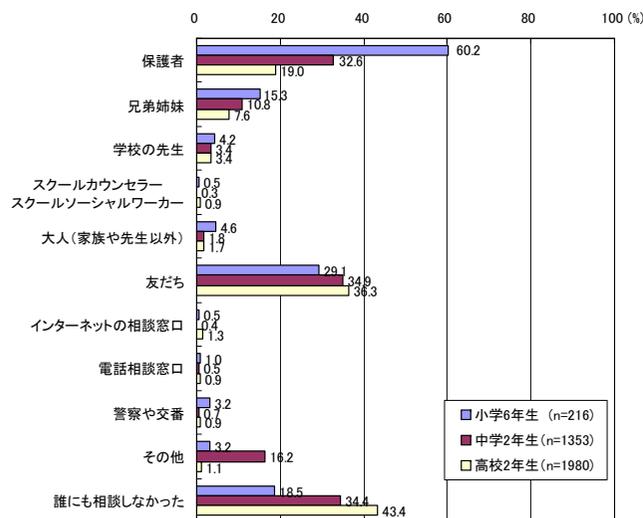
トラブルの内容と相談相手

- ・トラブルにあったときは、保護者や友だちに相談する割合が多いが、学年が上がると誰にも相談しないという子どもも比較的多くなる。

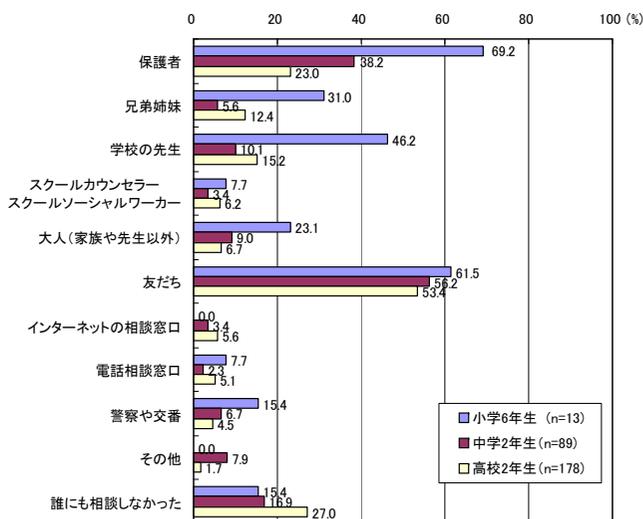
●インターネットの掲示板やメールで悪口を書かれた



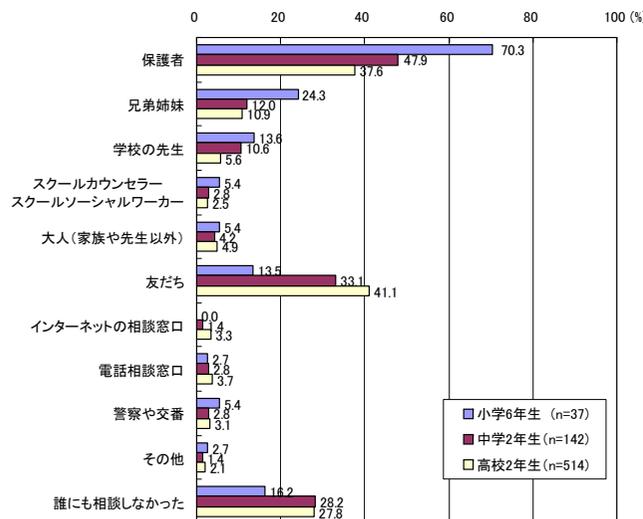
●チェーンメールを送られた



●自分の個人情報や写真などを無断で流された



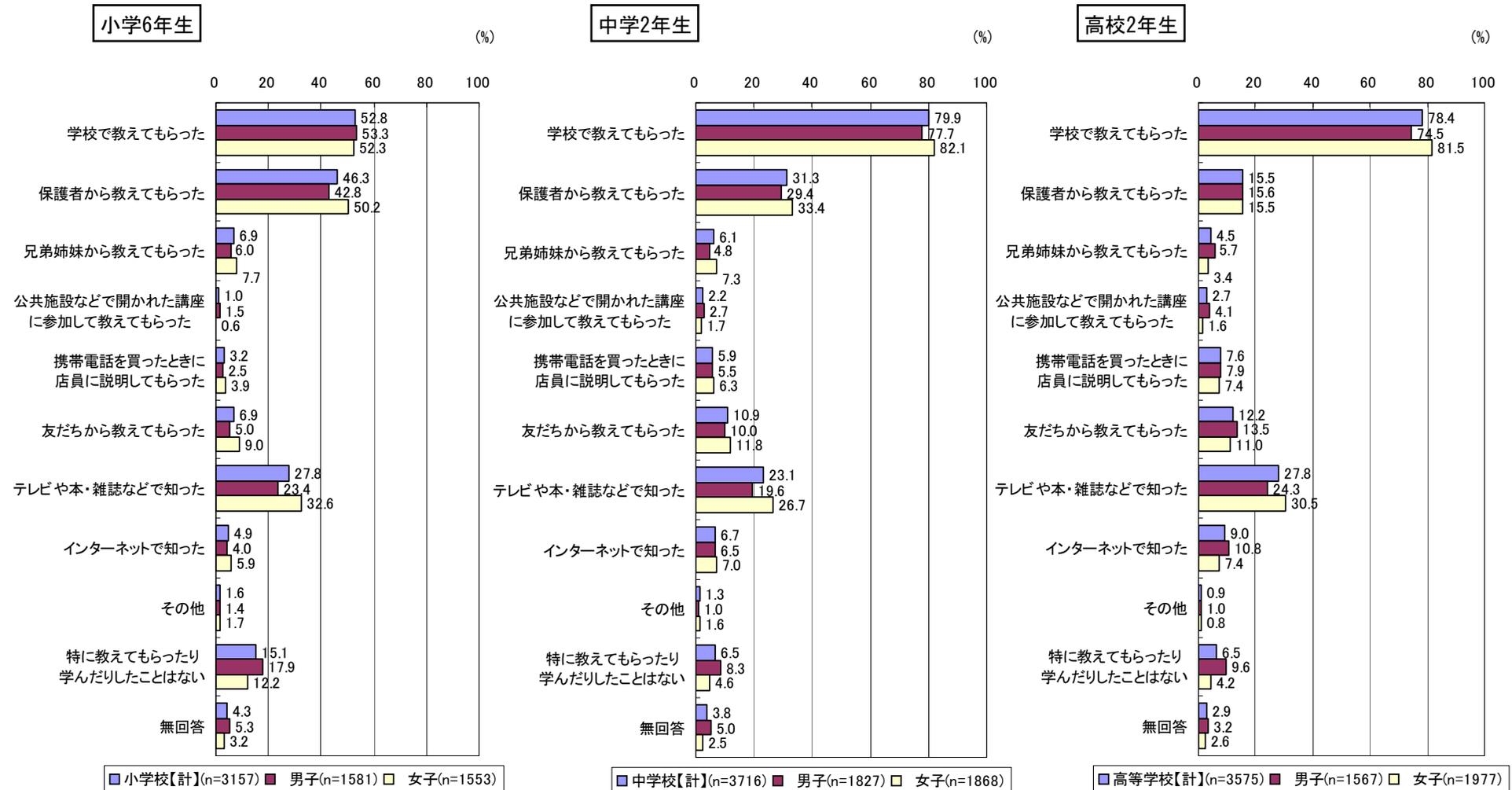
●心当たりのない利用料金の請求を受けた



携帯電話やパソコンの危険性に関する学習経験(子ども)

※全員に質問(複数回答)

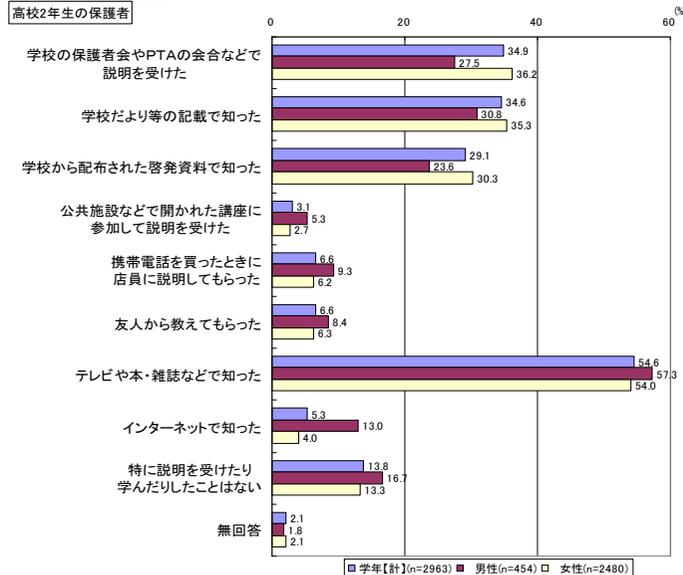
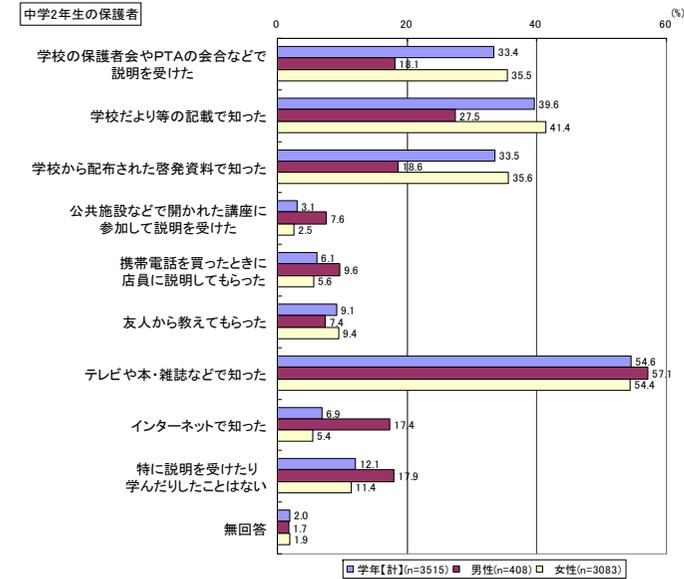
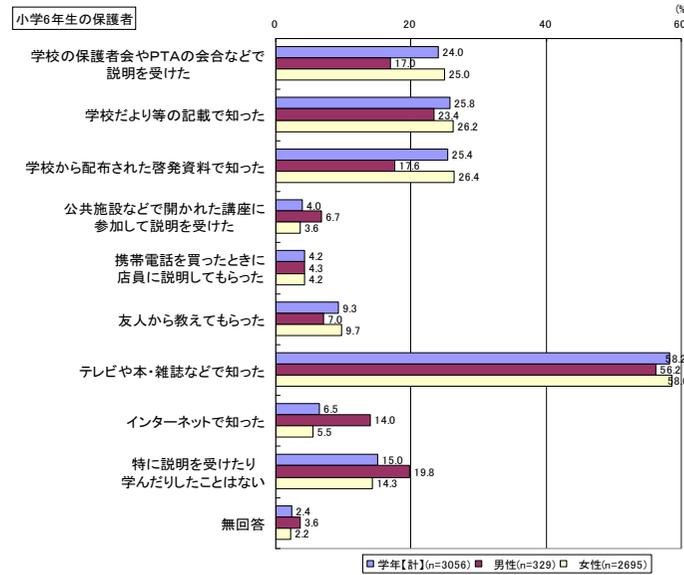
・どの学年でも、「学校で教えてもらった」が最も多い。(小6：52.8%、中2：79.9%、高2：78.4%)



携帯電話やパソコンの危険性に関する学習経験(保護者)

※全員に質問(複数回答)

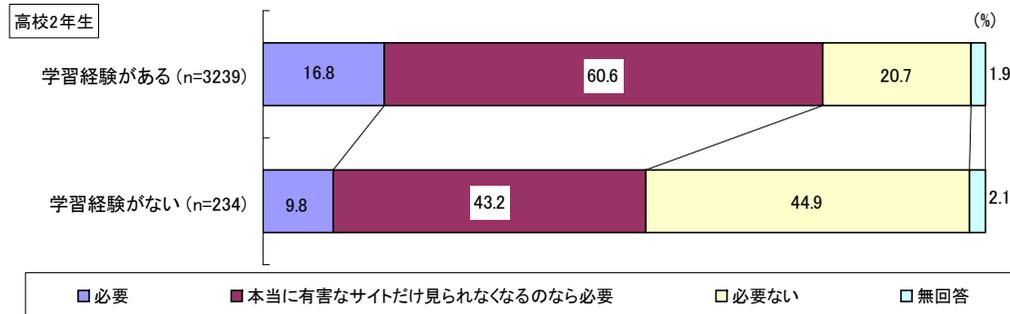
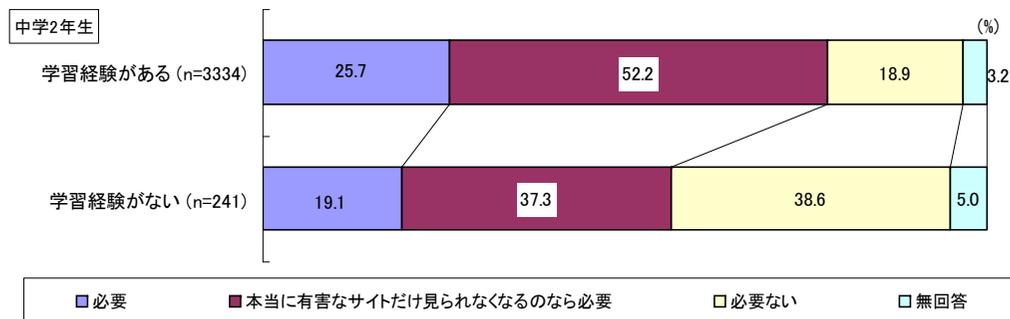
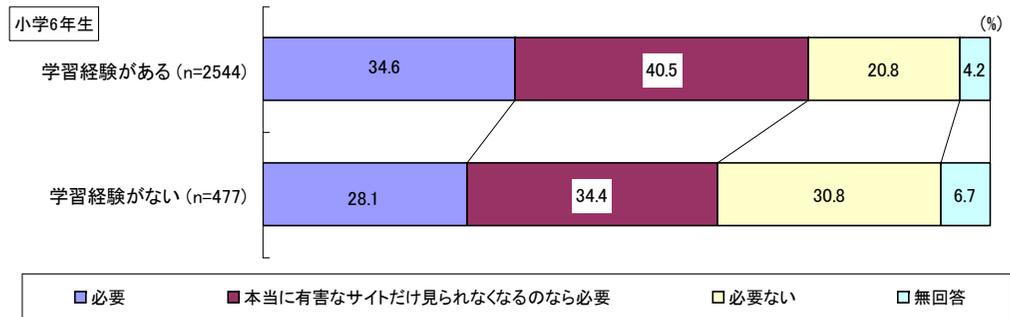
- 「テレビや本・雑誌などで知った」が最も多いが、それ以外では学校関係の機会を知った割合が多い。



子どもの学習経験とフィルタリングの必要性の意識

●学習経験とフィルタリングの必要性

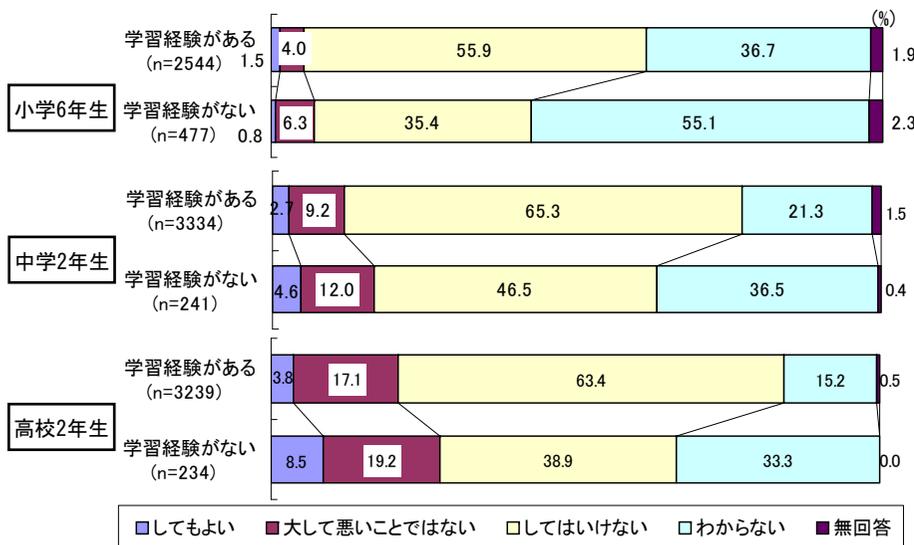
- ・有害サイトやネットいじめの問題などについて学習経験がある子どもは、フィルタリングを必要と考えている割合が多い。



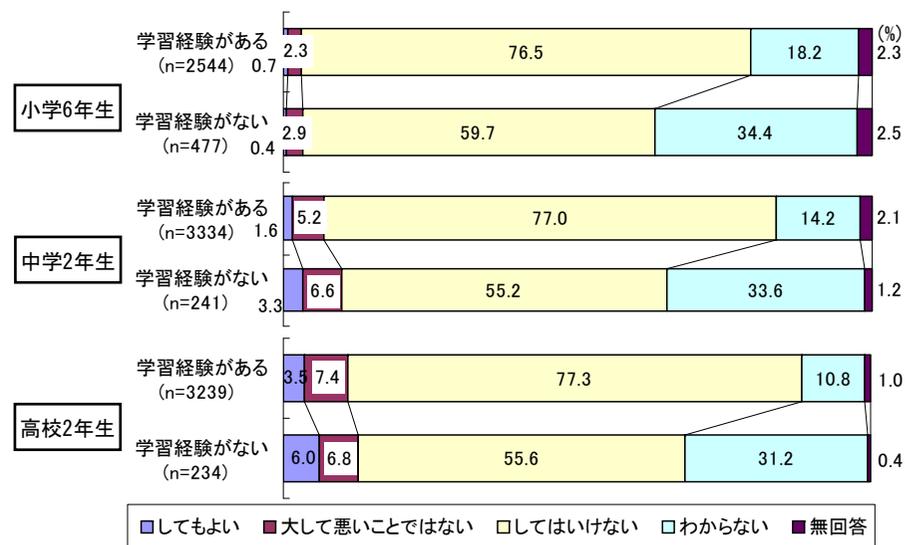
子どもの学習経験とインターネットの利用マナー

・携帯電話等の危険性について学習経験がある子どもは、「してはいけない」と回答する割合が多い。

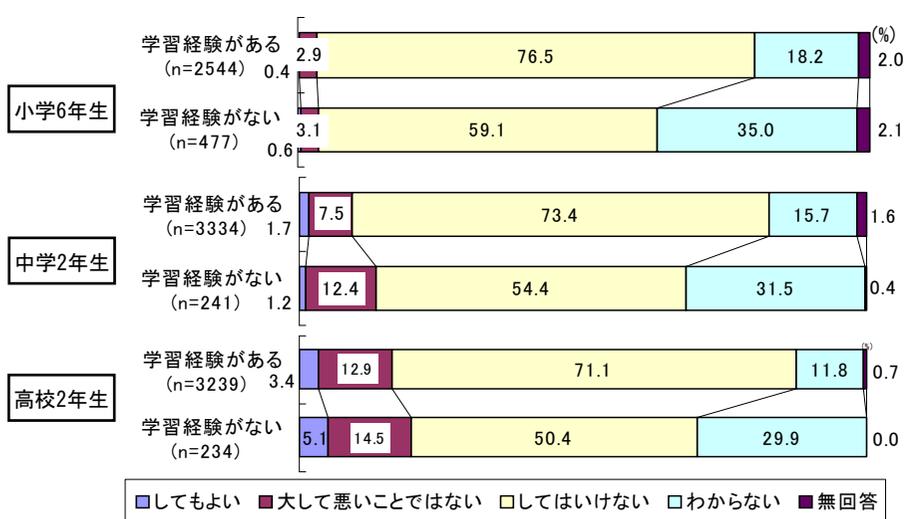
(1) 「自分に来たチェーンメールを転送すること」について



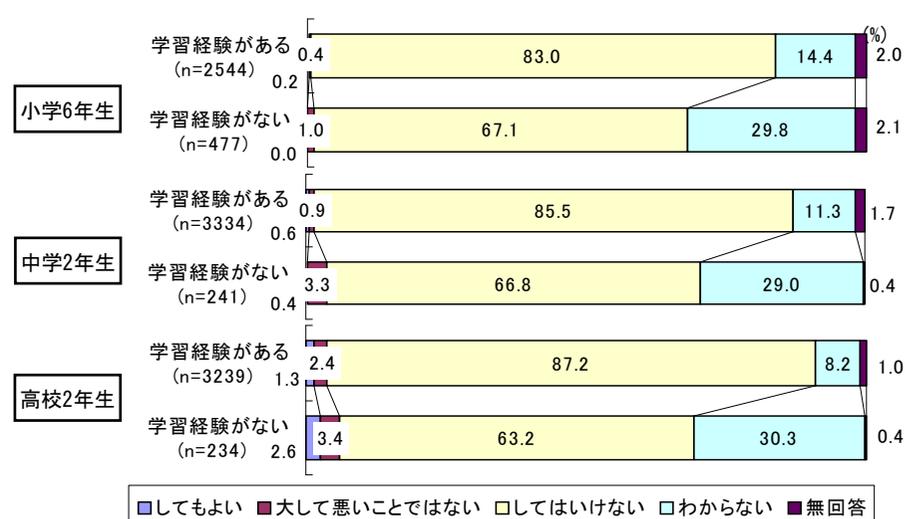
(2) 「インターネットの掲示板やメールに他人のことを自由に書き込むこと」について



(3) 「プロフやブログなどに自分の住所や写真を載せること」について

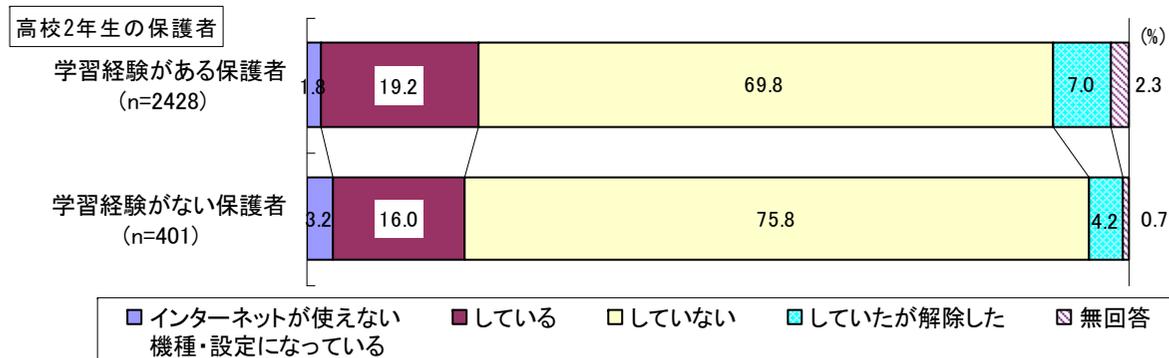
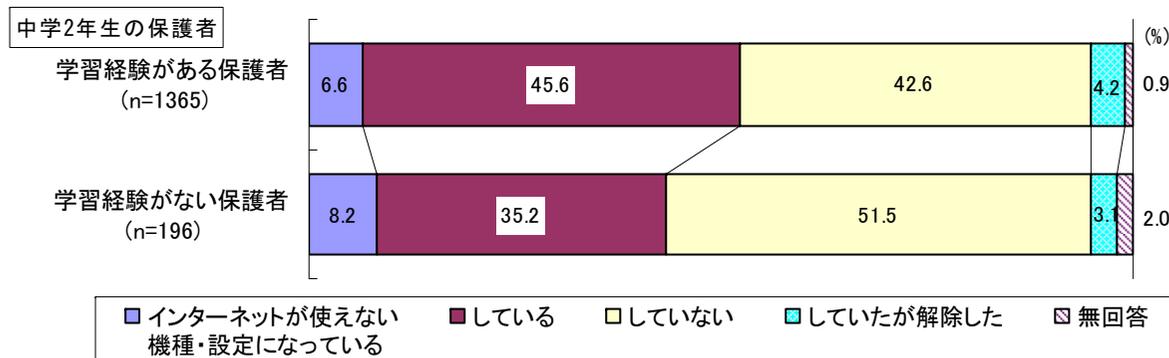
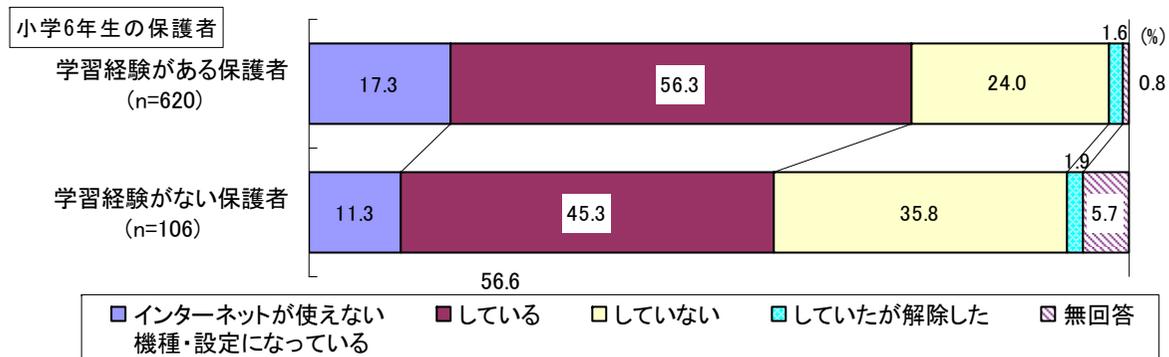


(4) 「友だちの住所や写真をインターネットの掲示板などに書き込むこと」について



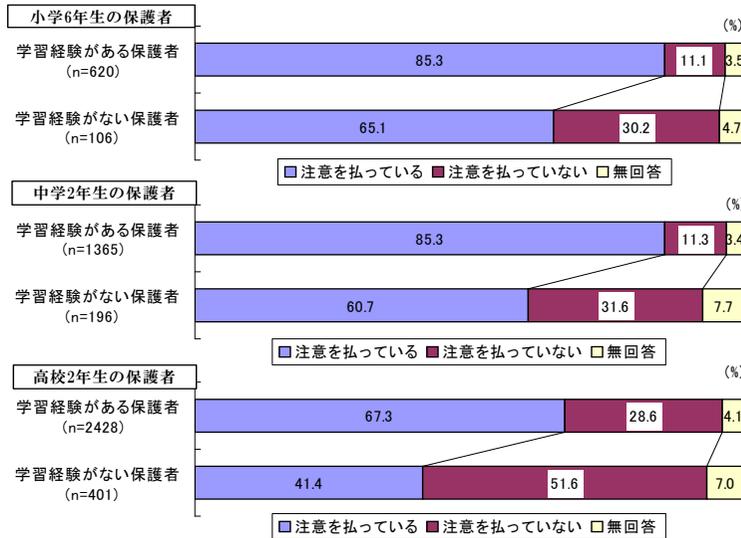
保護者の学習経験とフィルタリングの使用状況

- ・有害サイトやネットいじめの問題などについて学習経験がある保護者は、「インターネットが使えない機種・設定になっている」「（フィルタリングを）している」と思う割合が多い。

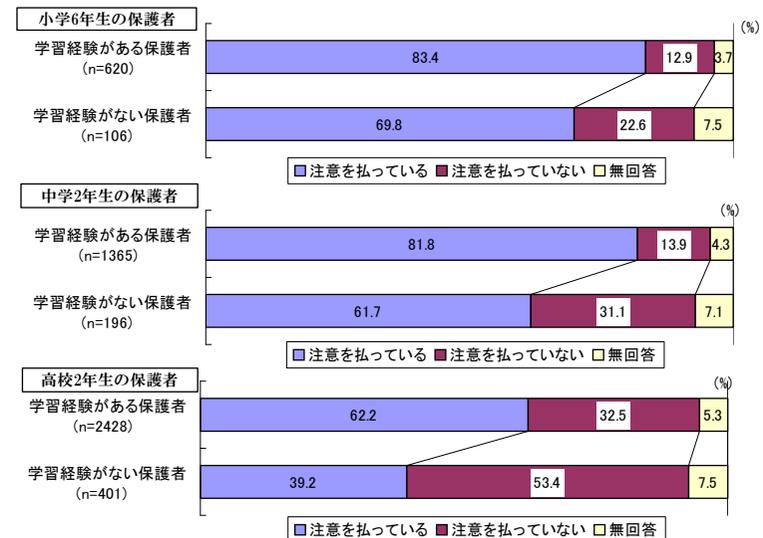


保護者の学習経験と携帯電話への関心・注意

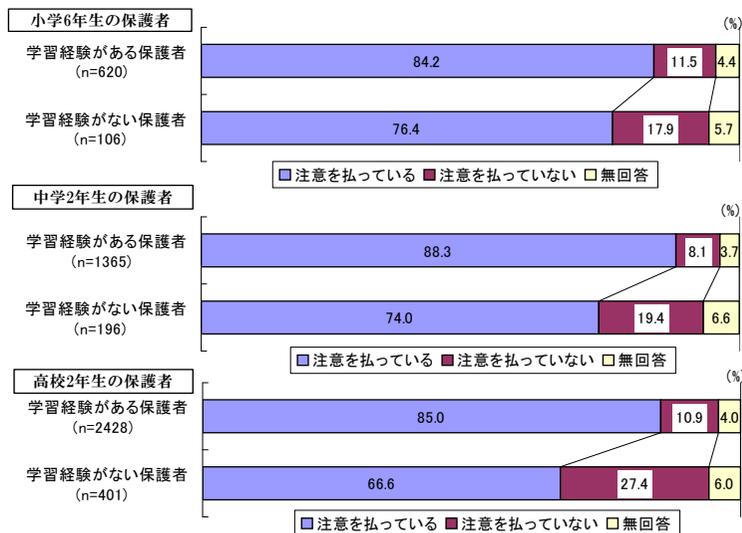
(1) 子どもに携帯電話の危険性や注意点について説明する



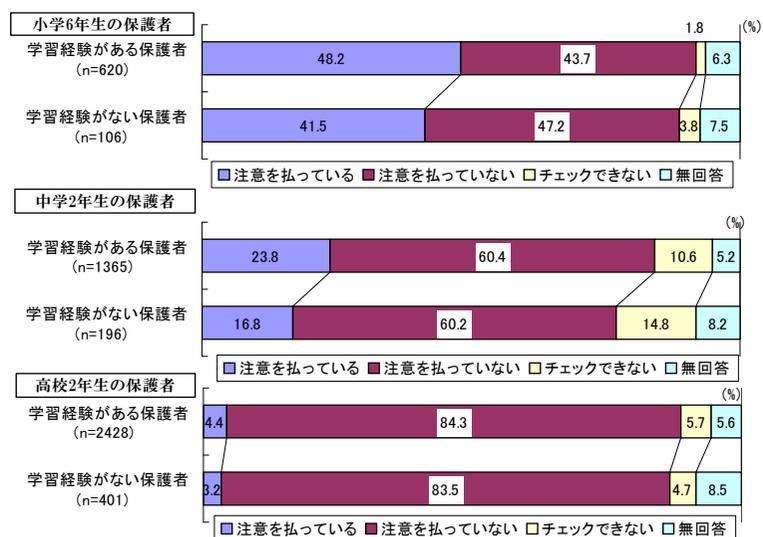
(2) 子どもが携帯電話に接する様子を気をつけて見守る



(3) 利用明細を見て子どもの使い方を把握する



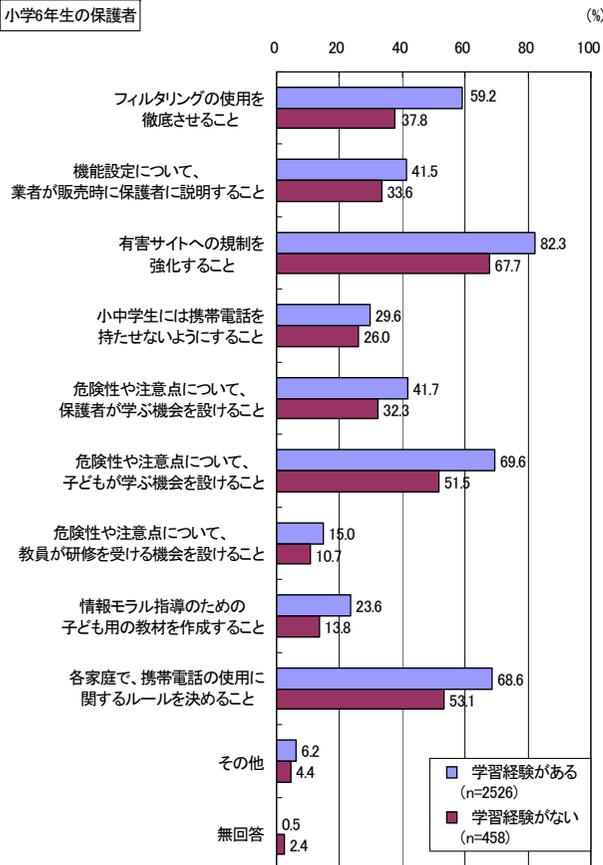
(4) 子どもの携帯電話のメール内容をチェックする



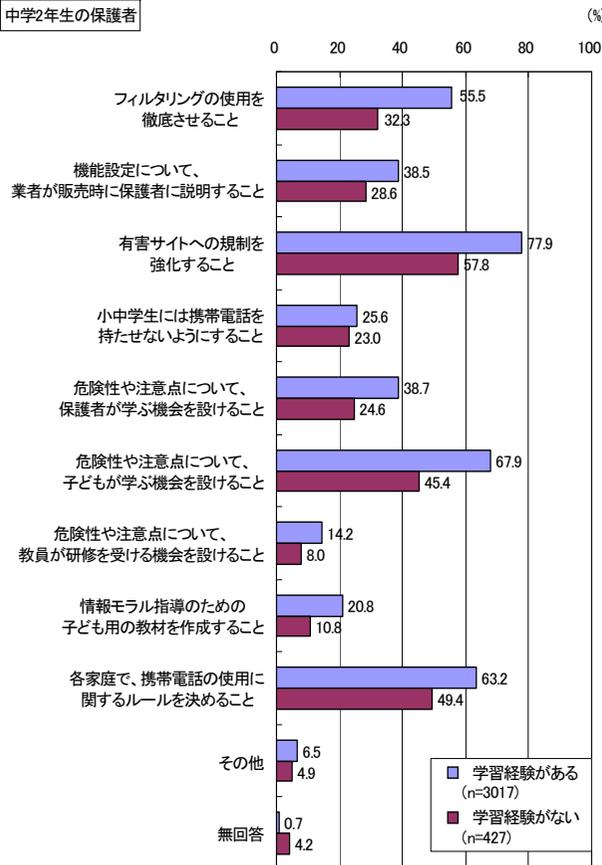
保護者の学習経験と携帯電話に関して必要な取組

・ 学習経験がある保護者の方が、携帯電話に関する必要な取組を求める割合が多い。

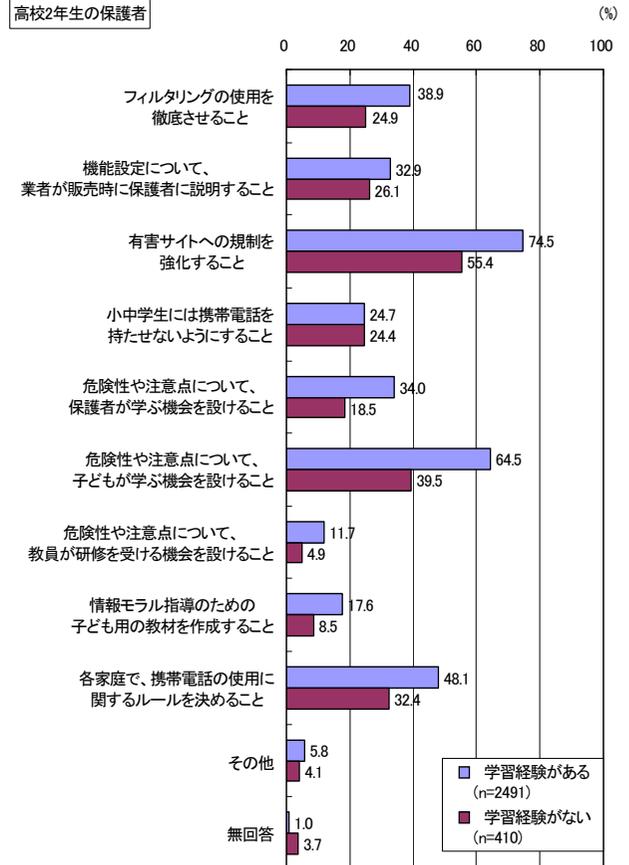
小学6年生の保護者



中学2年生の保護者

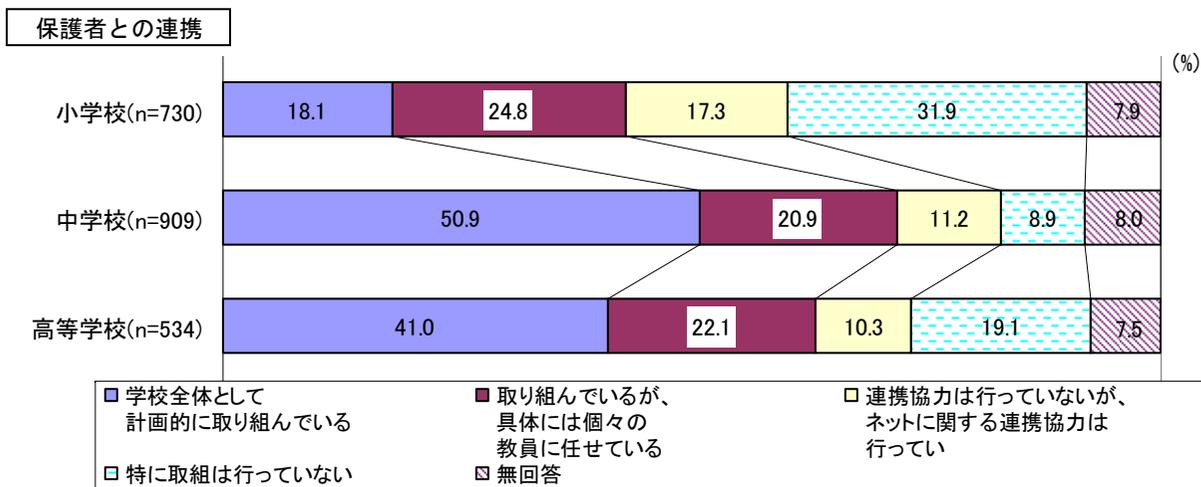
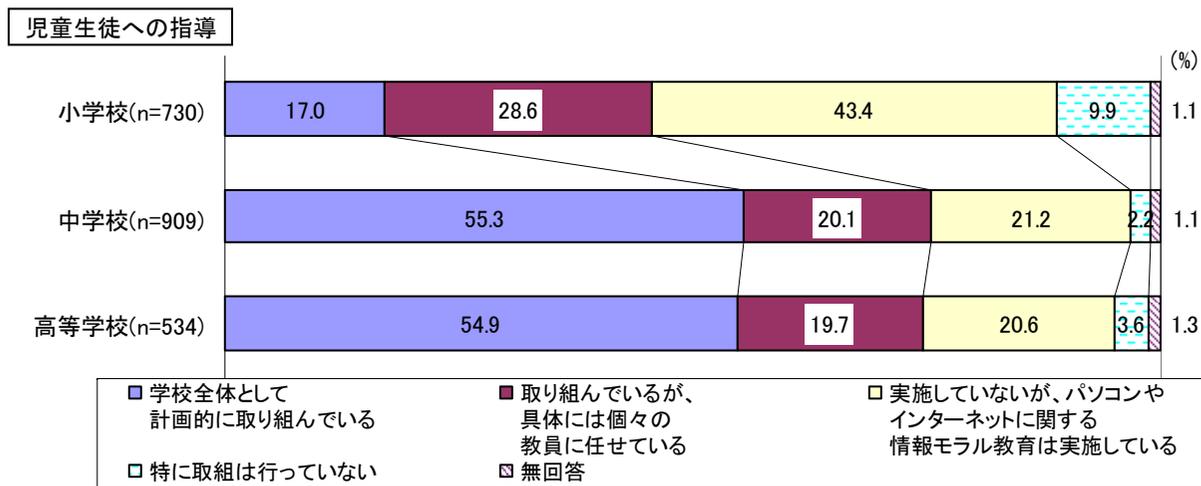


高校2年生の保護者



携帯電話の利用に関する教育の取組状況

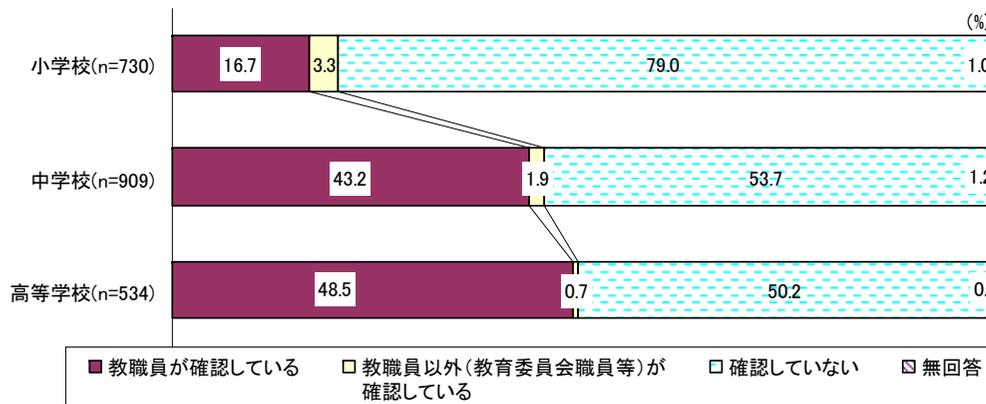
- ・ 児童生徒への指導で「学校全体として計画的に取り組んでいる」は、小学校17.0%、中学校55.3%、高等学校54.9%。
- ・ 保護者との連携で「学校全体として計画的に取り組んでいる」は、中学校が最も多い。



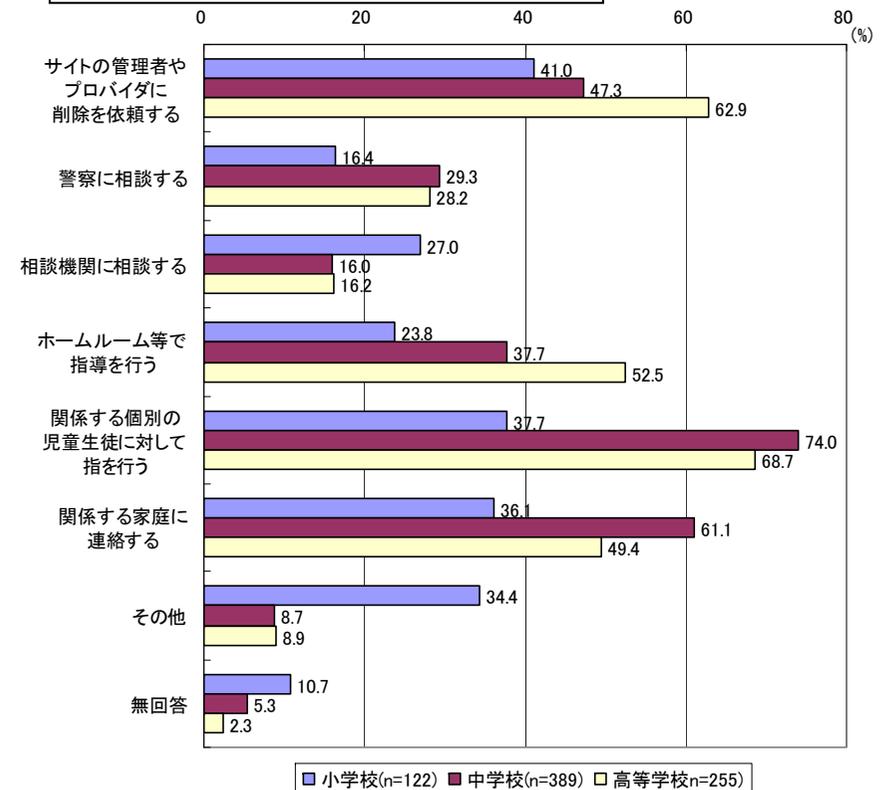
ネットパトロールの実施状況と対応状況

- ・小中高と進むにつれ「教職員が確認している」が増加し、高等学校では48.5%。
- ・問題ある書き込みを見つけた場合、「削除を依頼」「個別の児童生徒に指導」「関係する家庭に連絡」など様々な対応。

学校非公式サイトやプロフ等の書き込みの確認状況

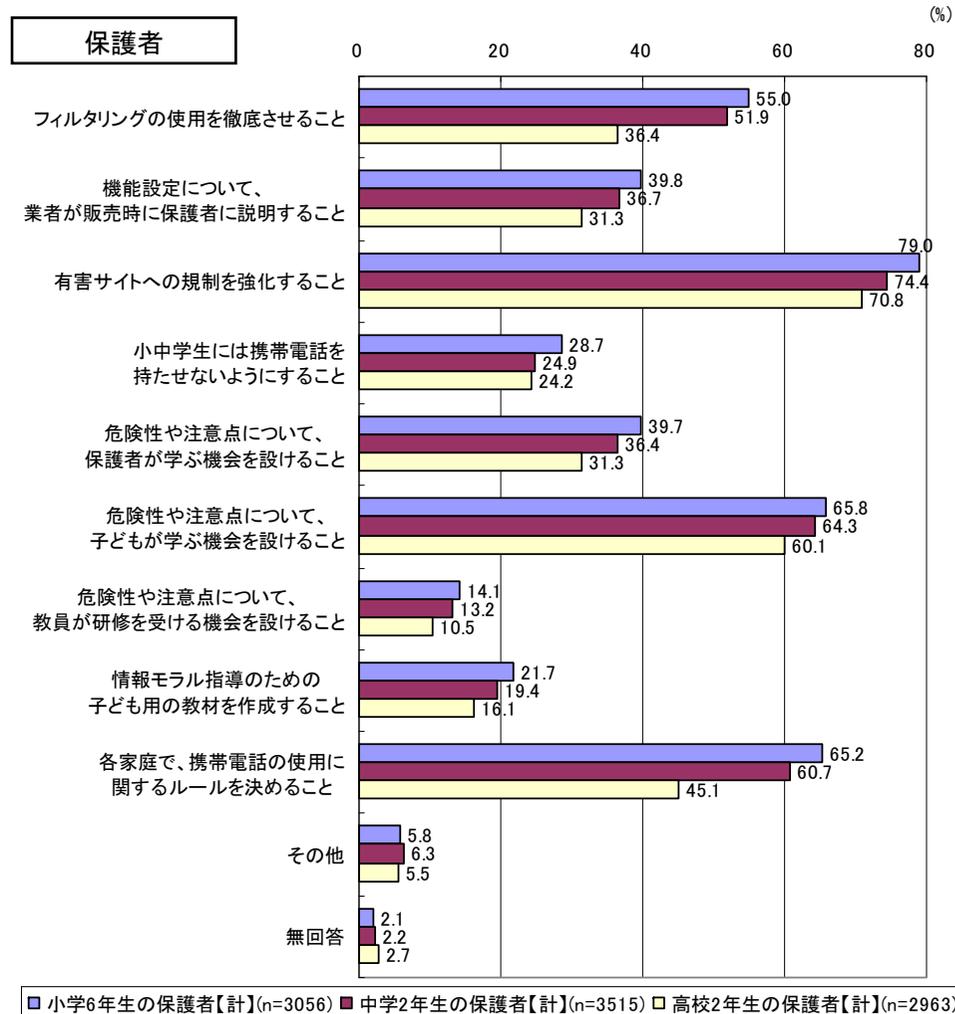
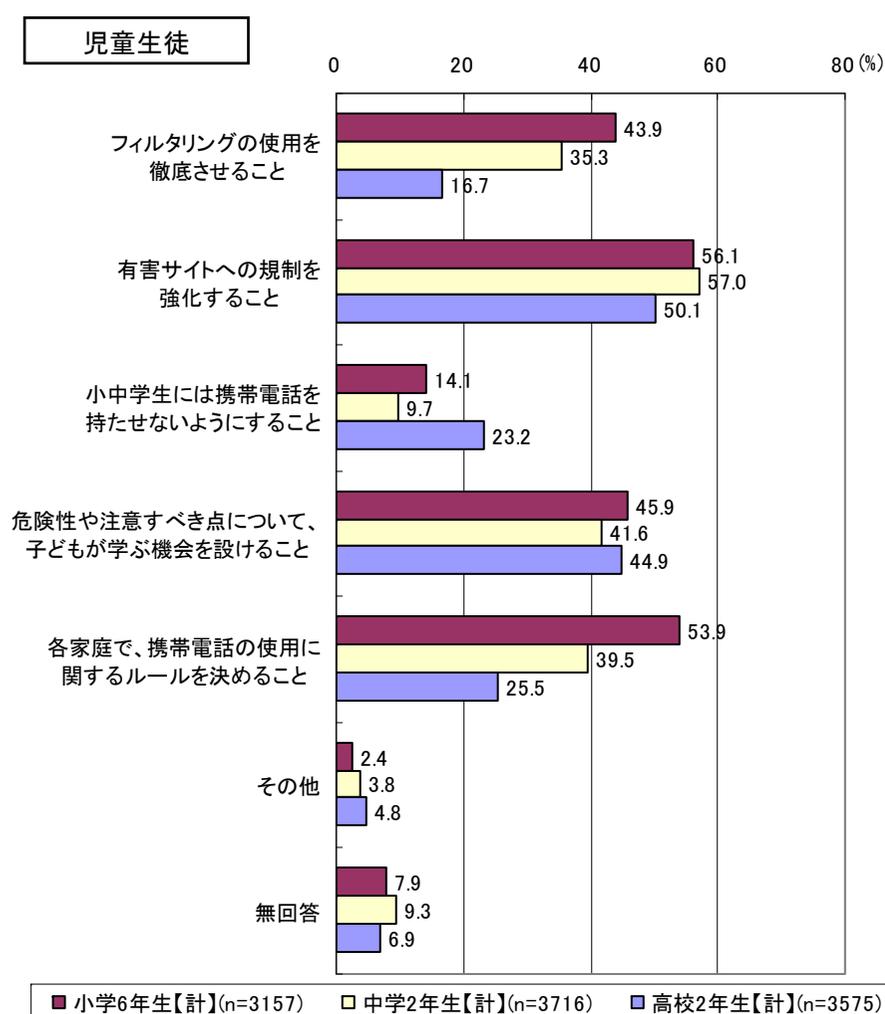


問題ある書き込みを見つけた場合の対応

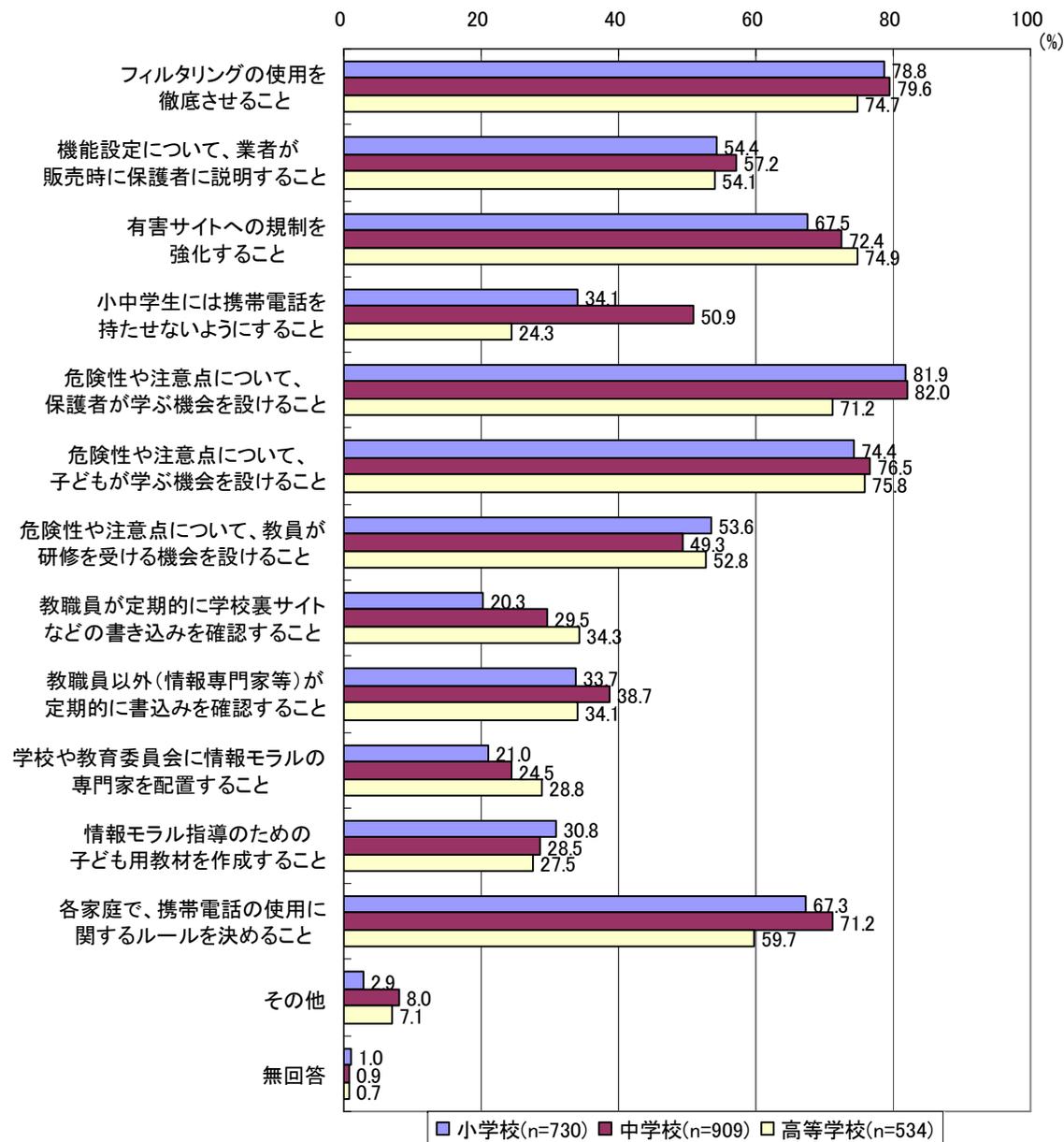


今後求める取組(子どもと保護者)

- ・「フィルタリングの使用を徹底させること」「有害サイトへの規制を強化すること」「危険性や注意すべき点について、子どもが学ぶ機会を設けること」が多い。
- ・子どもより保護者、保護者より学校の方が、取組を求める割合が多い。



今後求める取組(学校)



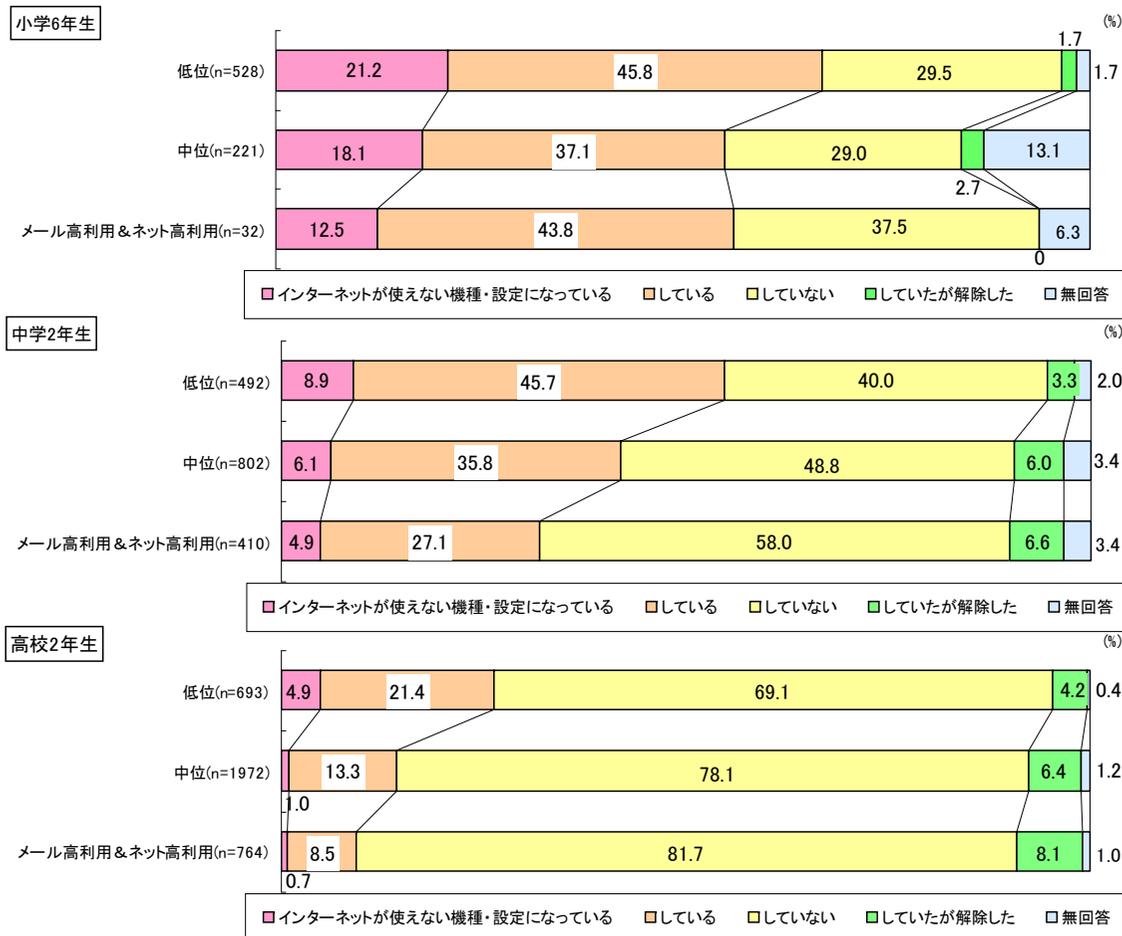
携帯電話の利用頻度の傾向別分析(フィルタリング使用率)

以下の区分により子どもをグループ化し、関連設問との集計・分析を実施。

(「携帯電話の一日平均メール送受信件数」と「携帯電話からの一日平均インターネット利用時間」について)

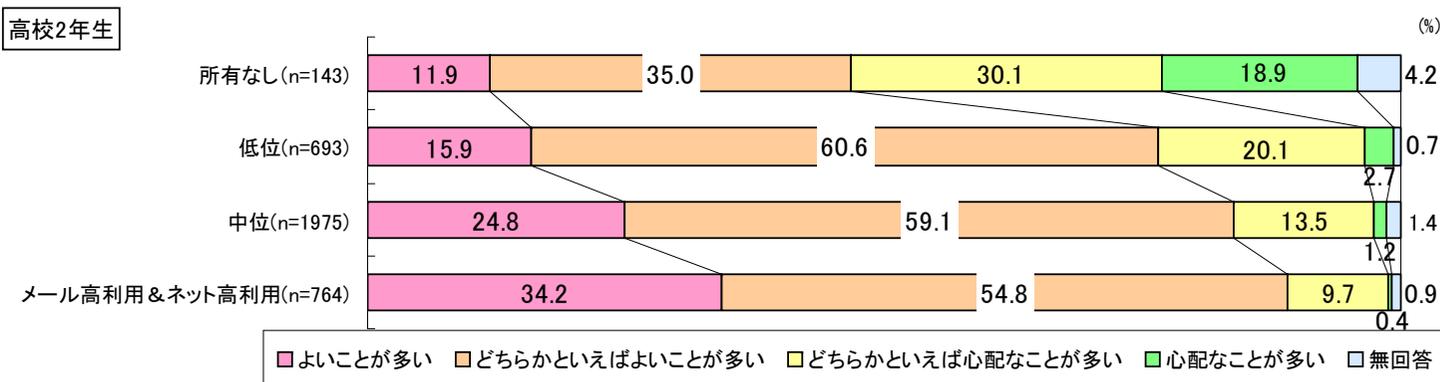
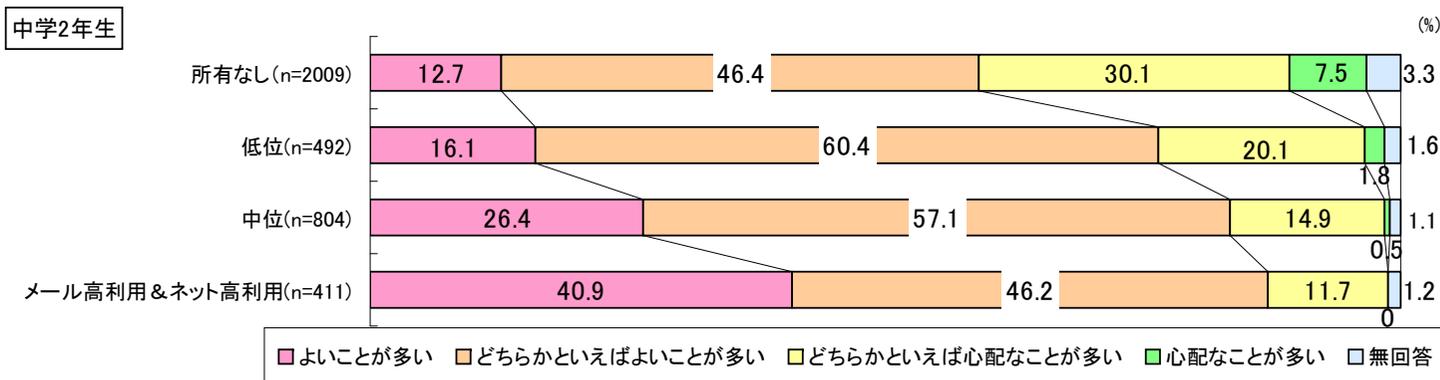
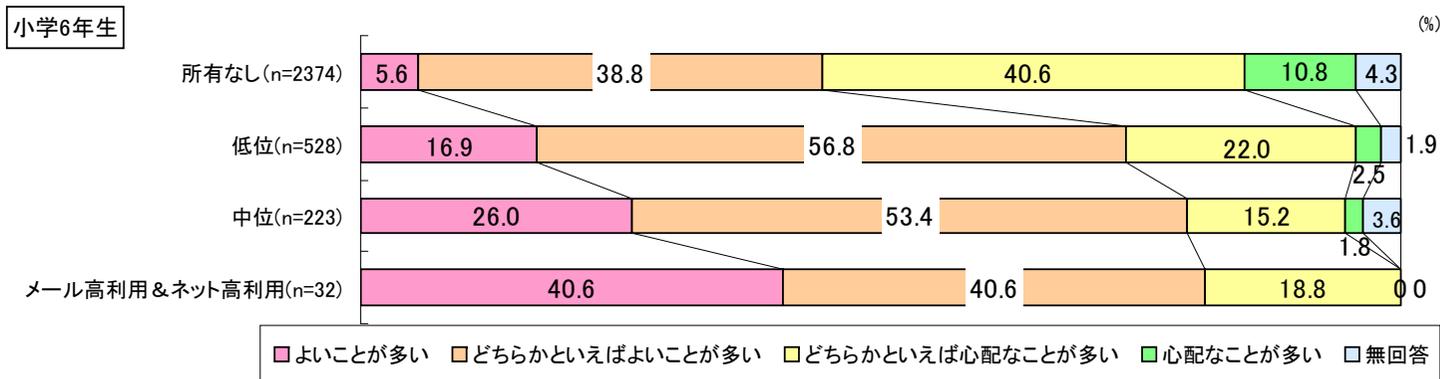
- ①メール50件以上またはインターネット3時間以上:「高」
- ②メール10件以上50件未満またはインターネット30分以上3時間未満:「中」
- ③メール10件未満かつインターネット30分未満:「低」
- ④携帯電話を所有していない:「なし」

・利用頻度が高いグループほど、インターネットを使えない機種・設定になっているかフィルタリングを使用している割合が少ない。



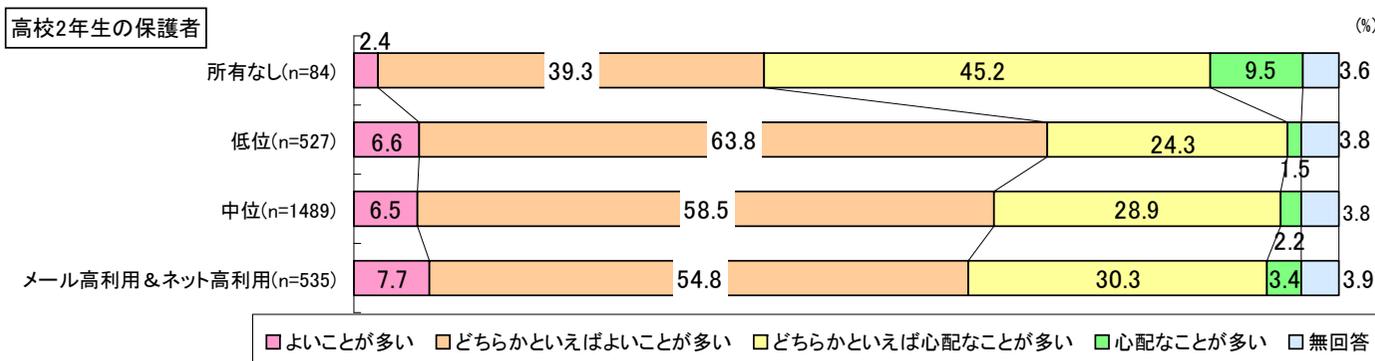
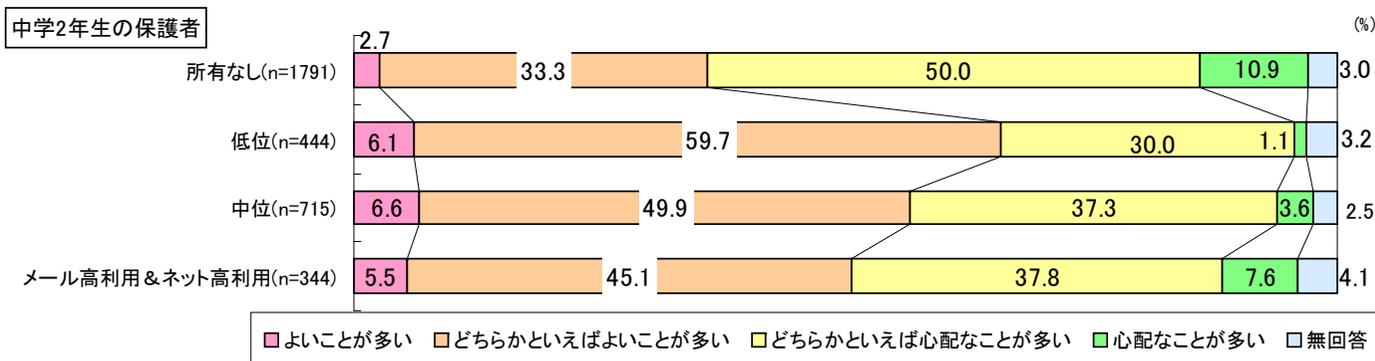
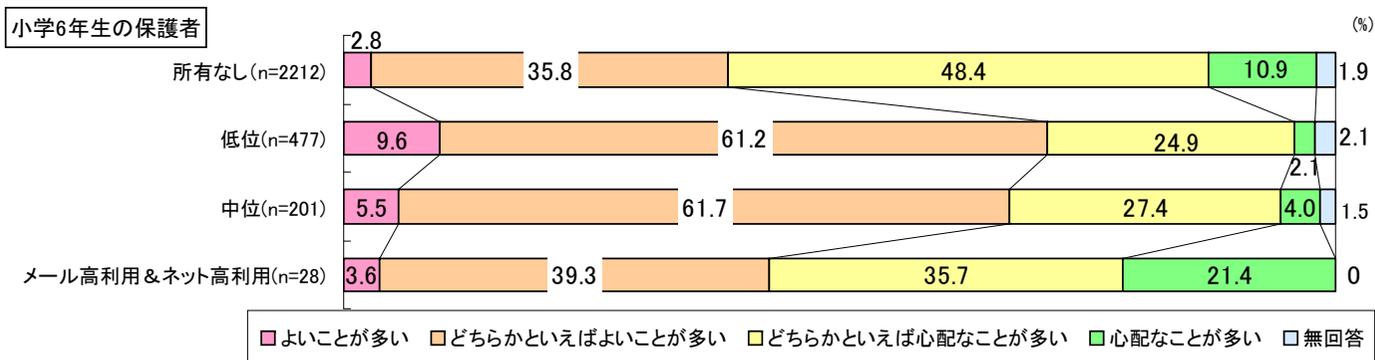
携帯電話の利用頻度の傾向別分析(携帯電話に対する子どもの評価)

・ 利用頻度が高いグループほど、携帯電話を積極的に評価する割合が多い。



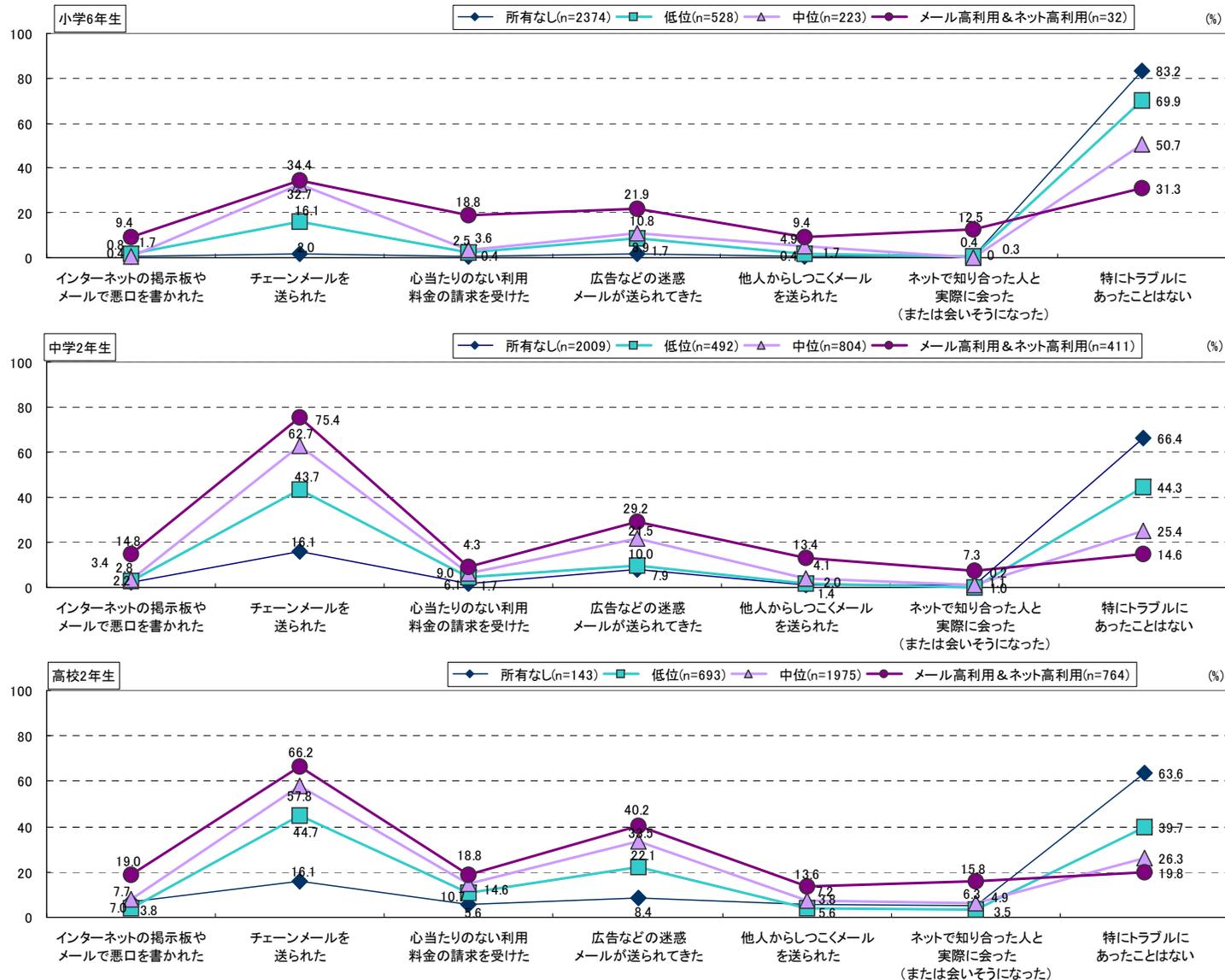
携帯電話の利用頻度の傾向別分析(携帯電話に対する保護者の評価)

- 子どもに持たせている保護者の中では、利用頻度の高い子どもの保護者のグループほど、携帯電話を積極的に評価する割合が少ない。



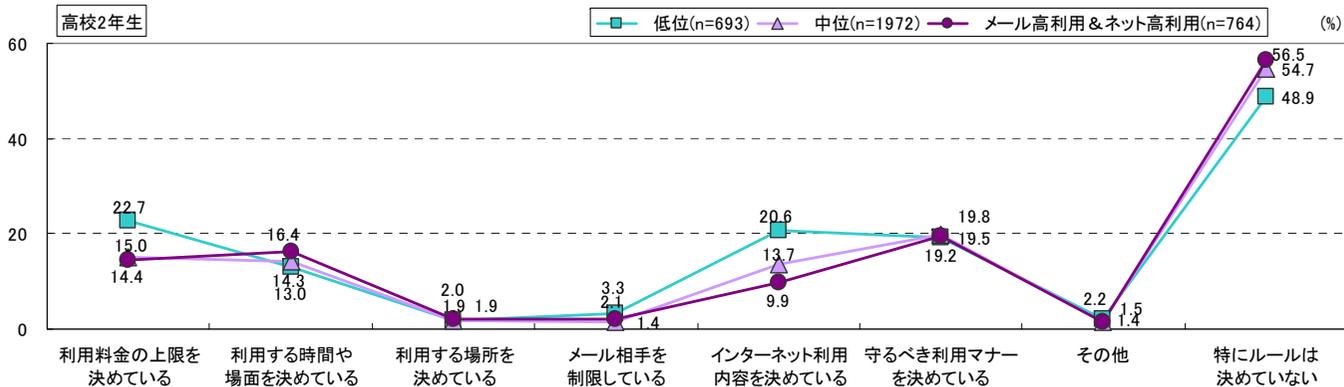
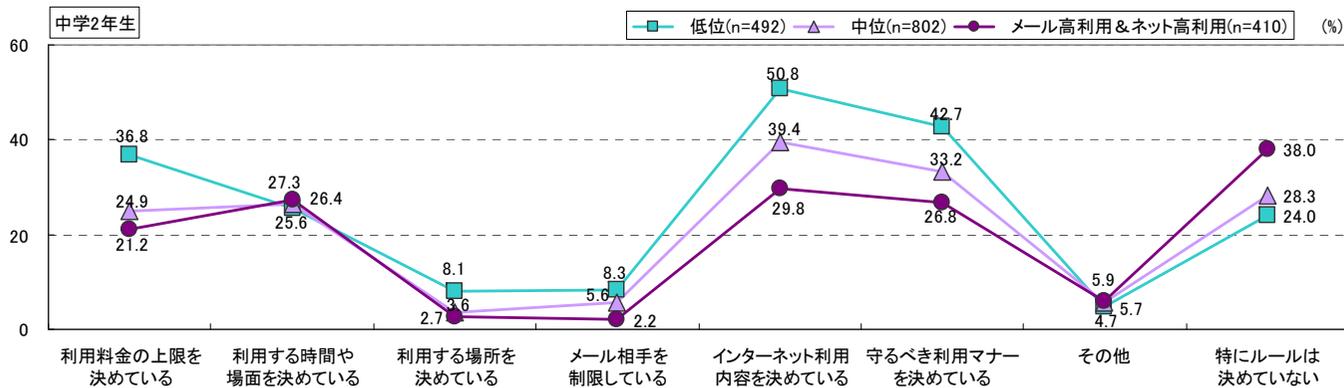
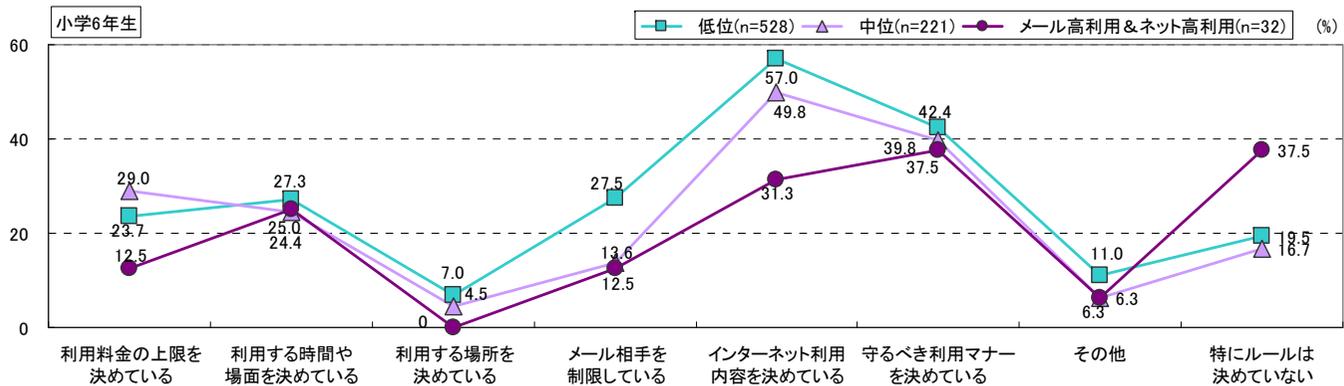
携帯電話の利用頻度の傾向別分析(トラブル経験)

・ 利用頻度が高いグループほど、「チェーンメールを送られた」等のトラブル経験がある。



携帯電話の利用頻度の傾向別分析(家庭でのルール)

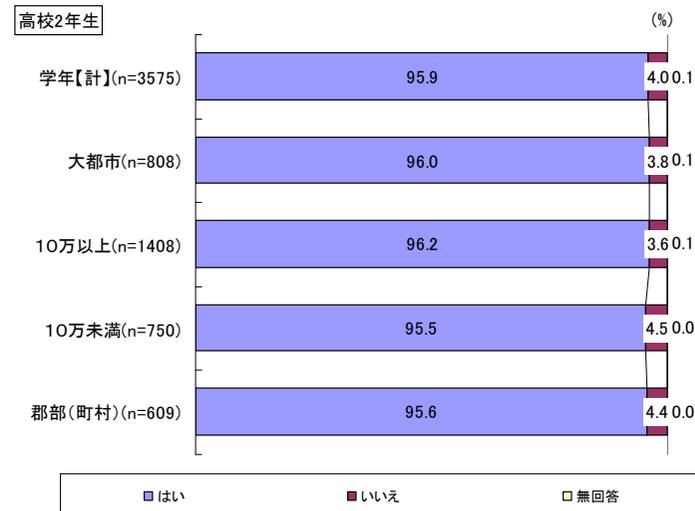
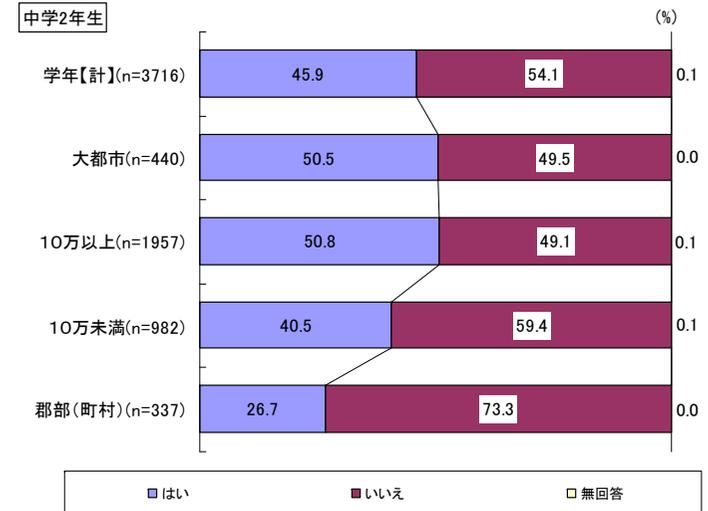
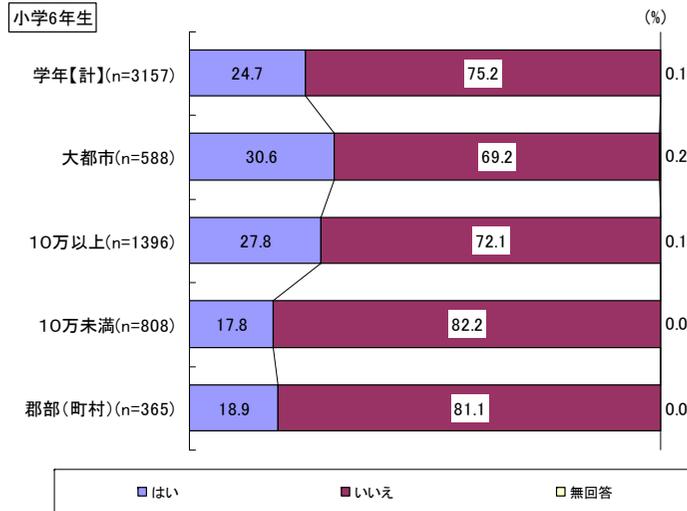
・ 利用頻度が高いグループほど、「特にルールは決めていない」と回答する割合が多い。



都市規模別による分析(携帯電話の所有状況)

- 携帯電話の所有状況は、小学6年生と中学2年生については、大都市（特別区（東京23区）および政令指定都市）の子どもの方が所有率が高い。高校2年生については、都市規模による違いはほぼ見られない。

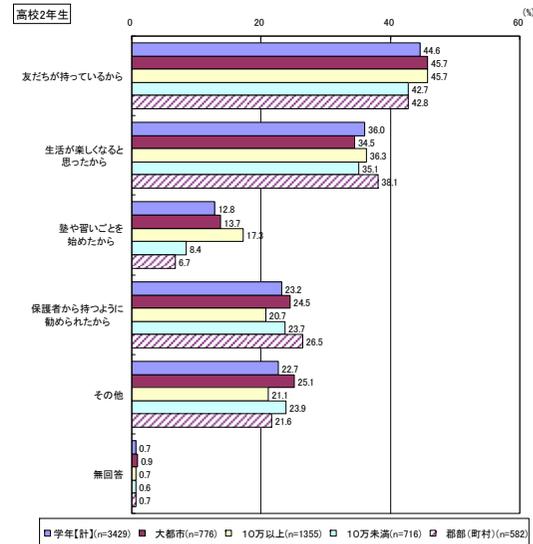
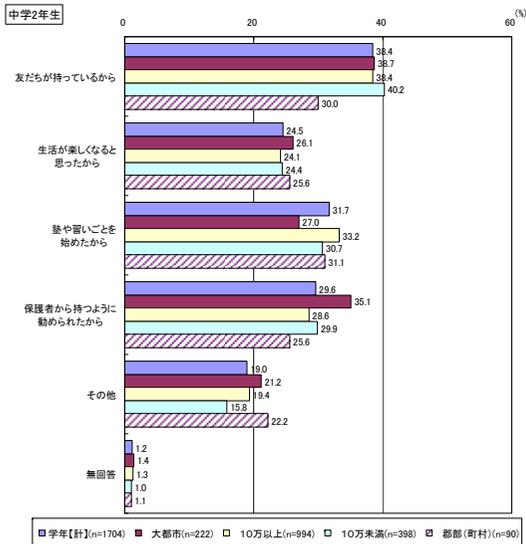
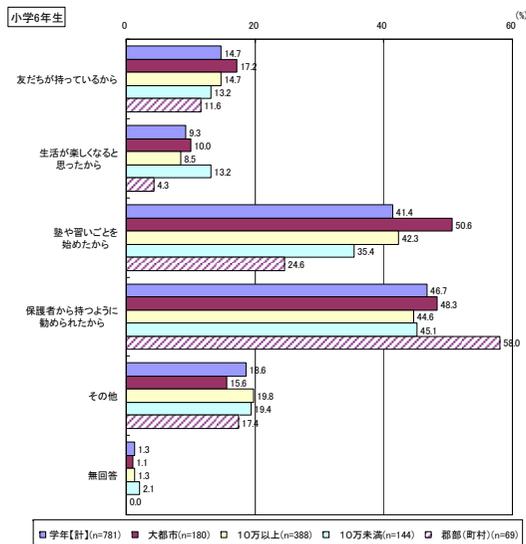
●携帯電話の所有状況(都市規模別)



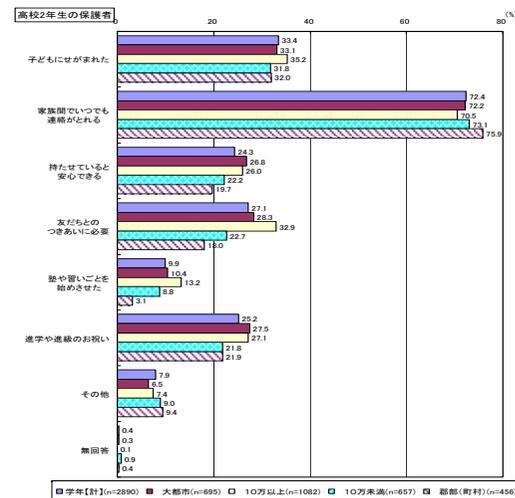
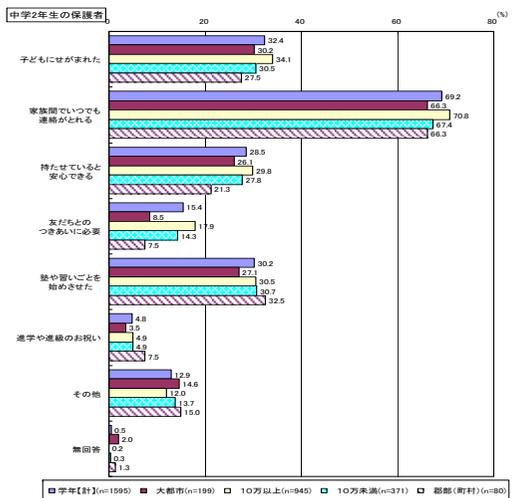
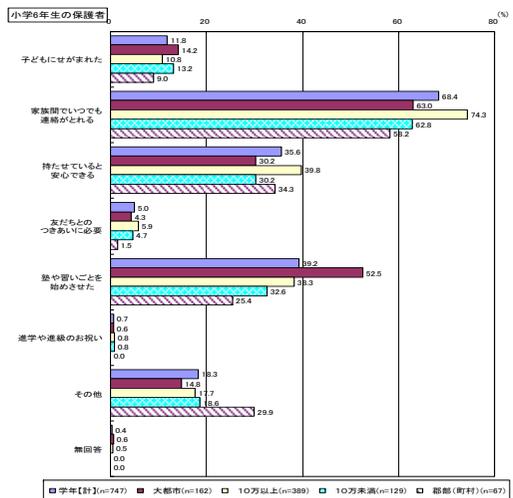
都市規模別による分析(携帯電話を持った／持たせた理由)

・携帯電話を持った理由／持たせた理由は、大都市では「塾や習い事を始めたから」が多い。

●携帯電話を持った理由(子ども)

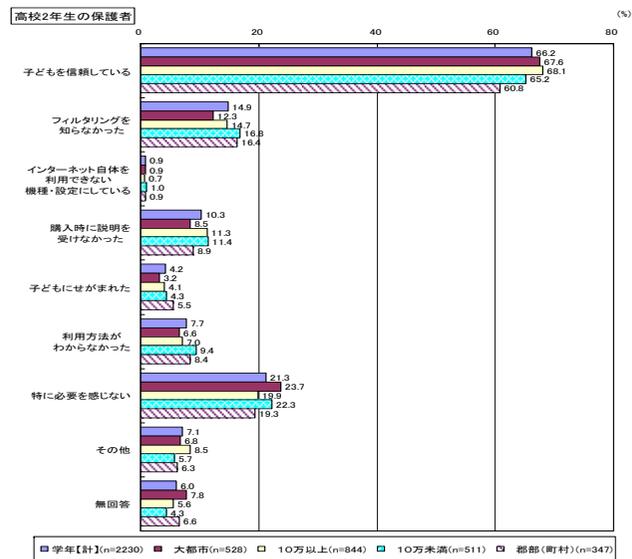
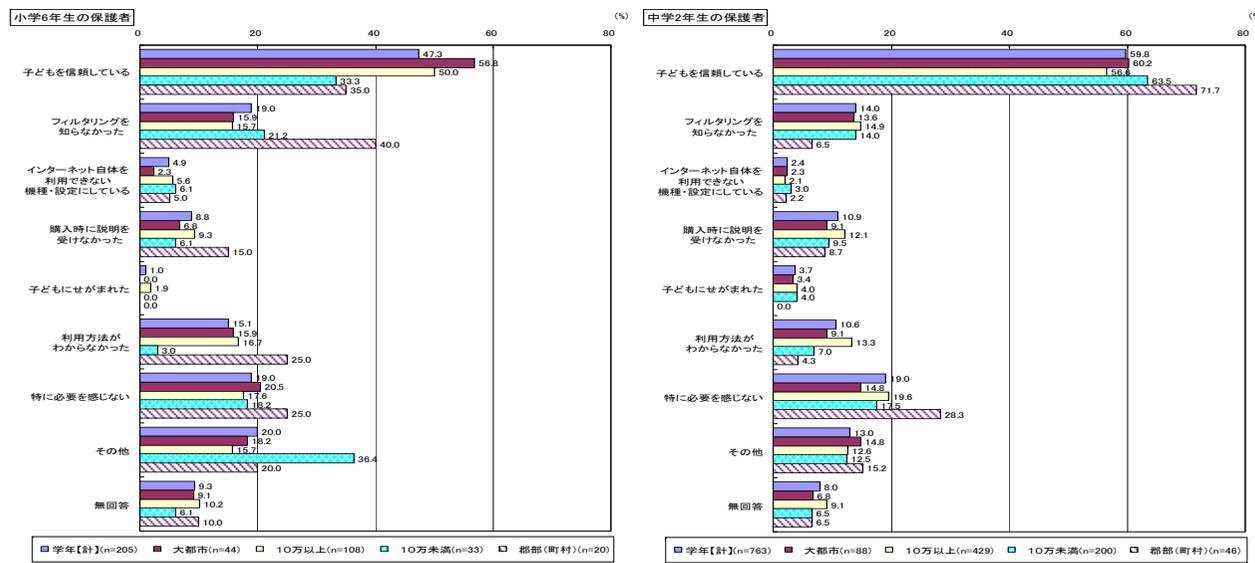


●携帯電話を持たせた理由(保護者)



都市規模別による分析(フィルタリングを使用していない理由)

・保護者に聞いたフィルタリングを使用していない理由は、郡部では「フィルタリングを知らなかった」「利用方法がわからなかった」が多い。



都市規模別による分析(インターネットの利用マナーに関する意識)

・インターネットの利用マナーについて、大都市の方が意識がやや高い傾向が見られる。

● 自分に来たチェーンメールを転送すること

